

第2回総合体育館基本構想検討委員会

日時：令和3年5月31日（月）
午後3時～
場所：ホテルウエルビューかごしま

会 次 第

1 開 会

2 議 事

（1）需要予測調査結果について

（2）施設の機能，規模・構成等の検討について

（3）その他

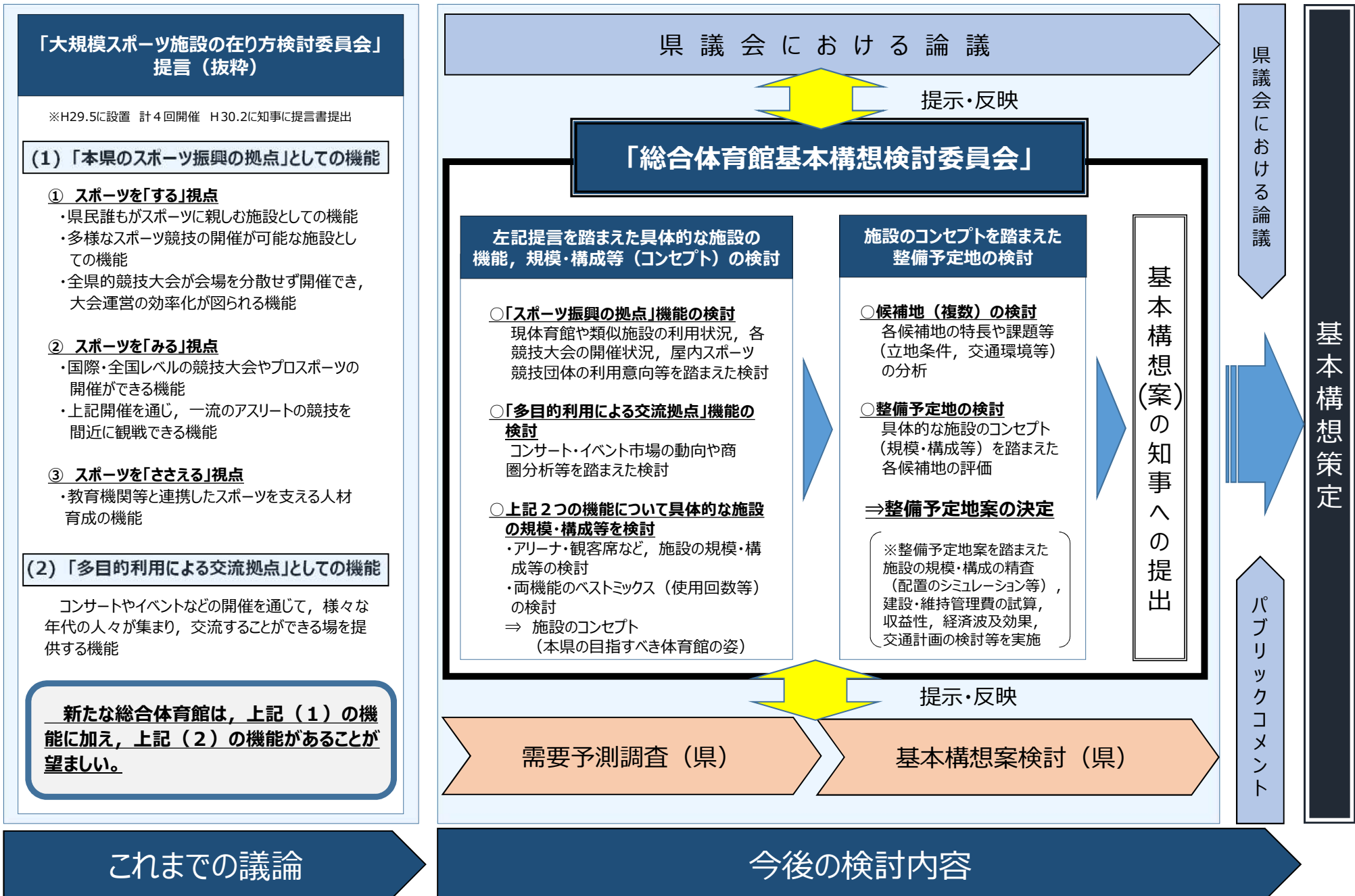
3 閉 会

第2回総合体育館基本構想検討委員会配布資料

鹿児島県総合政策部スポーツ施設対策室

- 新たな総合体育館の基本構想策定に向けた検討の進め方について 資料 1
- 新たな総合体育館の基本構想に盛り込む項目について（イメージ） 資料 2
- 新総合体育館の需要予測調査結果（メインアリーナ）について（イメージ） 資料 3
- 新総合体育館需要予測調査結果のポイント 資料 4
- 鹿児島県新総合体育館需要予測調査業務報告書 資料 5
- 第2回検討委員会の検討テーマ（レジュメ） 資料 6
- 基本構想策定支援事業について 資料 7
- 【参考資料】
 - 1 今後整備予定の県立体育館の基本構想等 資料 8
 - 2 第1回総合体育館基本構想検討委員会議事概要 資料 9

新たな総合体育館の基本構想策定に向けた検討の進め方について



新たな総合体育館の基本構想に盛り込む項目について (イメージ)

資料2

鹿児島県総合政策部スポーツ施設対策室

※現時点で想定される項目を記載。基本構想に盛り込む項目は検討委員会における今後の検討により決定

項目	内容	検討段階・時期
必要性	○現体育館の老朽化や狭隘の状況を踏まえた整備の必要性	<p>「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」における検討 (H30.2提言書を知事に提出)</p> <p>上記提言を踏まえた具体的な施設の機能、規模・構成等の検討 (R3.5~8)</p> <p>施設の機能、規模・構成を踏まえた整備予定地の検討 (R3.8~11)</p> <p>施設の機能、規模・構成及び整備予定地案を踏まえた基本構想案の検討 (R3.11~R4.1)</p>
機能	○新たな総合体育館に求められる機能 ・スポーツ振興の拠点としての機能 ・多目的利用による交流拠点としての機能 ○需要予測調査結果等を踏まえた上記各機能のバランス ○その他施設の活用方法	
規模・構成	○メインアリーナ, サブアリーナ, 柔剣道場, 弓道場など, 各施設構成毎の競技面数や観客席の規模	
整備予定地	○上記施設のコンセプト(機能, 規模・構成)を踏まえた候補地の検討 ⇒ 整備予定地(案)の決定	
規模・構成(精査)	○上記整備予定地案を踏まえた各施設構成毎の規模・構成の精査 ・大まかな延床面積の想定 ・駐車台数の想定	
施設配置	○施設配置(レイアウト)のシミュレーション ○動線計画(交通計画)	
事業費(収益性)	○上記施設規模や利用者数のシミュレーション等を踏まえた概算の事業費(建設費・維持管理費)及び収入の試算	
経済波及効果	○施設整備に伴う建設効果 ○施設運営(スポーツ利用及び多目的利用)に伴う経済効果	
整備スケジュール	○供用開始までの大まかな整備スケジュール	
整備・運営手法	○PFI等今後検討される整備・運営手法の整理	

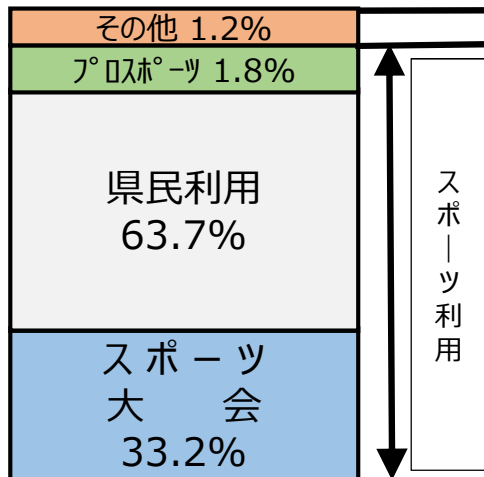
基本構想(案)の作成

新総合体育館の需要予測調査結果（メインアリーナ）について（イメージ）

現体育館の課題

- 築後60年以上経過し、老朽化が進んでいる。
- 全国・国際レベルの競技大会の開催には**狭隘**である。

- ・表中「%」は、現体育館及び新総合体育館それぞれの利用日数に占める利用形態の割合
- ・施設の規模について、一定の条件を仮置きの上、需要予測を実施

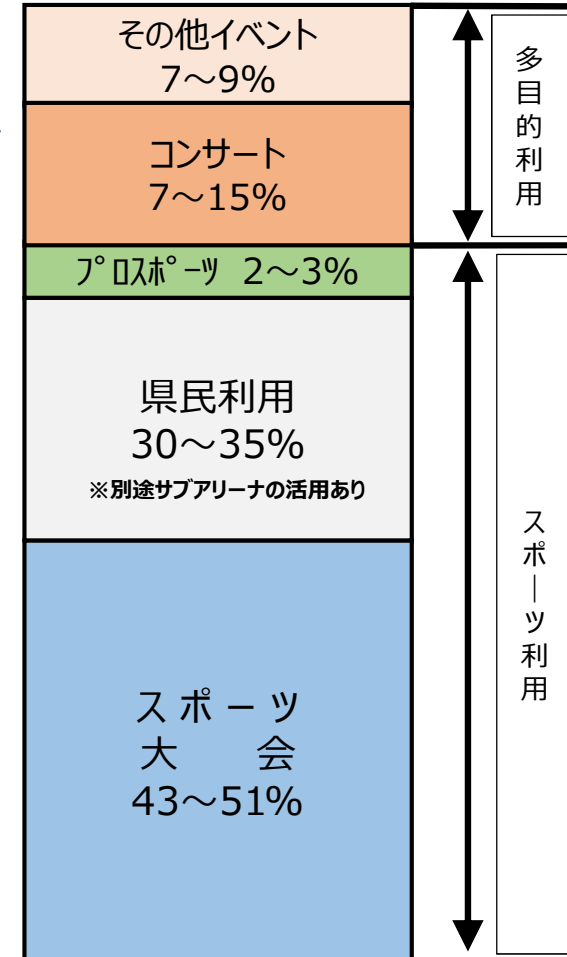


現体育館（メイン：バスケ2面）

利用者数：約10万人

大会のない時期に開催すると想定
コンサート・イベント等

現在他会場で実施されている
全国大会・県大会等



新総合体育館（メイン：バスケ4面）

利用者数：約20~33万人

多目的利用

13~24%

スポーツ利用

76~87%

99%

新総合体育館需要予測調査結果のポイント

I 「スポーツ振興の拠点」機能の調査編

第1章 類似施設の利用状況等の調査・分析

○ 全国の類似施設※62施設を対象に調査を実施

※「スポーツ振興の拠点としての機能」と「多目的利用による交流拠点としての機能」を備えた施設
そのうち、51施設（82%）から回答

（調査内容）

施設の規模・構成，利用状況，稼働率，開催された主なイベント等

（調査結果（抜粋））

1 調査対象施設

全国の屋内スポーツ・コンサート・イベント施設等のうち，最大収容人数が8千人（西日本は5千人以上）以上の施設等：62施設

⇒ 調査回答施設：51施設（うち整備済み：46施設 未整備：5施設）

2 主な類似施設における最大収容人数及び競技面数

施設名	最大 収容人数 (メイン)	アリーナ		武道施設		
		メイン (バスケット)	サブ (バスケット)	柔道場	剣道場	弓道場
北海道立総合体育センター	10,000	4	2	2	2	近12人
宮城県総合運動公園総合体育館	7,063	4	1	—	—	—
あづま総合体育館	6,000	3	1	—	—	—
群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	9,000	4	2	—	—	—
高崎アリーナ	6,015	4	1	2	2	—
有明アリーナ	15,060	3	2	—	—	—
東京体育館	10,000	4	2	—	—	—
武蔵野の森総合スポーツプラザ	10,000	4	2	—	—	—
いしかわ総合スポーツセンター	6,000	4	2	—	—	—
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	10,000	4	2	—	—	—
愛知県体育館	7,407	3	1	—	—	—
京都府立体育館	8,000	3	2	—	—	—
大阪府立体育会館	6,000	4	2	2	2	—
大阪市中央体育館	10,000	4	2	2	2	—
和歌山ビッグホール※	8,500	4	—	—	—	—
岡山県総合グラウンド体育館	5,084	4	1	—	—	—
広島県立総合体育館	10,001	4	2	4	4	近12人
大村市体育文化センター	5,000	3	1	—	—	—
熊本県立総合体育館	4,110	2	2	—	—	—
鹿児島アリーナ	5,700	3	2	2	2	近10人
全施設平均	9,477	3.45	1.59	2.3	2.3	—

※ 隣接の「和歌山ビッグウエーブ」にはバスケット2面のアリーナ及び柔剣道場計4面がある。

3 類似施設における利用状況（メインアリーナ）※ 全施設平均

日数稼働率	コマ数稼働率（平日）	コマ数稼働率（土日）
85.2%	77.5%	87.7%

4 主な類似施設における稼働率及び構成比（メインアリーナ）

施設名	稼働率	アマチュアスポーツ		プロスポーツ	スポーツ計	多目的利用		多目的利用計
		大会	その他			コンサート	その他	
高崎アリーナ	80%	28%	70%	1%	99%	1%	1%	2%
あづま総合体育館	100%	70%	25%	2%	97%	1%	2%	3%
鹿児島アリーナ	91%	66%	6%	18%	90%	1%	9%	10%
大阪府立体育会館	90%	30%	20%	40%	90%	5%	5%	10%
大村市体育文化センター	95%	70%	15%	0%	85%	0%	15%	15%
岡山県総合グリーン体育館	100%	70%	10%	5%	85%	0%	15%	15%
和歌山ビッグホエール	76%	40%	40%	0%	80%	10%	10%	20%
愛知県体育館	88%	50%	0%	25%	75%	25%	0%	25%
広島県立総合体育館	95%	60%	0%	0%	60%	20%	20%	40%
宮城県総合運動公園総合体育館	96%	29%	31%	0%	60%	37%	3%	40%
大阪市中央体育館	97%	50%	0%	10%	60%	10%	30%	40%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	85%	27%	26%	0%	53%	39%	8%	47%

5 類似施設で開催された主なイベント

- スポーツイベント
各種競技の全国大会・国際大会，Bリーグ・Vリーグ・Fリーグ等のプロスポーツ，大相撲等のスポーツ興行 等
- コンサート・その他イベント
コンサート，ショー（アイスショー，マーチングフェスティバル），その他イベント（展示会，学会，研修会）等

第2章 各種スポーツ大会の開催状況の調査・分析

- 中央競技団体及び県内競技団体に対し、新総合体育館（本施設）の利用意向について調査
 - ・ 中央17競技団体（17競技）
（調査内容）
開催が想定される全国大会等、開催に必要な条件（施設・立地）等
 - ・ 県内17競技団体（17競技）
（調査内容）
開催が想定される全国大会等、本施設での県大会等の利用意向、本施設に対する意見等

（調査結果（抜粋））

1 中央競技団体調査結果

- 利用意向のある中央競技団体：8団体
ボクシング、バレーボール、バスケットボール、ウェイトリフティング、ハンドボール、フェンシング、弓道、銃剣道
- 開催が想定される全国大会等：17大会
国際大会：3 全国大会：9 西日本大会：1 九州大会：4
- 上記大会の開催に必要な施設条件（主な意見）
サブアリーナ等のアップスペース、一定規模以上の観客席、その他諸室等
- 上記大会の開催に必要な立地条件（主な意見）
良好な交通アクセス、周辺の宿泊施設の充実等

2 県内競技団体調査結果

- 県内競技団体主催の各種大会：216大会（日数：371日 参加人数：約19万人）
- 本施設の利用意向
意向有：91大会 条件付利用意向有：111大会 計202大会
- 開催が想定される全国大会等
全国大会：35 西日本大会：1 九州大会：19 計55大会
- 本施設に対する意見（主なもの）
サブアリーナ等のアップスペース、各種大会の基準に適合した施設規模、会議室、更衣室等諸室の充実、競技用具の保管スペースの確保等

Ⅱ 「多目的利用による交流拠点」機能の調査編

第1章 国内のコンサート・イベント市場動向等の分析

- 国内のコンサート・イベント市場動向等について、各種データをもとに分析
 - 類似施設におけるコンサート・イベントの開催状況について、本施設と立地条件が類似する施設※における開催状況を分析
 - ・ あづま総合体育館（福島県）、静岡県小笠山総合運動公園アリーナ、和歌山ビッグホエール、岡山県総合グラウンド体育館等
- ※ 国内大都市圏の主要駅（博多駅等）から60～120分でアクセス出来る立地の施設

（調査結果（抜粋））

1 国内のコンサート市場動向等分析

- 国内におけるコンサート等公演数 : 31,889公演（2019年）
うち、九州エリア（沖縄県を除く）における公演数 : 2,458公演（ 〃 ）

※ 九州各県におけるコンサート等公演数（2019年）

福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
1,720	58	120	216	81	81	182

- 類似施設におけるコンサート開催状況（R元年度）
本施設と立地条件が類似する施設として、国内大都市圏の主要駅（博多駅等）から60～120分でアクセスできる立地の施設における開催状況を分析

※ 類似施設におけるコンサートの開催状況

施設名	県立	利用の割合
あづま総合体育館	○	1%
高崎アリーナ		1%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	39%
和歌山ビッグホエール	○	10%
岡山県総合グラウンド体育館	○	0%
大村市体育文化センター		0%
鹿児島アリーナ		1%
平均		7.4%（県立12.5%）

2 国内のその他イベント市場動向等分析

- 国内の国際会議開催件数 : 3,621件（2019年）
うち、中・大型国際会議 : 471件（ 〃 ）
- 国内の展示会・見本市開催規模 : 1,586万日㎡（2017年）
- コンベンション施設の現状分析
鹿児島県におけるコンベンション施設の現状分析を行うため、他の都道府県との比較を実施

※ 人口（千人）当たりのコンベンション施設収容人数の比較

i	人口（千人）当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約13.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	21,822人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差（ii－iii）	4,055人

※ 県内総生産（百億円）当たりのコンベンション施設収容人数の比較

i	県内総生産（百億円）当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約34.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	18,811人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差（ii－iii）	1,044人

○ 類似施設におけるその他イベント開催状況（R元年度）

本施設と立地条件が類似する施設として、国内大都市圏の主要駅（博多駅等）から60～120分でアクセスできる立地の施設における開催状況を分析

※ 類似施設におけるその他イベントの開催状況

施設名	県立	利用の割合
あづま総合体育館	○	2%
高崎アリーナ		1%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	8%
和歌山ビッグホール	○	10%
岡山県総合グラウンド体育館	○	15%
大村市体育文化センター		15%
鹿児島アリーナ		9%
平均		8.6%（県立8.8%）

第2章 民間事業者へのヒアリング調査

○ イベントやMICEの企画実績のある企業に対し、本施設の需要や誘致可能性について、ヒアリングを実施

（調査内容）

本施設の利用意向、想定されるイベント、望ましい条件、市場動向等

（調査結果（抜粋））

○ 民間事業者へのヒアリング調査結果

本施設でのイベント利用（プロスポーツ、コンサート・その他イベント等）の需要を把握するため、イベントやMICEの企画実績のある民間事業者7社に対し、ヒアリングを実施

[ヒアリング調査結果（主な意見）]

（利用意向）

- ・ コン서트については、立地、規模、設備などの条件を満たせば利用する。
- ・ 九州におけるコンサート開催の優先順位は福岡→熊本→鹿児島の順であるが、熊本には現在コンサート開催に適した施設がないことから鹿児島での開催の可能性が高い。

- ・ その他イベント利用に関しても、立地、規模、設備などの条件を満たせば利用の可能性がある。

(想定されるイベント)

- ・ スポーツ利用（Bリーグ、Vリーグ、eスポーツ）、興行利用（コンサート、サーカス等）、その他イベント利用（展示会、大会・集会、学会、インセンティブツアー、各種イベント）など

※ 開催頻度・開催日数に関する意見

	コンサート	その他イベント
開催頻度	年12件～5件	月1回以上の開催可能性ありとする意見の一方、月1回のイベントは難しいとの意見あり
開催日数	設営1～2日 公演1～2日 撤去1日（24時間作業可能であれば不要）	1～2日

(望ましい条件)

- ・ アリーナツアーなどの大規模なイベントの場合、九州や全国からのアクセスが重要となる。
- ・ 宿泊施設や商業施設が近くにあることが望ましい。
- ・ コン서트、その他イベント（MICE等）の両方を誘致する場合は8,000席以上の規模の施設とすることが望ましい。
- ・ 床材については、スポーツ利用の観点からは木床、コンサートやMICE利用を促進する観点からはコンクリート床が望ましい。
- ・ コン서트利用に当たっては十分な天井高が望ましい。
- ・ 鹿児島島の立地等も踏まえた施設利用料金を設定してほしい。
- ・ 2年以上前からの予約ができるようにしてほしい。

(市場動向)

- ・ 新型コロナウイルスの影響によるコンサート開催数の減少は一時的なものであり、いずれワクチンの開発等によりコンサート開催数は回復することが見込まれる。
- ・ その他イベントについて、オンライン開催やオンラインとリアルのミックスでの開催等の多様化が進み、施設の利用のされ方が変わる可能性があるが、イベント全体の需要は増加することが見込まれる。

Ⅲ 需要予測編

第1章 新総合体育館の需要予測等

○ I～IIの調査結果や現体育館の利用状況を踏まえ、本施設の需要予測を実施

○ 予測に当たっては、類似施設の状況等を踏まえ諸条件を設定

(施設の規模・構成)

次のとおり県工業試験場跡地のシミュレーション(H30.11)時における規模・構成を仮置き

- ・メインアリーナ：バスケ4面，観客席8千席程度
- ・サブアリーナ：バスケ1面
- ・柔剣道場：各3面
- ・弓道場：近的(12人立)，(遠的利用も可)

(立地)

類似施設の状況を踏まえ、国内大都市圏の主要駅(博多駅等)から60分～120分でアクセスできる立地を設定

(国内大都市圏の主要駅から60分～120分でアクセスできる類似施設)

施設名	立地市	人口	交通アクセス	県立
あづま総合体育館	福島市	28万人	仙台駅から車で75分	○
高崎アリーナ	高崎市	37万人	東京駅から新幹線で70分	
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	袋井市	9万人	名古屋駅から新幹線で90分	○
和歌山ビッグホール	和歌山市	37万人	大阪駅から車で70分	○
岡山県総合グラウンド体育館	岡山市	71万人	広島駅から新幹線で60分	○
大村市体育文化センター	大村市	10万人	博多駅から車で100分	
鹿児島アリーナ	鹿児島市	60万人	博多駅から新幹線で110分	

※ 今回調査で回答のあった51施設のうち、本県と立地条件が類似する7施設を抽出

※ 政令指定都市：岡山市

中核市：福島市，高崎市，和歌山市，鹿児島市

※ なお、これらの条件については、今後の検討の中で具体的に決定されていくことから、予測結果はある程度幅があるものとなった。

《 需要予測結果 》

- ・ 施設の稼働率については、メインアリーナで概ね79%～94%程度
- ・ 利用の割合については、スポーツ利用が概ね76%～87%、多目的利用が概ね13%～24%
- ・ 利用者数については、概ね28万人～41万人（メインアリーナ:概ね20～33万人）

①各施設毎の利用日数及び稼働率

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	285～338日	313～355日	281～317日	292～328日	262～298日
稼働率	79～94%	87～99%	78～88%	81～91%	73～83%

②用途別構成比（利用割合）※メインアリーナ

	アマチュアスポーツ		プロスポーツ	スポーツ利用計	多目的利用		多目的利用計
	スポーツ大会	県民利用			コンサート	その他	
日数	139～153日	100日	6～9日	245～262日	20～48日	20～28日	40～76日
割合	43～51%	30～35%	2～3%	76～87%	7～15%	7～9%	13～24%

（稼働率及び構成比の考え方）

1 各施設毎の利用日数及び稼働率

- ・ 「Ⅰ「スポーツ振興の拠点」機能」及び「Ⅱ「多目的利用による交流拠点」機能」の調査結果及び現体育館の利用状況を踏まえ、メインアリーナ、サブアリーナ等ごとに年間利用日数を算出
- ・ 施設の年間開館日数と、メインアリーナ、サブアリーナなど、各施設それぞれの年間利用日数から各施設毎の稼働率を算出

2 用途別構成比（利用割合） ※メインアリーナ

- ・ Ⅰ～Ⅱの調査結果及び現体育館の利用状況を踏まえ、アマチュアスポーツ（全国・県大会等、その他県民利用）及びプロスポーツによるスポーツ利用と、コンサート及びその他イベントによる多目的利用の年間利用日数を算出
- ・ 施設の年間開館日数と、スポーツ、多目的利用、それぞれの年間利用日数から、各利用形態ごとの割合を算出

（算出方法）※メインアリーナ

利用形態	考え方
スポーツ大会	<p>○県大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内競技団体から利用意向が示された大会について、その規模や開催日程等を考慮し利用日数を算出 ⇒ 137日（上位予測） ・ このうち、「実際の利用は新しい体育館の姿を見なければ分からない」と回答した大会を除いた。 ⇒ 125日（下位予測） <p>○全国大会、九州大会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央競技団体、県内競技団体からの利用意向を踏まえ、全国大会や九州大会等の利用日数を算出 ⇒ 16日（上位予測） ・ 中央競技団体の利用意向を踏まえるとともに、県内競技団体からの利用意向のうち特に実現可能性の高い九州大会の開催を想定し、利用日数を算出 ⇒ 14日（下位予測）

利用形態	考え方
県民のスポーツ利用	○現体育館の利用状況（R元年度：200日）に本施設整備後のサブアリーナの利用を加味するとともに、類似施設の状況を踏まえ、利用日数を算出 ⇒ 100日
プロスポーツ利用	○「鹿児島レブナイズ」の現体育館におけるホームゲームの開催回数（R元年度：6日）及び将来のVリーグでの利用（3日程度）も見込み利用日数を算出 ⇒ 9日（上位予測） ※ このうち、実現可能性の高い「鹿児島レブナイズ」の利用を想定 ⇒ 6日（下位予測）
コンサート利用	○プロモーター等へのヒアリング結果や類似施設の開催状況等を踏まえ、利用日数を算出 ①ヒアリング結果：年12件～5件 日数換算：48日～20日（1件当たりの日数：4日） ②類似施設の開催状況：年10.1件～6.0件 日数換算：40.5日～24.0日 ※①～②を踏まえ、上位予測：48日（年12件）、下位予測：20日（年5件）に設定
その他イベント利用 [想定されるイベント] ・学会（ポスターセッション、学術総会） ・インセンティブツアー ・集会（入学式、卒業式） ・各種イベント（就活サミット）	○プロモーター等へのヒアリング結果や類似施設の開催状況等を踏まえ、利用日数を算出 ①ヒアリング結果 月1回以上のイベント開催の可能性ありとする意見がある一方、月1回のイベントは難しいとの意見あり。 ②類似施設の開催状況：年14.3件～14.0件 日数換算：28.5日～27.9日（1件当たりの日数：2日） ※①～②を踏まえ、上位予測：28日（年14件）、下位予測：20日（年10件）に設定

（参考1）類似施設（各主要駅から60～120分）における開催状況（R元年度）（再掲）

施設名	県立	コンサート	その他イベント
あづま総合体育館	○	1%	2%
高崎アリーナ		1%	1%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	39%	8%
和歌山ビッグホール	○	10%	10%
岡山県総合グラウンド体育館	○	0%	15%
大村市体育文化センター		0%	15%
鹿児島アリーナ		1%	9%
平均		7.4%（県立12.5%）	8.6%（県立8.8%）

①コンサートの利用日数

全施設：324日※¹（年間稼働日数）×7.4%＝24.0日（6.0件※²）

県立：324日（年間稼働日数）×12.5%＝40.5日（10.1件）

②その他イベントの利用日数

全施設：324日（年間稼働日数）×8.6%＝27.9日（14.0件※³）

県立：324日（年間稼働日数）×8.8%＝28.5日（14.3件）

※1 年間稼働日数は、類似施設の平均稼働率（88.4%）から算出

※2 利用件数は1件当たり4日で換算 ※3 利用件数は1件当たり2日で換算

(参考2) 現体育館の利用実績 ※年間稼働日数328日 (稼働率: 91%)

利用形態	日数	割合	内容
①アマ (国際・全国大会等)	2	0.6%	西日本空手道選手権
②アマ (県大会等)	107	32.6%	各種県大会等
③アマ (県民利用等)	209	63.7%	一般利用, 競技教室等
④プロ (スポーツ興行)	6	1.8%	レブナイズ公式戦
⑤その他 (スポーツ利用以外)	4	1.2%	鹿大入学式, 県戦没者追悼式
計	328	100%	

(参考3) 主な類似施設における稼働率及び構成比 (メインアリーナ) (再掲)

施設名	稼働率	アマチュアスポーツ		プロスポーツ	スポーツ計	多目的利用		多目的利用計
		大会	その他			コンサート	その他	
高崎アリーナ	80%	28%	70%	1%	99%	1%	1%	2%
あづま総合体育館	100%	70%	25%	2%	97%	1%	2%	3%
鹿児島アリーナ	91%	66%	6%	18%	90%	1%	9%	10%
大阪府立体育会館	90%	30%	20%	40%	90%	5%	5%	10%
大村市体育文化センター	95%	70%	15%	0%	85%	0%	15%	15%
岡山県総合グランド体育館	100%	70%	10%	5%	85%	0%	15%	15%
和歌山ビッグホエール	76%	40%	40%	0%	80%	10%	10%	20%
愛知県体育館	88%	50%	0%	25%	75%	25%	0%	25%
広島県立総合体育館	95%	60%	0%	0%	60%	20%	20%	40%
宮城県総合運動公園総合体育館	96%	29%	31%	0%	60%	37%	3%	40%
大阪市中央体育館	97%	50%	0%	10%	60%	10%	30%	40%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	85%	27%	26%	0%	53%	39%	8%	47%

(利用者数算出の考え方)

前述の利用日数をベースに、競技団体への調査結果、現体育館の利用状況、類似施設の状況等を踏まえ、施設全体の利用者数を算出

(算出方法) ※ メインアリーナ

利用形態	利用日数	考え方
県大会	上位予測: 85,784人 下位予測: 80,769人	県内競技団体への利用意向調査結果 (R元年度実績)
全国大会等	九州大会: 251人/日 全国大会等: 558人/日	全国競技団体への調査結果 (R元年度実績)
プロスポーツ利用	2,938人 (レブナイズ) 2,000人/日 (Vリーグ)	・鹿児島レブナイズ公式戦 (4試合) 来場者数 (2019~2020シーズン実績) ・Vリーグ平均観客数 (2018~2019実績)
県民のスポーツ利用	79人/日	現体育館における年間利用者数から、各種競技大会、スポーツ興行、スポーツ以外の利用を差し引いた上で、その他利用の日数 (209日) で割り返した数値 (R元年度実績)
コンサート利用	8,000人/日	プロモーター等への調査結果を踏まえ、1日当たり8千人を想定
その他イベント利用	2,000人/日	プロモーター等への調査結果を踏まえ、1日当たり2千人を想定
計	195,038人~325,169人	

(参考) 主な類似施設における利用者数

施設名	令和元年度		平成30年度	
	利用者数	利用収入	利用者数	利用収入
宮城県総合運動公園総合体育館	490千人	209,771千円	565千人	252,411千円
あづま総合体育館	118千人	11,551千円	93千人	2,075千円
高崎アリーナ	269千人	45,805千円	274千人	33,699千円
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	386千人	161,248千円	618千人	227,538千円
愛知県体育館	718千人	184,794千円	563千人	146,323千円
和歌山ビッグホール	276千人	62,995千円	—千人	—千円
大阪市中央体育館	663千人	241,844千円	772千人	267,873千円
岡山県総合グラウンド体育館	299千人	57,282千円	300千人	51,324千円
大村市体育文化センター	305千人	—千円	303千人	—千円
熊本県立総合体育館	258千人	78,518千円	315千人	81,508千円
鹿児島アリーナ*	365千人	—千円	279千人	—千円

※ 鹿児島アリーナの令和元年度利用者数には全国高校総体関係の約6万人を含む。

第2章 大まかな施設の規模・構成の検討

- 需要予測に当たっては、諸条件として、次のとおり県工業試験場跡地のシミュレーション（H30.11）時における規模・構成を仮置き
 - ・メインアリーナ：バスケ4面，観客席8千席程度
 - ・サブアリーナ：バスケ1面
 - ・柔剣道場：各3面
 - ・弓道場：近的（12人立），（遠的利用も可）

- これら施設の規模・構成については、今後、「総合体育館基本構想検討委員会」において、具体的に検討されることとなる。

- ここでは、同委員会の今後の検討に資するため、以下の論点を整理した。

論点1：施設構成の組み合わせパターン

⇒ メイン・サブアリーナ，柔剣道場，観客席の各施設構成で想定されるパターンをメリット・デメリットと合わせて整理

論点2：施設全体の組み合わせパターン

⇒ 論点1で整理した各施設構成の組み合わせパターンのメリット・デメリットや、類似施設の状況等を踏まえ、施設全体の組み合わせパターンを整理

《 今後の論点 》

(1) 施設構成の組み合わせパターン

各施設構成で想定されるパターンと考えられるメリット・デメリットを整理

① メインアリーナ・サブアリーナ

今回調査回答のあった類似施設のほぼ全てにおいて、メインアリーナがバスケット4面又は3面、サブアリーナが2面又は1面となっている。

なお、メインとサブでトータルの面数が変わらなければ、利用日数及び稼働率はほぼ同様と考えられる。

メイン	サブ	メリット・デメリット
バスケット 4面	バスケット 1面	○大会時に4試合ずつ開催でき、運営がしやすい。
	バスケット 2面	○上記に加え、アップスペースや関係者の控え室としての活用が容易 ○サブで開催できる大会が増える。 ●整備費用・維持管理費用が大きくなる（費用は延床面積に比例する）。
バスケット 3面	バスケット 2面	○「みるスポーツ」を行う際には観客席からの距離が近い。 ●大会時に、試合数が奇数となり、運営がしにくい。

② 柔剣道場

今回調査回答のあった類似施設では、柔剣道場各4面（計8面）～各2面（計4面）となっており、ほとんどが各2面となっている。

各4面は1施設のみであることから、今回は各3面と各2面の場合のメリット・デメリットを整理

なお、大会の需要については、規模の大きい大会の際にはメインアリーナ又はサブアリーナを使用すると考えられることから、面数を各2面（計4面）確保できれば大きな影響はないと考えられる。

	メリット・デメリット
柔剣道場 各3面 (計6面)	○一度に6試合ずつ開催でき、規模の大きい大会を実施しやすい。 ※ ただし、競技面数については、県大会レベル：4面、全国大会：8面が一般的 ●整備費用・維持管理費が各2面に比べ大きくなる（費用は延床面積に比例する）。
柔剣道場 各2面 (計4面)	○整備費用・維持管理費が各3面に比べ小さくなる（費用は延床面積に比例する）。

(整備費用・維持管理費について)

整備費用・維持管理費については、一般的に延床面積に比例すると考えられる。

延床面積は、規模・構成等により、施設毎に異なることから、単純に比較することは困難である。このようなことから、今回は、類似施設のフロア面積の比較を行ったところ、下記のような傾向であった。

1 サブ1面と2面のフロア面積

サブアリーナのコート面数1面の施設と2面の施設を比較すると、フロア面積が1.48倍(②/①)であった。

サブ1面のフロア面積の平均 955㎡・・・①

サブ2面のフロア面積の平均 1,411㎡・・・②

【サブ1面の施設[9]】

仙台市体育館，高崎アリーナ，大阪府立門真スポーツセンター，神戸総合運動公園体育館，高松市総合体育館，あづま総合体育館，愛知県体育館，大村市体育文化センター，宮城県総合運動公園総合体育館

【サブ2面の施設[7]】

福岡市総合体育館，東京体育館，豊田市総合体育館，大阪府立体育会館，大阪市中央体育館，広島県立総合体育館，鹿児島アリーナ

2 柔剣道場の各2面(計4面)と各3面(計6面)のフロア面積

柔剣道場の面数が各2面(計4面)の施設と各3面(計6面)の施設を比較すると、フロア面積が1.28倍(②/①)であった。

各2面(計4面)のフロア面積 1,011㎡・・・①

各3面(計6面)のフロア面積 1,292㎡・・・②

【柔剣道場各2面(計4面)の施設[8]】

高崎アリーナ，高崎市総合体育館，福岡市総合体育館，北海道立総合体育センター，豊田市総合体育館，大阪府立体育会館，大阪市中央体育館，鹿児島アリーナ

【柔剣道場各3面(計6面)の施設[1]】

県工業試験場跡地のシミュレーション時における各3面(計6面)の数値1,292㎡を使用

- ③ **観客席（収容人数）※ メインアリーナ**
 今回調査回答のあった類似施設では、ほとんどが、1万人規模～5千人規模となっている。
 今回は、1万人規模、8千人規模、5千人規模について、プロモーター等へのヒアリング結果を踏まえ、メリット・デメリットを整理
 なお、規模が大きくなれば、整備費用・維持管理費が大きくなる。

	メリット・デメリット
1万人規模	●開催の頻度が低くなることが想定され、結果的に、8千人規模と比較して、コンサートの利用日数及び稼働率が減少することが想定される。
8千人規模	○アリーナコンサートについて、一定の需要が見込まれる。
5千人規模	●同規模のアリーナコンサートでは、支出に見合った収入が見込みづらく、結果的に、8千人規模と比較して、コンサートの利用日数及び稼働率が減少することが想定される。

〔観客席の構成（固定席，可動席等）のイメージ〕

類似施設のうち、スポーツ利用が中心で、かつ最大収容人数が6,000人以上（中規模アリーナ）の施設の平均は、次のとおり

- ・最大収容人数 約8,200人
- ・固定席 約4,300席
- ・可動席 約2,000席
- ・移動席 約1,900脚

※ 移動席数は未調査のため、各施設の最大収容人数と固定席，可動席の差を移動席と仮定

(2) 施設全体の組み合わせパターン

各施設構成のメリット・デメリットや類似施設の状況を踏まえると、以下のような施設全体の組み合わせパターンが考えられる。

(考え方)

- ・メインアリーナの観客席（最大収容人数）については、専門家のヒアリング結果を踏まえ、8,000人規模を想定
- ・今回仮置きした条件から、メインアリーナ・サブアリーナについて、トータルの競技面数が変わらないメイン：3面、サブ：2面のパターンを想定
- ・今回仮置きした条件から、大会運営の利便性の観点等を踏まえ、サブアリーナの面数を2面に拡張するパターンを想定
- ・上記のパターンから、需要の面では影響が少ないと考えられる柔剣道場を各2面としたパターンを想定

	最大収容人数 (メインアリーナ)	競技面数			
		メインアリーナ	サブアリーナ	柔剣道場	弓道場
①今回仮置きした条件	8,000人	バスケット4面	バスケット1面	各3面	近的12人 (遠的可)
②アリーナの面数を変更 (メイン：4⇒3 サブ：1⇒2)	8,000人	バスケット3面	バスケット2面	各3面	近的12人 (遠的可)
③サブの面数を変更 (1⇒2)	8,000人	バスケット4面	バスケット2面	各3面	近的12人 (遠的可)
④③から柔剣道場の面数を変更(各3⇒各2)	8,000人	バスケット4面	バスケット2面	各2面	近的12人 (遠的可)

(参考) 主な類似施設における最大収容人数競技面数 (再掲)

施設名	最大 収容人数 (メイン)	アリーナ		武道施設		
		メイン (バスケット)	サブ (バスケット)	柔道場	剣道場	弓道場
北海道立総合体育センター	10,000	4	2	2	2	近12人
宮城県総合運動公園総合体育館	7,063	4	1	—	—	—
あづま総合体育館	6,000	3	1	—	—	—
群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	9,000	4	2	—	—	—
高崎アリーナ	6,015	4	1	2	2	—
有明アリーナ	15,060	3	2	—	—	—
東京体育館	10,000	4	2	—	—	—
武蔵野の森総合スポーツプラザ	10,000	4	2	—	—	—
いしかわ総合スポーツセンター	6,000	4	2	—	—	—
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	10,000	4	2	—	—	—
愛知県体育館	7,407	3	1	—	—	—
京都府立体育館	8,000	3	2	—	—	—
大阪府立体育会館	6,000	4	2	2	2	—
大阪府中央体育館	10,000	4	2	2	2	—
和歌山ビッグホール※	8,500	4	—	—	—	—
岡山県総合グラウンド体育館	5,084	4	1	—	—	—
広島県立総合体育館	10,001	4	2	4	4	近12人
大村市体育文化センター	5,000	3	1	—	—	—
熊本県立総合体育館	4,110	2	2	—	—	—
鹿児島アリーナ	5,700	3	2	2	2	近10人
全施設平均	9,477	3.45	1.59	2.3	2.3	—

※ 隣接の「和歌山ビッグウェーブ」にはバスケット2面のアリーナ及び柔剣道場計4面がある。

**鹿児島県新総合体育館需要予測調査業務
報告書**

令和3年3月

みずほ総合研究所株式会社

目 次

【I 「スポーツ振興の拠点」機能の調査編】

第1章 類似施設の利用状況等の調査・分析	2
1. 調査方法.....	2
2. 調査回答施設.....	2
3. 調査結果.....	4
第2章 各種スポーツ大会の開催状況の調査・分析	18
1. 中央競技団体への調査.....	18
2. 県内競技団体への調査.....	20

【II 「多目的利用による交流拠点」機能の調査編】

第1章 国内のコンサート・イベント市場動向等の分析.....	23
1. 国内のコンサート市場動向等分析.....	23
2. 国内のその他イベント市場動向等分析.....	26
第2章 民間事業者へのヒアリング調査	31
1. 調査方法.....	31
2. 調査結果.....	32

【Ⅲ 需要予測編】

第1章 新総合体育館の需要予測等	38
1. 需要予測の方法	38
2. スポーツ利用の需要予測	42
3. 多目的利用の需要予測	48
4. 需要予測結果及び稼働率のシミュレーション	58
5. 利用者数の試算	60
第2章 大まかな施設の規模・構成の検討	63
1. 大まかな施設の規模・構成の検討	63
2. 今後の論点	64

はじめに

鹿児島県では、鹿児島県総合体育センター体育館（以下、「現体育館」という。）が老朽化や全国・国際レベルの競技大会などの開催等には狭隘である等の課題を抱えている現状を踏まえ、新総合体育館（以下、「本施設」という。）の整備に向けた検討を進めている。

本業務は、全国の類似施設、中央競技団体や県内競技団体、民間事業者などを対象にアンケート・ヒアリング調査を行い、想定される本施設における需要を予測し、それに応じた施設の規模・構成を検討することを目的として実施した。

なお、これら施設の規模・構成については、今後、「総合体育館基本構想検討委員会」において、具体的に検討されることとなる。

【I 「スポーツ振興の拠点」機能の調査編】

第1章 類似施設の利用状況等の調査・分析

1. 調査方法

類似施設の施設概要、利用状況、主な大会誘致状況等について調査するため、各施設へのアンケート調査を実施した。

(調査対象施設)

アンケート調査は、以下の抽出条件を満たす施設のうち、本施設で想定する利用形態の類似性が高いと考えられる62施設を対象に実施した。

【抽出条件】

- ・全国の屋内スポーツ・コンサート・イベント施設等のうち、最大収容人数（固定席、可動/移動席、仮設席の合計、或いは最大収容人数）が8,000人以上の体育館及びアリーナ（西日本は5,000人以上）。なお、整備済みの施設の他、着工中や基本構想等を策定済の整備予定施設も対象。
- ・上記の他、これまで鹿児島県が検討の参考とした施設及び競合しうると考えられる九州内の施設なども対象。

2. 調査回答施設

回答は、調査対象施設62施設のうち、51施設（82%）から得ることができた。このうち整備済み施設は55施設中46施設（84%）、未整備施設は7施設中5施設（71%）であった。

なお、回答のあった51施設のうち、いくつかの施設では、取扱を非公表としている回答項目があったことから、これらについては、本報告書において掲載していない。

表 アンケート調査への回答があった51施設の概要^{1、2、3}

施設No	名称	通称・愛称等	所在地		所在地		竣工年	最大収容人数	管理形態
			(都道府県)	人口(人)	(市区町)	人口(人)			
1	北海道立総合体育センター	北海きたえーる	北海道	5,267,762	札幌市	1,959,313	1999年	10,000人	指定管理
2	北海道立真駒内公園屋内競技場	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	北海道	5,267,762	札幌市	1,959,313	1970年	10,770人	指定管理
3	仙台市体育館	カメイアリーナ仙台	宮城県	2,292,385	仙台市	1,064,060	1984年	10,000人	指定管理
4	宮城県総合運動公園総合体育館	セキスイハイムスーパーアリーナ	宮城県	2,292,385	利府町	36,090	1997年	7,063人	指定管理
5	あづま総合体育館		福島県	1,881,981	福島市	277,133	1993年	6,000人	指定管理
6	栃木県新体育館 ※		栃木県	1,965,516	宇都宮市	521,754	2021年	回答無し	指定管理
7	群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	ALSOKぐんま総合スポーツセンターぐんまアリーナ	群馬県	1,969,439	前橋市	336,115	1995年	9,000人	指定管理
8	グリーンドーム前橋	ヤマダグリーンドーム前橋	群馬県	1,969,439	前橋市	336,115	1990年	20,000人	直営
9	高崎アリーナ		群馬県	1,969,439	高崎市	373,114	2018年	6,015人	指定管理
10	さいたまスーパーアリーナ		埼玉県	7,390,054	さいたま市	1,314,145	2000年	22,500人	指定管理
11	有明アリーナ		東京都	13,834,925	江東区	521,835	2019年	15,060人	直営
12	東京体育館		東京都	13,834,925	渋谷区	229,671	1990年	10,000人	指定管理
13	国立代々木競技場		東京都	13,834,925	渋谷区	229,671	1964年	12,934人	直営
14	武蔵野の森総合スポーツプラザ		東京都	13,834,925	調布市	237,054	2017年	10,000人	指定管理
15	いしかわ総合スポーツセンター		石川県	1,139,612	金沢市	452,220	2008年	5,019人	指定管理
16	福井県産業振興施設	サンドーム福井	福井県	780,053	越前市	82,153	1995年	10,000人	指定管理
17	長野市オリンピック記念アリーナ	エムウェーブ	長野県	2,087,307	長野市	375,884	1996年	20,000人	指定管理
18	長野市若里多目的スポーツアリーナ	ビッグハット	長野県	2,087,307	長野市	375,884	1995年	8,000人	指定管理
19	浜松アリーナ		静岡県	3,708,556	浜松市	802,527	1990年	7,600人	指定管理
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	エコパアリーナ	静岡県	3,708,556	袋井市	88,521	2001年	10,000人	指定管理
21	愛知県新体育館 ※		愛知県	7,575,530	名古屋市	2,301,639	2025年	回答無し	その他
22	愛知県体育館	ドルフィンズアリーナ	愛知県	7,575,530	名古屋市	2,301,639	1964年	7,407人	指定管理
23	豊田市総合体育館	スカイホール豊田	愛知県	7,575,530	豊田市	425,145	2007年	6,500人	指定管理
24	滋賀県新県立体育館 ※		滋賀県	1,420,948	大津市	343,815	2022年	回答無し	指定管理
25	京都府立体育館	島津アリーナ京都	京都府	2,545,899	京都市	1,409,702	1971年	回答無し	直営
26	大阪城ホール		大阪府	8,849,635	大阪市	2,730,420	1983年	16,000人	回答無し
27	舞洲アリーナ	おおきにアリーナ舞洲	大阪府	8,849,635	大阪市	2,730,420	1995年	7,056人	その他
28	大阪府立体育会館	エディオンアリーナ大阪	大阪府	8,849,635	大阪市	2,730,420	1987年	6,000人	指定管理
29	大阪市中央体育館	丸善インテックアリーナ大阪	大阪府	8,849,635	大阪市	2,730,420	1996年	10,000人	指定管理
30	大阪府立門真スポーツセンター	東和薬品RACTABドーム	大阪府	8,849,635	門真市	121,575	1996年	10,000人	指定管理
31	神戸総合運動公園体育館	グリーンアリーナ神戸	兵庫県	5,549,568	神戸市	1,533,588	1993年	4,852人	指定管理
32	神戸ポートアイランドホール	ワールド記念ホール	兵庫県	5,549,568	神戸市	1,533,588	1984年	8,000人	指定管理
33	和歌山ビッグホエール		和歌山県	954,258	和歌山市	366,923	1997年	8,500人	指定管理
34	岡山県総合グラウンド体育館	ジップアリーナ岡山	岡山県	1,903,627	岡山市	708,973	2005年	5,084人	指定管理
35	広島県立総合体育館	広島グリーンアリーナ	広島県	2,826,858	広島市	1,195,775	1993年	10,001人	指定管理
36	広島サンプラザホール		広島県	2,826,858	広島市	1,195,775	1985年	6,040人	直営
37	香川県新県立体育館 ※		香川県	981,280	高松市	427,131	2024年	回答無し	その他
38	高松市総合体育館		香川県	981,280	高松市	427,131	1986年	5,000人	指定管理
39	西日本総合展示場本館		福岡県	5,129,841	北九州市	950,602	1977年	6,900人	民間
40	西日本総合展示場新館		福岡県	5,129,841	北九州市	950,602	1998年	10,000人	指定管理
41	北九州メディアドーム		福岡県	5,129,841	北九州市	950,602	1998年	18,700人	回答無し
42	福岡市総合体育館	照葉積水ハウスアリーナ	福岡県	5,129,841	福岡市	1,554,229	2018年	5,000人	指定管理
43	マリンメッセ福岡		福岡県	5,129,841	福岡市	1,554,229	1995年	15,000人	指定管理
44	福岡国際会議場		福岡県	5,129,841	福岡市	1,554,229	2003年	1,000人	直営
45	福岡国際センター		福岡県	5,129,841	福岡市	1,554,229	1981年	10,000人	指定管理
46	SAGAアリーナ ※		佐賀県	823,810	佐賀市	232,476	2023年	約10,000人	指定管理
47	大村市体育文化センター	シーハットおおむら	長崎県	1,350,769	大村市	96,963	1998年	5,000人	指定管理
48	熊本県立総合体育館		熊本県	1,769,880	熊本市	733,721	1982年	4,110人	指定管理
49	熊本産業展示場	グランメッセ熊本	熊本県	1,769,880	益城町	33,099	1998年	10,000人	指定管理
50	大分県立武道スポーツセンター	昭和電工武道スポーツセンター	大分県	1,151,229	大分市	478,393	2019年	約5,000人	指定管理
51	鹿児島アリーナ	西原商会アリーナ	鹿児島県	1,630,146	鹿児島市	602,465	1992年	5,700人	指定管理

¹ ※は竣工年が2021年以降の未整備施設（栃木県新体育館は2021年1月竣工）

² 人口は令和2年1月1日現在の住民基本台帳に基づく人口（総務省公表資料より）

³ マリンメッセ福岡はA館を対象としている。

3. 調査結果

3-1.施設の類型化

本調査では、利用形態に応じた施設の傾向や収支状況を確認するべく、鹿児島県が設置していた「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言（平成30年2月）をベースに、メインアリーナで実施されている利用形態の構成比に基づき、以下の5つのカテゴリに施設を分類した。

表 利用形態の区分

区 分		利用の例	
スポーツ利用	アマチュアスポーツ	大会	全国大会、県大会
		その他	県民・市民利用
	プロスポーツ	興行	Bリーグ、Vリーグ
		その他	プロチームの練習
多目的利用	コンサート	コンサート、ショー	
	その他	MICE	

表 施設の類型化

カテゴリ	分類基準	施設数
Category 1 「する」スポーツ利用が中心の施設	・「アマチュアスポーツ」の「その他」の構成比が最も大きい施設	8施設 (17.4%)
Category 2 「する」に加え「みる」利用が一定程度ある施設	・「アマチュアスポーツ」の「大会」または「プロスポーツ」の「興行」の構成比が最も大きい施設(競輪を主要用途としている施設を除く)	13施設 (28.3%)
Category 3 「する」「みる」に加え、一定程度の多目的利用がある施設	・カテゴリ1及び2以外の施設で、多目的利用の構成比がスポーツ利用より小さい施設	2施設 (4.3%)
Category 4 コンサート・MICE等その他利用が中心の施設	・カテゴリ1及び2以外の施設で、多目的利用の構成比がスポーツ利用より大きい施設 ・「アマチュアスポーツ」の「大会」または「プロスポーツ」の「興行」の構成比が最も大きい施設のうち、競輪を主要用途としている施設	13施設 (28.3%)
Category 5 分類不明の施設	・主要用途及び構成比の回答がない施設	10施設 (21.7%)

表 カテゴリ分類結果

カテゴリ	No.	名称	スポーツ								多目的利用					
			アマチュアスポーツ				プロスポーツ				小計	イベント				小計
			大会	構成比	その他	構成比	興行	構成比	その他	構成比		コンサート	構成比	その他	構成比	
カテゴリ1	3	仙台市体育館	○	35%	◎	55%	○	8%	×	0%	98%	×	0%	○	2%	2%
	9	高崎アリーナ	○	28%	◎	70%	○	1%	×	0%	99%	○	1%	×	1%	2%
	30	大阪府立門真スポーツセンター	◎	15%	○	67%	○	2%	×	0%	84%	×	0%	○	16%	16%
	31	神戸総合運動公園体育館	○	30%	○	55%	○	10%	○	5%	100%	×	0%	×	0%	0%
	33	和歌山ビッグホエール	○	40%	◎	40%	×	0%	×	0%	80%	○	10%	○	10%	20%
	38	高松市総合体育館	○	20%	◎	72%	○	5%	×	0%	97%	×	0%	○	3%	3%
	42	福岡市総合体育館	○	45%	○	50%	○	5%	×	0%	100%	×	0%	×	0%	0%
	50	大分県立武道スポーツセンター	◎	22%	◎	77%	○	1%	×	0%	100%	×	0%	×	0%	0%
カテゴリ2	5	あづま総合体育館	○	70%	○	25%	○	1%	○	1%	97%	○	1%	○	2%	3%
	12	東京体育館	◎	100%	×	0%	回答無し	0%	回答無し	0%	100%	×	0%	×	0%	0%
	22	愛知県体育館	○	50%	回答無し	0%	○	25%	回答無し	0%	75%	○	25%	回答無し	0%	25%
	23	豊田市総合体育館	◎	80%	○	10%	×	0%	○	10%	100%	×	0%	×	0%	0%
	27	舞洲アリーナ	◎	45%	○	38%	◎	15%	×	0%	98%	○	2%	×	0%	2%
	28	大阪府立体育会館	◎	30%	◎	20%	◎	30%	◎	10%	90%	○	5%	○	5%	10%
	29	大阪市中央体育館	◎	50%	×	0%	○	10%	×	0%	60%	○	10%	○	30%	40%
	34	岡山県総合グラウンド体育館	◎	70%	○	10%	○	5%	○	0%	85%	×	0%	○	15%	15%
	35	広島県立総合体育館	○	60%	×	0%	×	0%	×	0%	60%	○	20%	○	20%	40%
	36	広島サンプラザホール	◎	40%	○	20%	○	13%	○	12%	85%	○	9%	○	6%	15%
	47	大村市体育文化センター	◎	70%	◎	15%	○	回答無し	○	回答無し	85%	○	0%	○	15%	15%
	51	鹿児島アリーナ	◎	66%	○	6%	○	17%	○	1%	90%	○	1%	○	9%	10%
カテゴリ3	4	宮城県総合運動公園総合体育館	◎	29%	○	31%	×	0%	×	0%	60%	◎	37%	○	3%	40%
	20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	27%	○	26%	×	0%	×	0%	53%	○	39%	○	8%	47%
カテゴリ4	2	北海道立真駒内公園屋内競技場	○	21%	○	28%	×	0%	×	0%	49%	◎	26%	○	25%	51%
	8	グリーンドーム前橋	○	3%	◎	30%	回答無し	0%	◎	50%	83%	○	2%	○	15%	17%
	10	さいたまスーパーアリーナ	○	0%	○	0%	○	16%	○	0%	16%	◎	52%	○	32%	84%
	13	国立代々木競技場	◎	27%	○	1%	○	4%	○	0%	31%	○	50%	○	18%	69%
	16	福井県産業振興施設	○	8%	○	10%	×	0%	×	0%	18%	◎	27%	◎	55%	82%
	26	大阪城ホール	○	4%	回答無し	0%	○	1%	回答無し	0%	5%	◎	77%	○	18%	95%
	32	神戸ポートアイランドホール	○	5%	○	10%	×	0%	×	0%	15%	◎	65%	○	20%	85%
	39	西日本総合展示場本館	○	5%	○	3%	×	0%	×	0%	8%	×	0%	◎	92%	92%
	40	西日本総合展示場新館	×	0%	○	2%	×	0%	×	0%	2%	×	0%	◎	98%	98%
	41	北九州メディアドーム	○	20%	○	7%	◎	70%	○	1%	98%	○	1%	○	1%	2%
	43	マリンメッセ福岡	○	4%	×	0%	×	0%	×	0%	4%	○	48%	○	48%	96%
	44	福岡国際会議場	×	0%	×	0%	×	0%	×	0%	0%	○	5%	◎	95%	100%
45	福岡国際センター	○	4%	×	0%	×	0%	×	0%	4%	○	26%	○	70%	96%	
カテゴリ5	7	群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	○	回答無し	◎	回答無し	○	回答無し	○	回答無し	-	○	回答無し	×	回答無し	-
	11	有明アリーナ	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-
	14	武蔵野の森総合スポーツプラザ	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-
	15	いしかわ総合スポーツセンター	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-
	17	長野市オリンピック記念アリーナ	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-
	18	長野市若里多目的スポーツアリーナ	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-
	19	浜松アリーナ	○	回答無し	○	回答無し	◎	回答無し	○	回答無し	-	×	回答無し	○	回答無し	-
	25	京都府立体育館	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し	-
	48	熊本県立総合体育館	◎	回答無し	○	回答無し	○	回答無し	○	回答無し	-	×	回答無し	×	回答無し	-
	49	熊本産業展示場	○	回答無し	×	回答無し	○	回答無し	×	回答無し	-	○	回答無し	×	回答無し	-

※施設における利用用途について、3つの選択肢（◎：主要用途、○：実績あり、×：実績なし）による回答とした。

3-2.施設構成の分析

主な施設の構成を5つ（メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、トレーニングルーム、会議室等）備えていた施設は、8施設（17.4%）であった。サブアリーナは、スポーツ利用を中心とするカテゴリ1～3では、ほぼ全ての施設が保有していたほか、武道場はカテゴリ1～2の施設について、保有している施設の数は半数程度という結果となった。

一方で、多目的利用を一定程度以上見込むカテゴリ3及び4の全施設が武道場を保有していなかった。

サブアリーナについて、多くの施設ではバスケットボールコート及びバレーボールコートを1～2面保有しているという結果となった。

表 カテゴリ別の諸室設置状況

	サブアリーナ	武道場	トレーニング ルーム	会議室等
カテゴリ1 (8施設)	7施設 87.5%	4施設 50.0%	7施設 87.5%	8施設 100.0%
カテゴリ2 (13施設)	13施設 100.0%	6施設 46.2%	9施設 69.2%	11施設 84.6%
カテゴリ3 (2施設)	2施設 100.0%	- 0.0%	2施設 100.0%	2施設 100.0%
カテゴリ4 (13施設)	2施設 15.4%	- 0.0%	1施設 7.7%	9施設 69.2%
カテゴリ5 (10施設)	7施設 70.0%	1施設 10.0%	8施設 80.0%	8施設 80.0%
合計 (46施設)	31施設 67.4%	11施設 23.9%	27施設 58.7%	38施設 82.6%

表 各施設における競技面数等 (単位: 面)

カテゴリ	No.	名称	メインアリーナ		サブアリーナ		武道場		
			バスケットボール	バレーボール	バスケットボール	バレーボール	柔道場	剣道場	弓道場
カテゴリ1	3	仙台市体育館	3	3	1	1	-	-	-
	9	高崎アリーナ	4	4	1	1	2	2	-
	30	大阪府立門真スポーツセンター	4	5	1	3	-	-	-
	31	神戸総合運動公園体育館	3	3	1	2	-	-	-
	33	和歌山ビッグホエール	4	4	-	-	-	-	-
	38	高松市総合体育館	2	3	1	2	2	2	近的10人立ち
	42	福岡市総合体育館	3	4	2	3	2	2	近的10人立ち
	50	大分県立武道スポーツセンター	4	5	-	-	3	3	-
カテゴリ2	1	北海道立総合体育センター	4	4	2	2	2	2	近的12人立ち
	5	あづま総合体育館	3	3	1	2	-	-	-
	12	東京体育館	4	4	2	2	-	-	-
	22	愛知県体育館	3	4	1	1	-	-	-
	23	豊田市総合体育館	4	4	2	2	2	2	-
	27	舞洲アリーナ	3	4	1	2	-	-	-
	28	大阪府立体育会館	4	4	2	2	2	2	-
	29	大阪市中央体育館	4	4	2	2	2	2	-
	34	岡山県総合グラウンド体育館	4	4	1	1	-	-	-
	35	広島県立総合体育館	4	4	2	2	4	4	近的12人立ち
	36	広島サンブラザホール	3	4	-	-	-	-	-
	47	大村市体育文化センター	3	4	1	2	-	-	-
	51	鹿児島アリーナ	3	4	2	2	2	2	近的10人立ち
カテゴリ3	4	宮城県総合運動公園総合体育館	4	6	1	2	-	-	-
	20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	4	4	-	-	-	-	-
カテゴリ4	2	北海道立真駒内公園屋内競技場	3	4	-	-	-	-	-
	8	グリーンドーム前橋	-	-	-	-	-	-	-
	10	さいたまスーパーアリーナ	-	-	-	-	-	-	-
	13	国立代々木競技場	-	-	-	-	-	-	-
	16	福井県産業振興施設	-	-	-	-	-	-	-
	26	大阪城ホール	-	-	-	-	-	-	-
	32	神戸ポートアイランドホール	-	-	-	-	-	-	-
	39	西日本総合展示場本館	-	-	-	-	-	-	-
	40	西日本総合展示場新館	-	-	-	-	-	-	-
	41	北九州メディアドーム	-	-	-	-	-	-	-
	43	マリンメッセ福岡	-	-	-	-	-	-	-
	44	福岡国際会議場	-	-	-	-	-	-	-
	45	福岡国際センター	-	-	-	-	-	-	-
カテゴリ5	7	群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	4	4	2	2	-	-	-
	11	有明アリーナ	3	4	2	2	-	-	-
	14	武蔵野の森総合スポーツプラザ	4	-	2	-	-	-	-
	15	いしかわ総合スポーツセンター	4	4	2	2	-	-	-
	17	長野市オリンピック記念アリーナ	-	-	-	-	-	-	-
	18	長野市若里多目的スポーツアリーナ	-	-	-	-	-	-	-
	19	浜松アリーナ	3	4	2	2	-	-	-
	25	京都府立体育館	3	3	2	2	-	-	-
	48	熊本県立総合体育館	2	3	2	3	-	-	-
	49	熊本産業展示場	-	-	-	-	-	-	-

表 カテゴリ別各施設における競技面数等の平均 (単位: 面)

	メインアリーナ		サブアリーナ		武道場		
	バスケットボール	バレーボール	バスケットボール	バレーボール	柔道場	剣道場	弓道場
カテゴリ1	3.38	3.88	1.17	2.00	2.25	2.25	-
カテゴリ2	3.54	3.92	1.58	1.83	2.33	2.33	-
カテゴリ3	4.00	5.00	1.50	2.00	-	-	-
カテゴリ4	3.00	4.00	-	-	-	-	-
カテゴリ5	3.29	3.67	2.00	2.17	-	-	-
合計	3.45	3.93	1.59	1.96	2.30	2.30	-

3-3.施設内容の分析

① メインアリーナの規模等

メインアリーナのフロア面積は3,000㎡～4,000㎡である施設が多く、全体の39.1%にあたる18施設が該当した。続いて2,000㎡～3,000㎡の施設が11施設(23.9%)で、2,000～4,000㎡の施設で過半数(29施設(63.0%))を占める結果となった。

表 メインアリーナの規模等

カテゴリ	No.	名称	フロア面積	固定席数	可動席数	最大収容人数	バスケ面数	バレー面数
カテゴリ1	3	仙台市体育館	2,643㎡	4,681席	1,024席	10,000人	3	3
	9	高崎アリーナ	3,570㎡	3,021席	1,022席	6,015人	4	4
	30	大阪府立門真スポーツセンター	3,504㎡	6,128席	-	10,000人	4	5
	31	神戸総合運動公園団体育館	2,530㎡	3,038席	1,814席	4,852人	3	3
	33	和歌山ビッグホエール	3,280㎡	2,980席	2,080席	8,500人	4	4
	38	高松市総合体育館	2,052㎡	2,000席	3,000席	5,000人	2	3
	42	福岡市総合体育館	3,160㎡	3,218席	1,824席	5,000人	3	4
	50	大分県立武道スポーツセンター	3,570㎡	2,028席	2,016席	約5,000人	4	5
カテゴリ2	5	あづま総合体育館	2,744㎡	2,500席	1,200席	6,000人	3	3
	12	東京体育館	3,220㎡	6,000席	4,000席	10,000人	4	4
	22	愛知県体育館	2,468㎡	4,375席	3,032席	7,407人	3	4
	23	豊田市総合体育館	3,600㎡	3,470席	980席	6,500人	4	4
	27	舞洲アリーナ	2,720㎡	4,284席	1,650席	7,056人	3	4
	28	大阪府立体育会館	3,010㎡	3,131席	回答無し	6,000人	4	4
	29	大阪市中央体育館	3,580㎡	5,932席	1,390席	10,000人	4	4
	34	岡山県総合グラウンド体育館	3,680㎡	2,528席	2,556席	5,084人	4	4
	35	広島県立総合体育館	3,500㎡	4,813席	2,040席	10,001人	4	4
	36	広島サンプラザホール	2,448㎡	3,040席	3,000席	6,040人	3	4
	47	大村市体育文化センター	2,418㎡	2,004席	1,072席	5,000人	3	4
	51	鹿児島アリーナ	2,730㎡	4,200席	1,500席	5,700人	3	4
カテゴリ3	4	宮城県総合運動公園総合体育館	3,740㎡	5,011席	2,052席	7,063人	4	6
	20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	4,165㎡	4,868席	1,440席	10,000人	4	4
カテゴリ4	2	北海道立真駒内公園屋内競技場	1,800㎡	6,024席	4,000席	10,770人	3	4
	8	グリーンドーム前橋	5,000㎡	7,594席	5,002席	20,000人	-	-
	10	さいたまスーパーアリーナ	7,100㎡	19,000席	3,500席	22,500人	-	-
	13	国立代々木競技場	4,000㎡	8,774席	4,160席	12,934人	-	-
	16	福井県産業振興施設	8,000㎡	回答無し	6,000席	10,000人	-	-
	26	大阪城ホール	3,500㎡	8,928席	4,500席	16,000人	-	-
	32	神戸ポートアイランドホール	3,100㎡	3,528席	回答無し	8,000人	-	-
	39	西日本総合展示場本館	5,520㎡	-	-	6,900人	-	-
	40	西日本総合展示場新館	8,000㎡	-	-	10,000人	-	-
	41	北九州メディアドーム	5,000㎡	11,700席	800席	18,700人	-	-
	43	マリンメッセ福岡	8,000㎡	932席	7,325席	15,000人	-	-
	44	福岡国際会議場	1,262㎡	1,000席	-	1,000人	-	-
	45	福岡国際センター	3,425㎡	1,500席	2,500席	10,000人	-	-
カテゴリ5	7	群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	3,664㎡	3,225席	2,208席	9,000人	4	4
	11	有明アリーナ	4,100㎡	12,000席	回答無し	15,060人	3	4
	14	武蔵野の森総合スポーツプラザ	4,900㎡	6,000席	1,400席	10,000人	4	-
	15	いしかわ総合スポーツセンター	3,680㎡	2,867席	2,152席	6,000人	4	4
	17	長野市オリンピック記念アリーナ	13,700㎡	6,500席	回答無し	20,000人	-	-
	18	長野市若里多目的スポーツアリーナ	4,000㎡	5,900席	回答無し	8,000人	-	-
	19	浜松アリーナ	2,860㎡	3,544席	1,056席	8,000人	3	4
	25	京都府立体育館	2,242㎡	5,016席	480席	8,000人	3	3
	48	熊本県立総合体育館	1,814㎡	2,926席	1,184席	4,110人	2	3
	49	熊本産業展示場	8,000㎡	-	1,318席	10,000人	-	-

カテゴリごとにみると、スポーツ利用を中心とするカテゴリ1～3の施設は2,000㎡～4,000㎡の施設が23施設中22施設(95.7%)と、ほぼすべての施設が2,000㎡～4,000㎡であり、カテゴリ1～2のフロア面積平均値は、いずれも約3,000㎡という結果となった。

また、フロアの広さの目安として全施設の平均は、バスケットボールコートが3.5面、バレーボールコートが3.9面であった。回答のばらつきは小さく、バスケットボールコートが3～4面ではない施設は2施設、バレーボールコートが3～4面ではない施設も3施設であった。

表 メインアリーナのフロア面積・座席数(固定席・可動席)・最大収容人数の平均

カテゴリ	フロア面積	固定席数	可動席数	最大収容人数	バスケット面数	バレー面数
全体	4,019㎡	4,864席	2,382席	9,477人	3.5面	3.9面
カテゴリ1	3,039㎡	3,387席	1,826席	6,796人	3.4面	3.9面
カテゴリ2	3,077㎡	3,875席	2,024席	7,475人	3.5面	3.9面
カテゴリ3	3,953㎡	4,940席	1,746席	8,532人	4.0面	5.0面
カテゴリ4	4,901㎡	6,898席	4,199席	12,446人	3.0面	4.0面
カテゴリ5	4,896㎡	5,331席	1,400席	10,451人	3.3面	3.7面

※回答が「0」「未回答」のものを含めていない

② メインアリーナの床仕様

メインアリーナの床の仕様は、回答があった45施設中30施設(66.7%)が木製フローリング、15施設(33.3%)がコンクリートと回答した。カテゴリごとにみると、多目的利用を一定程度以上見込むカテゴリ4では、コンクリートの床仕様と回答した15施設中9施設(60.0%)であった。イベント等の設営時の床対応について、10tトラックの乗り入れが可能とした施設は11施設(24.4%)あり、ほとんどがコンクリート仕様であった。

表 メインアリーナの床仕様別のカテゴリ

床仕様	カテゴリ1	カテゴリ2	カテゴリ3	カテゴリ4	カテゴリ5
木製フローリング	23.3%	40.0%	6.7%	10.0%	20.0%
コンクリート ⁴	6.7%	6.7%	0.0%	60.0%	26.7%

⁴ 各項目を四捨五入しているため、合計が100.0%と一致しない。

表 カテゴリ別メインアリーナの床仕様

カテゴリ	床 材	施設数	搬入時の対応	施設数	カテゴリ	床 材	施設数	搬入時の対応	施設数
カテゴリ1	木製フローリング	7施設	フォークリフト乗入可	1施設	カテゴリ5	木製フローリング	6施設	フォークリフト乗入可	1施設
			否	6施設				否	5施設
カテゴリ2	木製フローリング	12施設	フォークリフト乗入可	4施設	全体	木製フローリング	30施設	10tトラック乗入可	1施設
			否	8施設				フォークリフト乗入可	9施設
カテゴリ3	木製フローリング	2施設	フォークリフト乗入可	2施設	全体	コンクリート	15施設	10tトラック乗入可	10施設
			否	1施設				フォークリフト乗入可	3施設
カテゴリ4	木製フローリング	3施設	10tトラック乗入可	1施設	全体	コンクリート	15施設	否	2施設
			フォークリフト乗入可	1施設				10tトラック乗入可	10施設
			否	1施設				フォークリフト乗入可	3施設
	10tトラック乗入可	6施設	否	2施設					
カテゴリ4	コンクリート	9施設	フォークリフト乗入可	2施設					
			否	1施設					

3-4.利用状況の分析

メインアリーナの稼働率は、日数稼働率（利用日数/開館日数×100）は平均 85.2%、コマ数稼働率（利用コマ数/（開館コマ数×開館日数）×100）は平日の平均が 77.5%、土日祝の平均が 87.7%となった。

表 カテゴリ別のメインアリーナの平均稼働率

	日数稼働率	コマ数稼働率(平日)	コマ数稼働率(土日祝)
カテゴリ1	81.7%	70.8%	83.9%
カテゴリ2	91.7%	84.8%	94.0%
カテゴリ3	90.5%	39.1%	91.4%
カテゴリ4	81.4%	84.7%	71.0%
カテゴリ5	82.8%	77.1%	96.9%
全 体	85.2%	77.5%	87.7%

表 各施設におけるメインアリーナの稼働率

カテゴリ	No.	名称	日数稼働率	コマ数稼働率 (平日)	コマ数稼働率 (土日祝)
カテゴリ1	3	仙台市体育館	95.0%	92.0%	100.0%
	9	高崎アリーナ	79.7%	回答無し	回答無し
	30	大阪府立門真スポーツセンター	91.6%	67.9%	71.8%
	31	神戸総合運動公園体育館	67.0%	63.0%	77.8%
	33	和歌山ビッグホエール	75.6%	回答無し	回答無し
	38	高松市総合体育館	81.0%	回答無し	回答無し
	42	福岡市総合体育館	回答無し	74.3%	87.8%
	50	大分県立武道スポーツセンター	回答無し	57.0%	82.0%
カテゴリ2	5	あづま総合体育館	100.0%	100.0%	100.0%
	22	愛知県体育館	87.7%	70.7%	87.7%
	27	舞洲アリーナ	90.0%	89.0%	91.0%
	28	大阪府立体育会館	90.0%	80.0%	90.0%
	29	大阪市中央体育館	97.0%	89.0%	99.0%
	34	岡山県総合グラウンド体育館	100.0%	回答無し	回答無し
	35	広島県立総合体育館	95.0%	74.0%	96.0%
	36	広島サンプラザホール	70.0%	回答無し	回答無し
	47	大村市体育文化センター	95.0%	回答無し	回答無し
	51	鹿児島アリーナ	91.4%	回答無し	回答無し
カテゴリ3	4	宮城県総合運動公園総合体育館	96.0%	39.1%	87.7%
	20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	85.0%	回答無し	95.0%
カテゴリ4	2	北海道立真駒内公園屋内競技場	93.0%	96.0%	88.0%
	8	グリーンドーム前橋	97.6%	回答無し	回答無し
	10	さいたまスーパーアリーナ	70.8%	回答無し	回答無し
	13	国立代々木競技場	90.4%	88.0%	95.0%
	16	福井県産業振興施設	70.0%	回答無し	回答無し
	32	神戸ポートアイランドホール	77.4%	回答無し	回答無し
	39	西日本総合展示場本館	56.2%	回答無し	回答無し
	40	西日本総合展示場新館	59.1%	回答無し	回答無し
	41	北九州メディアドーム	97.0%	70.0%	30.0%
	43	マリメッセ福岡	90.4%	集計なし	集計なし
	44	福岡国際会議場	81.4%	集計なし	集計なし
	45	福岡国際センター	93.7%	集計なし	集計なし
	カテゴリ5	7	群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	97.0%	回答無し
14		武蔵野の森総合スポーツプラザ	79.4%	回答無し	回答無し
15		いしかわ総合スポーツセンター	65.5%	54.2%	93.7%
19		浜松アリーナ	78.0%	回答無し	回答無し
48		熊本県立総合体育館	100.0%	100.0%	100.0%
49		熊本産業展示場	76.8%	回答無し	回答無し

3-5. イベントの開催状況

① スポーツイベント

主なイベントは、各種競技の全国大会・国際大会、プロリーグチームのホーム施設等では、Bリーグ・Vリーグ・Fリーグ等のプロスポーツ、その他プロレス・大相撲等のスポーツ興行などが確認できた。

全国大会では、概ね開催日数が2日～5日程度が多くみられ、来場者数は概ね50人規模のものから10,000人を超える規模のものまで、幅がある結果となった。国際大会は、概ね開催日数は2日～5日程度だが、全国大会よりもやや長期間の大会が多くみられ、来場者数も700人規模のものから20,000人を超える規模のものまで、全国大会同様に幅がある結果となった。

表 46 施設で開催された／開催予定の主なスポーツ大会⁵

カテゴリ	会場	分類	イベント名称	主催者	開催場所	実施年月	期間	入場人数(人/日)	
カテゴリ1	仙台市体育館	バスケットボール	B1リーグ	B1リーグ(仙台89ERSホムレム)	仙台ERS	第1競技場	2019/4~5	8日	-
	仙台市体育館	バレーボール	V1リーグ	2019-20V1リーグ Division1		第1競技場・第2競技場	2019/11/14~16	3日	-
	仙台市体育館	相撲	全国	令和元年夏巡業大相撲仙台場所	日本相撲協会	第1競技場・第2競技場	2019/8/9~11	3日	-
	仙台市体育館	卓球	全国	ライオン杯第24回卓球シヤット杯12		第1競技場・第2競技場・プール	2019/12/19~23	5日	-
	北海道立総合体育センター	総合	-	北日本医科学学生体育大会		サブアリーナ	2018/5/2~5/3	2日	7,179人
	仙台市体育館	バスケットボール	全国	第2回全日本社会人バスケットボール選手権大会		第1競技場・第2競技場	2019/11/22~25	4日	-
	高崎アリーナ	チア	国際	チアリーディングアジア大会	(公財)日本チアリーディング協会	全館	2019/5/11~12	2日	3,885人
	高崎アリーナ	柔道	全国	全日本実業柔道団体対抗大会	全日本実業柔道連盟	全館	2019/6/8~9	2日	2,570人
	高崎アリーナ	新体操	全国	全日本新体操クラブ選手権	(公財)日本新体操連盟	全館	2019/8/16~18	3日	2,065人
	高崎アリーナ	空手	全国	全日本空手道選手権	(公財)日本空手道連盟	全館	2019/12/7~8	2日	5,000人
	高崎アリーナ	新体操	全国	全日本新体操チヤイト選手権	(公財)日本新体操連盟	全館	2020/2/21~23	3日	3,172人
	大阪府立門真スポーツセンター	柔道	全国	全日本柔道重別選手権	全日本柔道連盟	サブアリーナ	2018/4	2日	1,130人
	大阪府立門真スポーツセンター	水球	全国	全日本JOCジュニアオリンピック水球大会	日本水泳連盟	メインアリーナ	2018/8	5日	1,100人
	大阪府立門真スポーツセンター	スケート	全国	全日本フィギュアスケート選手権	日本スケート連盟	メインアリーナ	2018/12	4日	6,000人
	大阪府立門真スポーツセンター	バレーボール	全国	全国ヤングバレーボール大会	日本バレーボール協会	メインアリーナ	2019/9	2日	2,200人
	大阪府立門真スポーツセンター	相撲	その他	大相撲なにわ場所巡業	大東俱樂部	メインアリーナ	2019/10	1日	3,100人
	神戸総合運動公園体育館	バレーボール	国際	2018女子バレー世界選手権大会	兵庫県バレーボール協会	メインアリーナ・サブアリーナ	2018/9	5日	2,000人
	神戸総合運動公園体育館	卓球	全国	全日本卓球選手権大会	兵庫卓球協会	メインアリーナ・サブアリーナ	2019/8	3日	4,000人
	神戸総合運動公園体育館	弓道	全国	全日本学生弓道選手権大会	全国学生弓道連盟	メインアリーナ・サブアリーナ	2019/8	3日	2,000人
	神戸総合運動公園体育館	バレーボール	国際	全国Vプレミアリーグ-V1連盟	全国Vプレミアリーグ-V1連盟	メインアリーナ・サブアリーナ	2018/8	5日	2,000人
	高松市総合体育館	新体操	国際	第32回OHK杯瀬戸内新体操国際大会	高松市体育協会	第1.2競技場	2019/3	4日	1,500人
	高松市総合体育館	テニス	全国	高松7thリカバ高校選抜ソフトテニス大会	高松市・高松7thリカバ実行委員会	第1.2競技場	2019/2	3日	700人
	高松市総合体育館	テニス	全国	高松7thリカバ高校選抜ソフトテニス大会	高松市・高松7thリカバ実行委員会	第1.2競技場	2020/2	3日	900人
	福岡市総合体育館	バスケットボール	全国	第58回全国七大学総合体育大会バスケットボール競技	第58回全国七大学総合体育大会実行委員会	メインアリーナ	2019/6	4日	410人
	福岡市総合体育館	柔道	全国	金鷲旗高校柔道大会	西日本新聞社	メインアリーナ他	2019/7	4日	12,390人
	福岡市総合体育館	剣道	全国	玉電旗高校剣道大会	西日本新聞社	メインアリーナ他	2019/7	5日	17,850人
	福岡市総合体育館	総合	全国	全日本歯科学学生総合体育大会	福岡歯科大学	メインアリーナ・サブアリーナ	2019/8	5日	550人
	大分県立武道スポーツセンター	障がい	国際	アジアパラムカブ車いすバスケ2019	日本車いすバスケボール連盟	メインアリーナ	2019/6	2日	4,200人
	大分県立武道スポーツセンター	剣道	全国	第1回剣道競争争奪全国少年剣道大会	大分県剣道連盟	メインアリーナ・武道場	2019/6	2日	4,200人
	大分県立武道スポーツセンター	剣道	全国	全国道場小学生剣道記念大会	大分県剣道連盟	メインアリーナ・武道場	2019/8	1日	3,500人
カテゴリ2	あまぎ総合体育館	相撲	その他	大相撲夏巡業ふくしま場所	兩テレビー福島	メインアリーナ	2019/8	1日	2,800人
	東京体育館	体操	国際	体操ワールドカップ東京大会2018		-	-2018/4	1日	-
	東京体育館	ハンドボール	国際	HANDBALL JAPAN CUP 2018		-	-2018/6	1日	-
	東京体育館	障がい	国際	車いすバレーワールドチャレンジ2019		-	-2019/10	5日	-
	東京体育館	卓球	国際	IAE協ITTF卓球ワールドカップ団体戦2019TOKYO		-	-2019/11	5日	-
	東京体育館	テニス	全国	第36回全日本バウンディング選手権大会		-	-2018/5	2日	-
	愛知県体育館	バスケットボール	B1リーグ	B1リーグ	名古屋グレイマントルフィンズ	第1競技場	通年	32日	3,000人
	愛知県体育館	大相撲	その他	大相撲名古屋場所	日本相撲協会	第1競技場	2019/6	33日	3,000人
	愛知県体育館	プロレス	その他	プロレス	株式会社ドラゴネット	第1競技場	2019/5	1日	3,000人
	豊田市総合体育館	バスケットボール	B1リーグ	B1リーグ	公益財団法人ジャパン・プロフュショナル・バスケットボールリーグ	メインアリーナ	2019/4	2日	3,500人
	豊田市総合体育館	バレーボール	V1リーグ	V1リーグ	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構	メインアリーナ	2019/11	2日	3,000人
	豊田市総合体育館	体操	国際	豊田国際体操競技大会	中日新聞・本市	メインアリーナ	2019/12	2日	2,800人
	豊田市総合体育館	テニス	全国	ソフトテニス日本リーグ	公益財団法人 日本ソフトテニス連盟	メインアリーナ	2019/12	2日	1,000人
	豊田市総合体育館	バスケットボール	その他	W1リーグ	一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ	メインアリーナ	2018/10	2日	3,000人
	舞洲アリーナ	バドミントン	全国	第45回全日本バドミントン選手権大会	日本バドミントン協会	メインアリーナ	2020/2	2日	1,500人
	大阪市中央体育館	バレーボール	V1リーグ	2019/20 V1リーグ男子	大阪府バレーボール協会	メインアリーナ	2020/1	2日	4,500人
	大阪市中央体育館	バレーボール	国際	FIVBワールドカップ女子2019	(公財)日本バレーボール協会	メインアリーナ	2019/9	3日	8,000人
	大阪市中央体育館	拳法	全国	日本拳法総合選手権大会	(公財)日本拳法会	メインアリーナ	2019/9	1日	2,500人
	大阪市中央体育館	剣道	全国	第69回全日本選手権大会	(公財)大阪府剣道連盟	メインアリーナ	2019/11	1日	8,000人
	大阪市中央体育館	ソフトテニス	全国	第65回全日本ソフトテニス選手権大会	大阪府ソフトテニス連盟	メインアリーナ	2020/2	1日	4,000人
	岡山県総合グラウンド体育館	弓道	全国	第37回全国高等学校弓道選抜大会	岡山県高校連弓道専門部	体育館全館	2018/12	3日	2,000人
	岡山県総合グラウンド体育館	太極拳	全国	第38回全日本武術太極拳選手権大会	公益財団法人日本武術太極拳連盟	体育館全館	2019/7	3日	8,000人
	岡山県総合グラウンド体育館	プロレス	その他	新日本プロレスリング	新日本プロレスリング株式会社	体育館全館	2019/3	1日	2,800人
	岡山県総合グラウンド体育館	プロレス	その他	新日本プロレスリング	新日本プロレスリング株式会社	体育館全館	2019/6	1日	1,800人
	広島県立総合体育館	バレーボール	国際	FIVBワールドカップ2019男子広島大会	日本バレーボール協会	大アリーナ・小アリーナ・会議室	2019/10	11日	7,500人
	広島県立総合体育館	バドミントン	全国	第37回全日本バドミントン選手権大会	広島県バドミントン協会	大アリーナ・小アリーナ・会議室	2019/7	4日	4,250人
	広島県立総合体育館	卓球	全国	第32回全国リーグ卓球大会	広島卓球協会	大アリーナ・小アリーナ・会議室	2019/11	4日	4,000人
	広島県立総合体育館	卓球	全国	新日本スポーツ連盟第55回全国卓球(一般)選手権大会	新日本スポーツ連盟第55回全国卓球(一般)選手権大会	大アリーナ・小アリーナ	2019/12	3日	1,100人
	広島県立総合体育館	プロレス	その他	WORLD TAG LEAGUE 2019	新日本プロレスリング株式会社	大アリーナ・大会議室	2019/12	2日	3,050人
	鹿児島アリーナ	総合	全国	令和元年度全国高等学校総合体育大会総開会式	(公財)全国高等学校体育連盟鹿児島県教育委員会他	メインアリーナ	2019/7	1日	2,500人
鹿児島アリーナ	総合	全国	令和元年度全国高等学校総合体育大会	(公財)全国高等学校体育連盟鹿児島市実行委員会	メインアリーナ	2019/7	18日	3,000人	
鹿児島アリーナ	プロレス	その他	DESTRUCTION in KAGOSHIMA	新日本プロレスリング株式会社	メインアリーナ・サブアリーナ	2019/9	1日	5,000人	
鹿児島アリーナ	相撲	その他	大相撲鹿児島場所	大相撲鹿児島場所実行委員会事務局	メインアリーナ	2018/12	1日	5,300人	
鹿児島アリーナ	相撲	その他	大相撲鹿児島場所	大相撲鹿児島場所実行委員会事務局	メインアリーナ	2019/12	1日	5,300人	
カテゴリ3	宮城県総合運動公園総合体育館	バレーボール	全国	全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会	(公財)日本バレーボール協会	メインアリーナ・サブアリーナ	2018/7	3日	2,000人
	宮城県総合運動公園総合体育館	キヌボウ	全国	キヌボウスポーツ ショウオープン・フレンドリー・カップ	(一社)日本キヌボウスポーツ連盟	メインアリーナ	2018/12	2日	1,050人
	宮城県総合運動公園総合体育館	ハンドボール	全国	全日本学生ハンドボール選手権	(公財)日本ハンドボール協会・全日本学生ハンドボール連盟	メインアリーナ・サブアリーナ	2019/11	5日	2,160人
	宮城県総合運動公園総合体育館	フリスビー	全国	全国高等学校選抜フリスビー大会	(公財)日本フリスビー協会(公財)全国高等学校体育連盟	メインアリーナ・サブアリーナ	2020/3	4日	1,000人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	エアロビ	全国	JOCジュニアオリンピック杯全国エアロビクス選手権大会in袋井2020	全国JOC杯エアロビクス選手権大会実行委員会	メインアリーナ	2020/1	1日	1,000人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	弓道	全国	全国高等学校総合体育大会 弓道競技	平成30年度全国高等学校総合体育大会袋井市実行委員会	メインアリーナ/サブアリーナ	2018/7,8	10日	9,780人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	障がい	全国	第25回電動車椅子サッカー選手権大会	(一社)日本電動車椅子サッカー協会	メインアリーナ/サブアリーナ	2019/11	2日	1,100人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	卓球	全国	平成30年度全日本マスターズ卓球選手権大会	静岡県卓球協会	メインアリーナ/サブアリーナ	2018/10	4日	9,250人
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	フットサル	全国	第24回全日本フットサル選手権大会1次ラウンド	静岡県サッカー協会	メインアリーナ/サブアリーナ	2020/3	3日	2,830人	

⁵ 下記一覧には地区大会は掲載していない。また、アンケート票でイベント一覧の提出があった施設は主な大会を5大会程度抽出して掲載しているほか、参加人数について(人/日)で回答がなかったイベントについては、期間で日数を割り返している。

カテゴリ	会場	分類	イベント名称	主催者	開催場所	実施年月	期間	入場人数(人/回)
カテゴリ4	北海道立真駒内公園屋内競技場	ダンス	全国	全日本アマチュアダンス選手権大会	-	全館	2018/9/28~9/30	3日 1,000人
	北海道立真駒内公園屋内競技場	スケート	全国	NHK杯フィギュアスケート大会	(公財) 日本スケート連盟	全館	2019/11/21~11/24	4日 6,000人
	グリーンロード前橋	競輪	その他	第28回寛仁親王牌競輪C1	前橋市	メッセアリーナ	2019/10	4日 6,000人
	グリーンロード前橋	競輪	その他	第29回寛仁親王牌競輪C1	前橋市	メッセアリーナ	2020/10	4日 6,000人
	グリーンロード前橋	自転車	その他	各種自転車競技会	全プロ、高体連ほか	メッセアリーナ	2019/7	6日 1,000人
	グリーンロード前橋	自転車	その他	各種自転車競技会	全プロ、高体連ほか	メッセアリーナ	2020/11	6日 1,000人
	さいたまスーパーアリーナ	自転車	国際	2019ワールド・ブランスさいたまアリーナ	一般社団法人さいたまスポーツコミッション	コミュニティアリーナ	2019/10	2日 1,500人
	さいたまスーパーアリーナ	スケート	国際	ISU世界フィギュアスケート選手権大会2019	日本スケート連盟	メッセアリーナ	2019/3	5日 19,200人
	さいたまスーパーアリーナ	バスケットボール	国際	バスケットボール日本代表国際強化試合2019	日本バスケットボール協会	メッセアリーナ	2019/8	4日 14,000人
	さいたまスーパーアリーナ	バスケットボール	全国	第95回天皇杯・第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会	JBA	メッセアリーナ	2020/1	4日 6,200人
	さいたまスーパーアリーナ	バスケットボール	その他	NBA Japan Games 2019 Presents by Rakuten	楽天グループ	メッセアリーナ	2019/10	2日 27,000人
	福井県産業振興施設	体操	全国	国民体育大会(体操競技)	国体・障害者スポーツ大会実行委員会	メッセアリーナ	2018/10	9日 21,900人
	福井県産業振興施設	障がい	全国	全国障害者スポーツ大会(卓球競技)	国体・障害者スポーツ大会実行委員会	メッセアリーナ	2018/10	2日 3,650人
	神戸ポートアイランドホール	総合	その他	兵庫県「H39 3rd」プロジェクト「H」トコヨバ 2019 ~ひろげるこどもたちの未来~	-	-	-	-
	西日本総合展示場本館	ラグビー	国際	HSBCワールドラグビー女子セブンズシリーズ	北九州市大規模国際大会等誘致委員会	大展示場	2018/4	10日 700人
	西日本総合展示場本館	卓球	国際	タテマツコ大会	北九州市大規模国際大会等誘致委員会	中展示場	2018/6	7日 100人
	西日本総合展示場本館	ダンス	国際	2018年度国際親善九州インターナショナルダンス選手権大会	九州ボールルームダンス連盟	中展示場	2018/6	2日 -
	西日本総合展示場本館	ラグビー	国際	「HSBCワールドラグビー女子セブンズシリーズ北九州大会」ウォームアップ会場	北九州市大規模国際大会等誘致委員会	大展示場・中展示場	2019/4	10日 1,000人
	西日本総合展示場本館	ラグビー	国際	ラグビーワールドカップ2019 公認チームキャンプ	北九州市大規模国際大会等誘致委員会	中展示場	2019/9	17日 100人
	北九州メディアドーム	自転車	全国	全国高等学校選抜自転車競技大会	日本自転車競技連盟 全国高等学校体育連盟	バンク・メッセアリーナ	2019/3	4日 2,000人
	北九州メディアドーム	ダンス	全国	全日本高等学校チームダンス選手権大会	全日本高等学校ダンス連盟	メッセアリーナ	2019/9	1日 3,000人
	北九州メディアドーム	ダンス	全国	全日本高等学校チームダンス選手権大会	全日本高等学校ダンス連盟	メッセアリーナ	2018/9	2日 3,000人
	北九州メディアドーム	卓球	その他	卓球Tリーグ	Tリーグ	メッセアリーナ	2018/12	2日 2,300人
	カテゴリ5	群馬県総合スポーツセンターくまアリーナ	トウジボール	全国	全日本小学生トウジボール選手権大会	群馬県トウジボール協会	メッセアリーナ	2018/8
群馬県総合スポーツセンターくまアリーナ		弓道	全国	全国高等学校弓道選抜大会	群馬県高体連弓道専門部	メッセアリーナ	2020/2	5日 50人
武蔵野の森総合スポーツプラザ		テニス	国際	楽天ジャパンオープン	日本テニス協会	メッセアリーナ	2018/10	7日 7,700人
武蔵野の森総合スポーツプラザ		バレーボール	全国	春の高校バレー 第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会	日本バレーボール協会	メッセアリーナ	2020/1	5日 12,700人
武蔵野の森総合スポーツプラザ		バスケットボール	全国	SoftBank ウインターカップ2019 全国高等学校バスケットボール選手権大会	日本バスケットボール協会	メッセアリーナ	2019/12	7日 7,900人
いしかわ総合スポーツセンター		バスケットボール	B1リーグ	B2リーグ金沢武士団	北陸スポーツ振興協議会(株)	メッセアリーナ	2018/11	2日 3,500人
いしかわ総合スポーツセンター		卓球	Tリーグ	T1リーグ2018/19シーズン	一般社団法人Tリーグ	メッセアリーナ	2018/11	1日 2,500人
いしかわ総合スポーツセンター		バレーボール	Vリーグ	2018/19V-LEAGUE division1 女子石川大会	石川県バレーボール協会	メッセアリーナ	2018/11	2日 3,000人
いしかわ総合スポーツセンター		弓道	全国	全日本弓道選抜選手権大会	石川県弓道連盟	メッセアリーナ	2018/10	1日 500人
いしかわ総合スポーツセンター		ウェイトリフティング	全国	全日本ウェイトリフティング選手権大会	石川県ウェイトリフティング協会	サブアリーナ、マルチバース	2018/5	3日 500人
長野市オリンピック記念アリーナ		スケート	全国	全日本スピードスケート距離別選手権大会	日本スケート連盟	メッセアリーナ	2018/10	3日 2,000人
長野市オリンピック記念アリーナ		スケート	全国	全国中学校スケート大会	日本スケート連盟	メッセアリーナ	2019/1	4日 2,000人
長野市オリンピック記念アリーナ		スケート	全国	全日本スピードスケート選手権大会	日本スケート連盟	メッセアリーナ	2019/12	4日 1,500人
長野市オリンピック記念アリーナ		スケート	全国	全国中学校スケート大会	日本スケート連盟	メッセアリーナ	2020/2	4日 2,000人
長野市若里多目的スポーツアリーナ		スケート	全国	全国中学校スケート大会(フギュア)	-	アリーナ	2019/1	6日 1,000人
長野市若里多目的スポーツアリーナ		スケート	全国	全国中学校スケート大会(フギュア)	-	アリーナ	2020/1	6日 1,000人
浜松アリーナ		バレーボール	国際	FIVB ワールドカップ2019 女子浜松大会	一般社団法人静岡県バレーボール協会	全館	2019/9	5日 2,700人
浜松アリーナ		体操	全国	カワイカップ全国器械体操競技大会	関河合楽器製作所体育事業部	メッセアリーナ	2018/8	1日 280人
浜松アリーナ		居合道	全国	全日本居合道段別競技大会	全日本居合道連盟	メッセアリーナ	2019/10	1日 600人
浜松アリーナ		プロレス	その他	新日本プロレスG1 CLIMAX29	IKGプロレスショー	メッセアリーナ	2019/8	1日 3,300人
浜松アリーナ		格闘技	その他	RIZIN.21	興ドームフットボールワールドワイド	メッセアリーナ	2020/2	1日 6,800人
京都府立体育館		バスケットボール	B1リーグ	B1リーグ(京都ハンナリーズホームゲーム)	-	-	2019/12/14~15	2日 2,515人
京都府立体育館		バレーボール	V1リーグ	V1リーグDivision京都大会(バレーボール)	-	-	2019/11/23~24	2日 1,736人
京都府立体育館		太極拳	全国	JOCCジュニアオリンピック杯武術太極拳大会	-	-	2019/4/20~21	2日 500人
京都府立体育館	バスケットボール	全国	全日本バスケット2次ラウンド決定試合	-	-	2019/11/30~12/1	2日 734人	
京都府立体育館	相撲	その他	大相撲京都場所	-	-	2019/10/18	1日 5,300人	
熊本県立総合体育館	バレーボール	V1リーグ	2018-19V1リーグ熊本大会	熊本県バレーボール協会	メッセアリーナ	2019/2	4日 7,000人	
熊本県立総合体育館	ハンドボール	国際	2019女子ハンドボール世界選手権大会組織委員会	熊本県教育庁教育指導局体育保健課	メッセアリーナ	2019/11	21日 10,000人	
熊本県立総合体育館	バスケットボール	全国	第53回全国高等学校体育大会バスケットボール競技	熊本高等専門学校熊本キャンパス	メッセアリーナ	2018/8	4日 1,600人	
熊本県立総合体育館	剣道	全国	令和元年度全国高等学校総合体育大会 剣道競技	熊本県教育庁教育指導局体育保健課	メッセアリーナ	2019/7	10日 2,000人	

② コンサート・その他イベント

主なイベントは、コンサート、ショー（アイスショー、マーチングフェスティバル）、その他イベント（展示会、学会、研修会）など。

施設によるが、回答があったイベントのうち、コンサートと MICE の開催が多く、コンサートは概ね開催期間が 1 日～ 8 日、来場者数は 1,000 人～30,000 人、MICE は 1 日～ 7 日、来場者数は 200 人～30,000 人と、いずれも幅があるという結果となっている。

表 46 施設で開催された／開催予定の主なコンサート・その他イベント⁶

カテゴリ	会場	分類	イベント名称	主催者	開催場所	実施年月	期間	入場人数(人)
カテゴリ1	仙台市体育館	MICE	全国レジャー・ショー大会in宮城2019		メイン・サブアリーナ	2019/9/14~15	2日	-
	高崎アリーナ	MICE	日本身体障害者福祉大会	群馬県身体障害者福祉団体連合会	メインアリーナ	2018/6	1日	3,000人
	高崎アリーナ	MICE	上毛新聞進学説明会	(株) 栄美通信 / 上毛新聞社	メインアリーナ	2018/6	1日	500人
	高崎アリーナ	コンサート	TAKASAKI ARENA LIVE FESTIVAL GBGB2018	有限責任事業組合 信誠会	メインアリーナ	2018/5	2日	7,500人
	高崎アリーナ	コンサート	TAGO STUDIO MUSIC FESTIVAL2019	TAGO STUDIO / 高崎財団	メインアリーナ	2019/6	1日	5,000人
	高崎アリーナ	ショー	高崎マーチングフェスティバル	高崎マーチングフェスティバル協会	メインアリーナ	2018/10	2日	4,000人
	大阪府立門真スポーツセンター	ショー	メロリスト・オン・アイス	メロリスト・オン・アイス2018実行委員会	メインアリーナ	2018/12	1日	6,000人
	大阪府立門真スポーツセンター	ショー	スターズ・オン・アイス	MBS, TBS, IMG, DG	メインアリーナ	2019/3	3日	4,700人
	大阪府立門真スポーツセンター	ショー	浅田真央スケイツター	IMG	メインアリーナ	2020/1	2日	5,900人
	高松市総合体育館	MICE	マイナビ進学フェア	㈱マイナビ	第1競技場	2018/6	1日	500人
高松市総合体育館	MICE	就活応援 進路相談フェア	㈱リクルート	第1競技場	2018/8	1日	500人	
カテゴリ2	あづま総合体育館	MICE	トミカブレードパラダイス	㈱テレビユー福島	メインアリーナ	2019/8	6日	23,700人
	あづま総合体育館	MICE	ふくしまキッズ博	(公財) 福島県都市公園・緑化協会	メインアリーナ	2018/7	2日	20,000人
	あづま総合体育館	MICE	ふくしまキッズ博	(公財) 福島県都市公園・緑化協会	メインアリーナ	2019/7	2日	22,000人
	あづま総合体育館	コンサート	THE YELLOW MONKEY SUPER JAPAN TOUR	㈱GIP	メインアリーナ	2019/9	2日	4,600人
	あづま総合体育館	ショー	ジャパウォークinFUKUSHIMA2019	㈱ニッポン放送プロジェクト	メインアリーナ	2019/6	1日	1,200人
	舞洲アリーナ	コンサート	ザマーズ・オン・アイス2018	株式会社キョードー	メインアリーナ	2018/8/18.19	2日	-
	舞洲アリーナ	コンサート	ザマーズ・オン・アイス2019	株式会社キョードー	メインアリーナ	2019/8/16~18	3日	-
	大阪府中央体育館	MICE	ベネッセこどもお祭りinJ	(株)キョードー・マナジメンツシステムズ	全館	2019/4	1日	20,500人
	大阪府中央体育館	MICE	未来創造展2020	学校法人日本教育財団	メインアリーナ	2020/1	1日	4,000人
	大阪府中央体育館	MICE	2020 National Conbention	(一財) 全国福利厚生共済会	メインアリーナ	2020/1	1日	10,000人
	大阪府中央体育館	コンサート	STING	(株)大阪ワイド音楽事務所	メインアリーナ	2019/10	1日	7,500人
	大阪府中央体育館	ショー	THE ICE 2019	(株)キョードー・マナジメンツシステムズ	メインアリーナ	2019/7	2日	24,000人
	岡山県総合グラウンド体育館	MICE	第10回全国理容美容学生技術大会	公益社団法人日本理容美容教育センター	体育館全館	2018/11	1日	3,600人
	広島県立総合体育館	MICE	このまち思いがけ	広島ガス株式会社	メインアリーナ・大会議室	2019/10	5日	5,900人
	広島県立総合体育館	コンサート	THE RAMPAGE from EXILE TRIBEコンサート	株式会社ラッシュ	メインアリーナ・大会議室	2019/4	4日	4,100人
	広島県立総合体育館	コンサート	ONE OK ROCK 2019-2020 "Eye of the Storm"	株式会社キャンディプロモーション	メインアリーナ・大会議室	2019/10	3日	4,800人
	広島サンブラスホール	コンサート	ザザオールスターズLIVE TOUR2019	㈱キャンディプロモーション	メインアリーナ	2019/4	2日	10,000人
	広島サンブラスホール	コンサート	ALEXANDROS	㈱夢音地	メインアリーナ	2019/4	1日	4,000人
	広島サンブラスホール	コンサート	サカクシ	㈱夢音地	メインアリーナ	2019/4	1日	4,500人
	広島サンブラスホール	コンサート	Suchmos	㈱夢音地	メインアリーナ	2019/5	1日	3,500人
広島サンブラスホール	コンサート	Superfly Arena Tour2019	㈱夢音地	メインアリーナ	2019/11	1日	4,000人	
大村市体育文化センター	MICE	長崎県オール3大高談会	㈱九州広告	メインアリーナ	2018/9	3日	6,900人	
大村市体育文化センター	MICE	県PTA研究大会	大村市PTA連合会	メインアリーナ	2018/11	1日	2,000人	
大村市体育文化センター	コンサート	海上自衛隊隊員マスコット	海上自衛隊	メインアリーナ	2018/12	1日	1,800人	
大村市体育文化センター	ショー	アリス&マーチングフェスティバル	アリス&マーチングフェスティバル実行委員会	メインアリーナ	2018/5	1日	3,000人	
鹿児島アリーナ	MICE	第63回日本PTA九州ブロック研究大会鹿児島大会	鹿児島県PTA連合会	メイン・サブアリーナ	2018/10	2日	6,000人	
鹿児島アリーナ	MICE	第51回全国商工会議所女性会連合会鹿児島全国大会	鹿児島商工会議所	メイン・サブアリーナ	2019/9	1日	3,500人	
鹿児島アリーナ	コンサート	宮井紀行デビュー20周年ワンマンライブ2020	SRプロジェクト	メインアリーナ	2020/1	1日	4,500人	
鹿児島アリーナ	コンサート	B2 LIVE-GYM 2019	(株)ビクターエンタツ	メインアリーナ	2019/6	2日	5,000人	
鹿児島アリーナ	ショー	アイス・オン・アイス・ライブ・ユア・ドリームス	アイス・オン・アイス鹿児島公演事務局	メインアリーナ	2019/8	3日	9,900人	
カテゴリ3	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	MICE	第17回日本学生フォーミュラ大会	(公社)自動車技術会	メインアリーナ	2019/8	5日	524人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	MICE	こどもみらいプロジェクト	(株)静岡新聞社/IDM/011	メインアリーナ	2019/6	1日	10,513人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	コンサート	Newsコンサート	(株)ワグネル・メディア・サービス	メインアリーナ	2018/4	5日	4,826人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	コンサート	Hey!Say!JUMPコンサート	(株)ワグネル・メディア・サービス	メインアリーナ	2018/9	3日	7,290人
	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	ショー	Fantasy on Ice	(株)静岡朝日テレビ	メインアリーナ	2018/6,7	3日	6,408人
カテゴリ4	北海道立真駒内公園屋内競技場	MICE	わんにゃんフェスタ2019	(株)ハンコクラブ	全館	2019/5/5~6	2日	5,000人
	北海道立真駒内公園屋内競技場	コンサート	KTM TOUR 2019	(株)ウエス	全館	2019/4/6	1日	6,200人
	北海道立真駒内公園屋内競技場	コンサート	SEKAI NO OWARI TOUR 2019	(株)マツコクラブ	全館	2019/6/14~16	3日	7,000人
	北海道立真駒内公園屋内競技場	コンサート	AAAコンサート	(株)ウエス	全館	2019/7/13	1日	10,000人
	北海道立真駒内公園屋内競技場	コンサート	KATUNコンサート	(株)ミュージックファン	全館	2019/9/28~29	2日	6,000人
	グリーン・ドーム前橋	MICE	第72回前橋市成人式	成人式実行委員会	メインアリーナ	2020/1	1日	2,135人
	グリーン・ドーム前橋	MICE	スノーボード天国	㈱P S J	メインアリーナ	2019/11	2日	4,800人
	グリーン・ドーム前橋	コンサート	山人音楽祭2019	㈱デイズガレージ	メインアリーナ	2019/9	2日	18,000人
	グリーン・ドーム前橋	ショー	群馬ファッションショー2020	㈱鶴屋	メインアリーナ	2020/2	2日	5,843人
	グリーン・ドーム前橋	ショー	群馬インバネーションワード2019	上毛新聞社	メインアリーナ	2019/12	1日	2,000人
	さいたまスーパーアリーナ	コンサート	THE RAMPAGE LIVE TOUR 2019 "THROW YA FIST"	㈱デイズガレージ	メインアリーナ	2019/4	4日	16,000人
	さいたまスーパーアリーナ	コンサート	史上最強の移動遊園地 DREAMS COME TRUE WONDERLAND 2019	㈱ホットスタフ・プロモーション	スタジアム	2019/7	2日	26,000人
	さいたまスーパーアリーナ	コンサート	U2 THE JOSHUA TREE TOUR 2019	㈱ハヤシタターナショナルプロモーション	メインアリーナ	2019/12	2日	20,000人
	さいたまスーパーアリーナ	コンサート	SEKAI NO OWARI TOUR 2019 [The Colors]	㈱デイズガレージ	メインアリーナ	2019/6	2日	18,000人
	さいたまスーパーアリーナ	コンサート	QUEEN + ADAM LAMBERT THE RHAPSODY TOUR	㈱クリエイティブプロダクション	スタジアム	2020/1	2日	30,000人
	神戸ポートアイランドホール	MICE	平成31年度 神戸大学入学式	-	-	-	-	-
	神戸ポートアイランドホール	コンサート	2019 WAY BACK XIA TOUR CONCERT IN JAPAN	-	-	-	-	-
	神戸ポートアイランドホール	コンサート	THE YELLOW MONKEY SUPER JAPAN TOUR 2019	-	-	-	-	-
	神戸ポートアイランドホール	コンサート	ゴールデンボンバー 全国ツアー2019	-	-	-	-	-
	神戸ポートアイランドホール	コンサート	GLAY ARENA TOUR 2019-2020	-	-	-	-	-
西日本総合展示場本館	MICE	下水道展	北九州市	大展示場・中展示場	2018/7	7日	31,611人	
西日本総合展示場本館	MICE	TGC	株式会社WTKOYO	大展示場・中展示場	2018/10	2日	13,200人	
西日本総合展示場新館	MICE	下水道展	北九州市	大展示場・中展示場	2018/7	7日	31,611人	
西日本総合展示場新館	MICE	TGC	(株)WTKOYO	大展示場・中展示場	2018/10	2日	13,200人	
北九州メッセイトーム	MICE	北九州市民暴力追放総決起大会	北九州市安全・安心相談センター	メインアリーナ	2018/8	1日	2,000人	
北九州メッセイトーム	MICE	北九州市成人式	北九州市	メインアリーナ	2019/1	1日	8,000人	
北九州メッセイトーム	MICE	北九州市成人式	北九州市	メインアリーナ	2020/1	1日	7,300人	
北九州メッセイトーム	ショー	ふしとスペシャルライブ	㈱読売新聞西部本社	メインアリーナ	2018/9	1日	6,000人	
カテゴリ5	武蔵野の森総合スポーツプラザ	コンサート	Hey!Say!Jump	キョードー東京	メインアリーナ	2018/9	2日	16,500人
	武蔵野の森総合スポーツプラザ	コンサート	ライブサンシャイン	H.I.P.	メインアリーナ	2019/3	3日	15,500人
	武蔵野の森総合スポーツプラザ	コンサート	新しい地図	キョードー東京	メインアリーナ	2019/2	3日	12,000人
	いしかわ総合スポーツセンター	コンサート	小田和正コンサート	(株)サンライズプロモーション北陸	メインアリーナ	2018/8	2日	13,000人
	いしかわ総合スポーツセンター	ショー	ファンタジー・オン・アイス2018	(株)サンライズプロモーション北陸	メインアリーナ	2018/6	3日	15,000人
	いしかわ総合スポーツセンター	ショー	スターズ・オン・アイス2019金沢公演	木下グループ、石川テレビ放送	メインアリーナ	2019/4	3日	12,000人
	長野市オリンピック記念アリーナ	コンサート	畷坂広臣	キョードー北陸	メインアリーナ	2018/8	8日	1,000人
	長野市オリンピック記念アリーナ	コンサート	RAMPAGE	キョードー北陸	メインアリーナ	2019/3	5日	2,000人
	長野市オリンピック記念アリーナ	コンサート	Newsコンサート	キョードー北陸	メインアリーナ	2019/5	4日	10,000人
	長野市若里多目的スポーツアリーナ	コンサート	セイウチオブリ	キョードー北陸	アリーナ	2019/4	7日	2,000人
	長野市若里多目的スポーツアリーナ	コンサート	back number	キョードー北陸	アリーナ	2019/5	4日	3,000人
	長野市若里多目的スポーツアリーナ	コンサート	松任谷由実	キョードー北陸	アリーナ	2019/5	4日	3,500人
	長野市若里多目的スポーツアリーナ	コンサート	sexy zone	キョードー北陸	アリーナ	2019/5	4日	3,750人
	長野市若里多目的スポーツアリーナ	コンサート	EXILEシヨウキチ	キョードー北陸	アリーナ	2019/6	6日	2,000人
	浜松アリーナ	MICE	全国フォークダンス1・2級指導者研修会	日本フォークダンス連盟	メインアリーナ	2018/4	3日	200人
浜松アリーナ	MICE	全国レジャー・ショーダンス1・2級指導者講習会	日本フォークダンス連盟	メインアリーナ	2019/2	3日	380人	
浜松アリーナ	MICE	就活開場 L I V E 浜松	㈱ニュースベース	メインアリーナ	2019/3	1日	1,000人	
浜松アリーナ	MICE	全国フォークダンス1・2級指導者研修会	日本フォークダンス連盟	メインアリーナ	2020/4	3日	200人	
浜松アリーナ	MICE	全国レジャー・ショーダンス指導者講習会	日本フォークダンス連盟	メインアリーナ	2020/2	3日	380人	

⁶ アンケート票でイベント一覧の提出があった施設は主なイベントを5つ程度抽出して掲載している。

3-6.収支状況

年間運営収入及び年間運営支出（維持管理費、運営費及び光熱水費）について、回答があった施設の自立度（年間運営収入/年間運営支出）を算出した結果、多目的利用の比率が高い施設（スポーツ以外が過半数）の自立度が高くなる傾向を確認できた。

表 カテゴリ別平均一覧

カテゴリー	利用率【スポーツ】	利用率【スポーツ以外】	自立度
カテゴリ 1	99.8% ⁷	0.3%	0.28
カテゴリ 2	67.5%	32.5%	0.58
カテゴリ 3	—	—	—
カテゴリ 4	8.2%	91.8%	2.09
カテゴリ 5	—	—	0.35

3-7.その他の調査項目

今回類似施設調査を行った結果として、今後の検討に資するものとして、下記の項目について調査結果をまとめる。

① 施設整備費等

施設整備費等については、設計、建設、工事監理費等の合計である総事業費の平均は約163億円という結果となった。ただし、総事業費合計は施設の規模等による変動も大きいと推定され、非常に幅がある結果となった。

② 年間の維持管理費、指定管理料等

年間の維持管理費、指定管理料等についても、施設によって大きく異なるという結果となった。

指定管理料については、複数施設を包括している指定管理者が多く、一概には平均値を出せないが、期間は5年としている施設が最多であった。なお、期間5年としている施設について、備考欄に特に考慮すべき事項があげられていなかった施設の平均値は、期間合計で883百万円という結果となったが、指定管理料はその業務範囲によって大きく差が生まれるため、業務範囲を踏まえた設定が必要となる。

⁷ 小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%とにならない。

3-8.整備中の施設からの回答

整備中の施設へのアンケート調査結果については、下記のとおりであった。

なお、いずれの施設も整備検討中であり、未定の項目が多く、回答数値も概数である。

① メインアリーナの規模等

メインアリーナの規模については、下表のとおりであった。

表 メインアリーナの規模等(整備中の施設)

No.	名称	固定席数 (席)	可動席数 (席)	最大収容人 数(人)	諸室の広さの目安
6	栃木県新体育館	3,000	2,000	回答無し	バスケット4面
21	愛知県新体育館	回答無し	回答無し	回答無し	諸室面積:提案による、席数:固定・可動を問わず15,000席以上
24	滋賀県新県立体育館	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し
37	香川県新県立体育館	回答無し	回答無し	回答無し	回答無し
46	SAGAアリーナ	6,300	2,100	10,000	バスケット、バレー2面(原則センターコートでの利用を想定)

② プロスポーツの本拠地利用

プロスポーツの本拠地利用については、5施設のうち3施設が利用予定と回答し、未定と回答した1施設も利用見込みがあるという回答であった。

表 プロスポーツの本拠地利用(整備中の施設)

No.	名称	プロスポーツ 利用	チーム名
6	栃木県新体育館	あり	Bリーグ:宇都宮ブレックス
21	愛知県新体育館	未定	回答無し
24	滋賀県新県立体育館	あり	Bリーグ:滋賀レイクスターズ、Vリーグ:東レアローズ
37	香川県新県立体育館	未定	Bリーグ:香川ファイブアローズ(ホームアリーナとしての利用は未定)
46	SAGAアリーナ	あり	Bリーグ:佐賀バルナーズ、Vリーグ:久光スプリングス

③ 大会・イベント誘致に向けて特に力を入れて取り組んでいること

大会・イベント誘致に向けた取り組みについては、関係機関との連携、類似施設の調査や関係者へのヒアリング、専門部署の設置などが挙げられた。

表 大会・イベント誘致に向けて特に力を入れて取り組んでいること(整備中の施設)

No.	名称	現施設での大会・イベント誘致に向けて、特に力を入れて取り組んでいること
6	栃木県新体育館	特になし
21	愛知県新体育館	未定
24	滋賀県新県立体育館	スポーツ合宿専門企業と連携等
37	香川県新県立体育館	施設・設備面での機能性等の確保。このため、全国の類似施設調査を行うとともに、スポーツやイベント関係者からも意見を伺い、様々なイベント開催するために必要な仕様を設計内容に反映させている。
46	SAGAアリーナ	県庁内にアリーナ利用促進チームを配置し、興行予定者などとの関係構築、利用促進活動に取り組んでいる。

第2章 各種スポーツ大会の開催状況の調査・分析

1. 中央競技団体への調査

1-1. 調査方法

本施設での全国大会等を中心とした競技大会の利用意向を把握するため、17の中央競技団体に対して、アンケートを実施した。

アンケートでは、本施設で開催可能性がある全国大会等とその開催にあたって必要な施設規模や構成、立地条件等を確認した。

1-2. 調査回答団体

アンケート票への回答は17団体中14団体から得ることができた。なお、回答が得られなかった3団体からは利用意向がない旨を確認した。

表 アンケート調査対象団体及び回答の有無

No.	団体名	回答	備考
1	(一社)日本ボクシング連盟	○	
2	(公財)日本バレーボール協会	○	
3	(公財)日本体操協会	×	利用意向がない旨を確認
4	(公財)日本バスケットボール協会	○	
5	(公財)日本レスリング協会	○	
6	(公社)日本ウエイトリフティング協会	○	
7	(公財)日本ハンドボール協会	○	
8	(公財)日本卓球協会	○	
9	(公社)日本フェンシング協会	○	
10	(公財)全日本柔道連盟	○	
11	(公財)日本バトミントン協会	○	
12	(公財)全日本弓道連盟	○	
13	(一財)全日本剣道連盟	×	利用意向がない旨を確認
14	(公財)全日本空手道連盟	×	利用意向がない旨を確認
15	(公社)全日本銃剣道連盟	○	
16	(公財)全日本なぎなた連盟	○	
17	(公財)日本障がい者スポーツ協会	○	

1-3. 調査結果

アンケート調査の結果、14 団体中 8 団体から利用意向がある旨を確認することができた。誘致可能性がある全国大会等については国際大会を含め 17 大会という回答であった。

表 誘致可能性がある全国大会等とその誘致等の条件

団体名	大会名	大会規模	開催に必要な施設規模/構成/条件	立地条件(必須条件)	
				立地条件(必須条件)	立地条件(望ましい条件)
日本ボクシング連盟	全九州高校総体(ボクシング)	九州大会	試合をするアリーナ以外に、アップをする小アリーナが必要	県外からの選手が多いので、公共の交通機関を利用して来県できること	ボクシング競技は試合以外に毎朝の健診もあるので、周辺に宿泊施設が多い方が望ましい
日本ボクシング連盟	全九州高等学校新人ボクシング競技大会	九州大会	試合をするアリーナ以外に、アップをする小アリーナが必要	県外からの選手が多いので、公共の交通機関を利用して来県できること	ボクシング競技は試合以外に毎朝の健診もあるので、周辺に宿泊施設が多い方が望ましい
日本ボクシング連盟	国民体育大会九州ブロック大会(ボクシング)	九州大会	試合をするアリーナ以外に、アップをする小アリーナが必要	県外からの選手が多いので、公共の交通機関を利用して来県できること	ボクシング競技は試合以外に毎朝の健診もあるので、周辺に宿泊施設が多い方が望ましい
日本バレーボール協会	全日本実業団選手権大会	全国大会	メイン4面、サブ2面有ることが望ましい 冷暖房完備	-	最寄り駅から徒歩圏内が望ましい、 宿泊場所から徒歩圏内が望ましい
日本バレーボール協会	全日本クラブカップ選手権大会	全国大会	メイン4面、サブ2面有ることが望ましい 冷暖房完備 要男子9人制用支柱穴	-	最寄り駅から徒歩圏内が望ましい、 宿泊場所から徒歩圏内が望ましい
日本バスケットボール協会	日本代表国際試合	国際大会	観客収容 5000人以上	交通アクセス良好	周辺に国際級ホテル
日本バスケットボール協会	天皇杯皇后杯前日本バスケットボール選手権大会1次ラウンド	西日本大会	観客収容 2000人以上、コート3面設置	交通アクセス良好	周辺に国際級ホテル
日本ウエイトリフティング協会	全日本ウエイトリフティング選手権大会	全国大会	アリーナ床のウエイトリフティング用の補強	特になし	宿泊会場と会場に近いことが望ましい。
日本ウエイトリフティング協会	JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会	全国大会	アリーナ床のウエイトリフティング用の補強	特になし	宿泊会場と会場に近いことが望ましい。
日本ハンドボール協会	日本選手権(男子の部)	全国大会	観客席1,000人以上、諸室(更衣室4室以上)、館内空調設備	特になし	特になし
日本ハンドボール協会	日本選手権(女子の部)	全国大会	観客席1,000人以上、諸室(更衣室4室以上)、館内空調設備	特になし	特になし
日本ハンドボール協会	JAPANCUP(MEN)	国際大会	観客席1,000人以上、諸室(更衣室4室以上)、館内空調設備	特になし	特になし
日本ハンドボール協会	JAPANCUP(WOMEN)	国際大会	観客席1,000人以上、諸室(更衣室4室以上)、館内空調設備	特になし	特になし
日本フェンシング協会	全国小学生フェンシング選手権大会	全国大会	床面が養生できること、機材の搬入が容易であること、観客席・役員等控室と競技場の移動が容易であること、競技会場の電源が多いこと、競技場以外は土足が使用できること	-	周辺に宿泊施設やコンビニ等が存在すること。交通の便が良い。
全日本弓道連盟	全国高等学校弓道選抜大会	全国大会	仮設の弓道場が設営できること	アクセスがいいこと	宿泊施設が多数存在すること
全日本弓道連盟	全日本弓道遠征選手権大会	全国大会	仮設の遠征的弓道場が設営できること	アクセスがいいこと	宿泊施設が多数存在すること
全日本銃剣道連盟	全九州銃剣道・短剣道大会	九州大会	サブアリーナを有していること	-	競技者登録者(会員)に自衛官が多数いるため、県内陸上自衛隊駐屯地(国分・川内)車で30分以内程度に位置しているとよい。

2. 県内競技団体への調査

2-1. 調査方法

本施設における県大会等の競技大会の利用意向を把握するため、県内の17競技団体に対して、鹿児島県が実施したアンケート及びヒアリング結果をもとに調査・分析を行った。

アンケート及びヒアリングでは、県大会の実施見込みのほか、全国大会等の誘致可能性、本施設に対する意見等についても確認した。

2-2. 調査結果

現在、県内競技団体主催の各種大会は216大会あり、これらの大会について、本施設整備後の利用意向の有無を確認した結果、91の大会について利用意向あり、111の大会について条件付きで利用意向ありとの回答があり、計202の大会について利用する可能性があるという結果となった。

また、全国大会等については55の大会（全国大会35，西日本大会1，九州大会19）について誘致の可能性があるという結果となった。

表 各種大会の開催状況

競技名	大会数	日数	参加人数
バレーボール	26	43	47,410
体操	20	38	7,010
バスケットボール	21	62	63,700
ハンドボール	15	32	4,810
卓球	39	50	18,819
バドミントン	18	44	18,791
ボクシング	5	10	490
レスリング	2	3	75
ウエイトリフティング	—	—	—
空手道	8	12	5,220
柔道	15	19	8,845
弓道	15	20	4,555
剣道	20	23	10,590
銃剣道	1	1	180
なぎなた	3	3	214
フェンシング	2	4	252
障害者スポーツ	6	7	528
計	216	371	191,489

表 誘致可能性がある全国大会等⁸

No.	種目	大会名	種別	開催期間	日数 (日)
1	バレーボール	全日本実業団選手権大会	全国大会	7/26～29	4
2	バレーボール	全日本クラブカップ選手権大会	全国大会	8/2～4, 8/9～12	7
3	バレーボール	全国高校総体バレーボール大会	全国大会	7/24～28, 7/30～8/3	10
4	バレーボール	全日本バレーボール小学生大会	全国大会	8/6～9	4
5	バレーボール	全国ソフトバレーシルバーフェスティバル	全国大会	10/11～13	3
6	体操	全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会	全国大会	8/30～9/1	3
7	体操	全日本学生新体操選手権大会	全国大会	8/25～27	3
8	体操	全国中学校体育大会(新体操)	全国大会	8/24～25	2
9	体操	九州小学生体操大会	九州大会	8/20～23	4
10	体操	九州中学校体育大会(新体操)	九州大会	8/8～9	2
11	体操	全九州高校新体操競技大会	九州大会	6/14～16	3
12	バスケットボール	全国高校総体バスケットボール大会	全国大会	7/27～8/2	7
13	バスケットボール	全国中学校バスケットボール大会	全国大会	8/22～25	4
14	バスケットボール	全日本社会人O-40/O-50バスケットボール選手権大会	全国大会	11/23～25	3
15	ハンドボール	日本選手権大会	全国大会	11/19～24, 12/24～28	11
16	ハンドボール	全国小学校ハンドボール大会	全国大会	8/1～5	5
17	ハンドボール	全国中学校体育大会(ハンドボール)	全国大会	8/20～23	4
18	ハンドボール	全日本社会人ハンドボール選手権大会	全国大会	5/8～12	5
19	ハンドボール	九州学生ハンドボールリーグ春季大会	九州大会	4/30～5/4	5
20	ハンドボール	九州学生ハンドボールリーグ秋季大会	九州大会	8/25～29	5
21	バドミントン	全国高等学校選抜バドミントン大会	全国大会	3/23～27	5
22	卓球	全国ホープス卓球大会	全国大会	8/14～16	3
23	バドミントン	全九州小学生バドミントン選手権大会	九州大会	10/19～20	2
24	バドミントン	九州中学生バドミントン大会	九州大会	2/23～24	2
25	バドミントン	全九州高等学校選抜バドミントン競技大会	九州大会	12/20～23	4
26	バドミントン	全九州レディースバドミントン選手権大会	九州大会	10/13	1
27	空手	全日本実業団空手道選手権大会	全国大会	11/17	1
28	空手	九州ブロックススポーツ少年団交流大会	九州大会	8/17～18	2
29	空手	全国中学生空手道選手権大会	全国大会	8/16～18	3
30	空手	全国高等学校空手道選抜大会	全国大会	3/25～27	3
31	柔道	全日本実業柔道団体対抗大会	全国大会	6/8～9	2
32	柔道	全日本実業柔道個人選手権大会	全国大会	9/14～15	2
33	柔道	九州柔道選手権大会	九州大会	3/10	1
34	柔道	スポーツひのまるキッズ九州小学生柔道大会	九州大会	1/19	1
35	柔道	マルちゃん杯全日本少年柔道大会	全国大会	9/22	1
36	柔道	全九州高校柔道大会	九州大会	6/15～16	2
37	柔道	全国中学校柔道大会	全国大会	8/17～20	4
38	柔道	九州高等学校新人柔道大会	九州大会	11/9～10	2
39	柔道	全日本選抜柔道体重別選手権大会	全国大会	4/6～7	2
40	剣道	全九州少年剣道優勝大会	九州大会	6/23	1
41	剣道	九州中学校剣道競技大会	九州大会	8/3～5	3
42	剣道	全九州高校剣道大会	九州大会	7/6～7	2
43	剣道	全国教職員剣道大会	全国大会	8/11	1
44	剣道	全日本東西対抗剣道大会	全国大会	9/22	1
45	剣道	全国中学校体育大会(剣道)	全国大会	8/21～23	3
46	なぎなた	西日本学生なぎなた選手権大会	西日本大会	11/17	1
47	なぎなた	全日本学生なぎなた選手権大会	全国大会	8/11	1
48	なぎなた	全日本なぎなた選手権大会	全国大会	12/1	1
49	なぎなた	JOCジュニアオリンピックカップ全国中学生なぎなた大会	全国大会	7/27～28	2
50	なぎなた	全国高校総体なぎなた競技大会	全国大会	8/9～12	4
51	フェンシング	全国高校総体フェンシング大会	全国大会	7/26～30	5
52	フェンシング	全国高等学校選抜フェンシング大会	全国大会	3/20～22	3
53	フェンシング	全九州フェンシング選手権大会	九州大会	7/14～15	2
54	弓道	全日本弓道遠的選手権大会	全国大会	10/18～20	3
55	銃剣道	全九州銃剣道・短剣道大会	九州大会	2/9	1
合計					171
うち九州大会					45

⁸ 開催期間、日数は、みずほ総合研究所(株)調べ

なお、全国・国際大会などの誘致・開催については、開催に必要な規模・構成を備えた施設があることが前提となることから、施設の規模・構成等を検討している現時点では、具体的な誘致可能性について回答しにくい面があったと考えられる。

一部の中央競技団体から条件が合えば国際大会の開催も考えられるとの意見があったことや、類似施設における開催状況を踏まえると、現時点で定量的な予測はできないものの、例えば、アリーナスポーツ協議会が示したアリーナ標準においてバスケットボール等の国際大会に必要とされている観客席 8 千席程度を備えた施設を整備するなどにより、今後、大規模な国際大会の誘致・開催の可能性があると考えられる。

2-3. 本施設に対する意見・要望

県内の 17 競技団体へのアンケート及びヒアリングを実施する中で、本施設の整備に関して以下のような意見、要望が出された。

(主な意見・要望)

- ・ 全国大会や国際大会の開催に対応できる施設規模、設備を望む。
- ・ 全国大会等の大規模な大会では、サブアリーナ等のアップスペースが必要である。
- ・ 円滑な大会運営には会議室、更衣室等諸室が充実していることが必要である。
- ・ 競技用具の保管スペースの確保を望む。
- ・ バリアフリーに配慮した施設を望む。

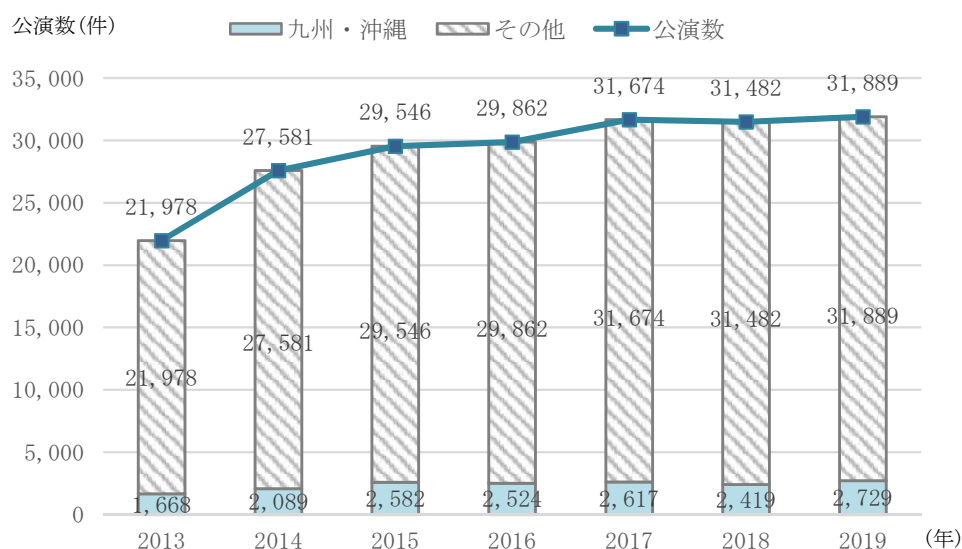
【II 「多目的利用による交流拠点」機能の調査編】

第1章 国内のコンサート・イベント市場動向等の分析

1. 国内のコンサート市場動向等分析

2019年までのコンサート市場の動向を分析したところ、国内及び九州・沖縄エリアにおけるコンサート等⁹の公演数、年間動員数、市場規模は、拡大傾向で推移していた。

図 国内におけるコンサート等の公演数



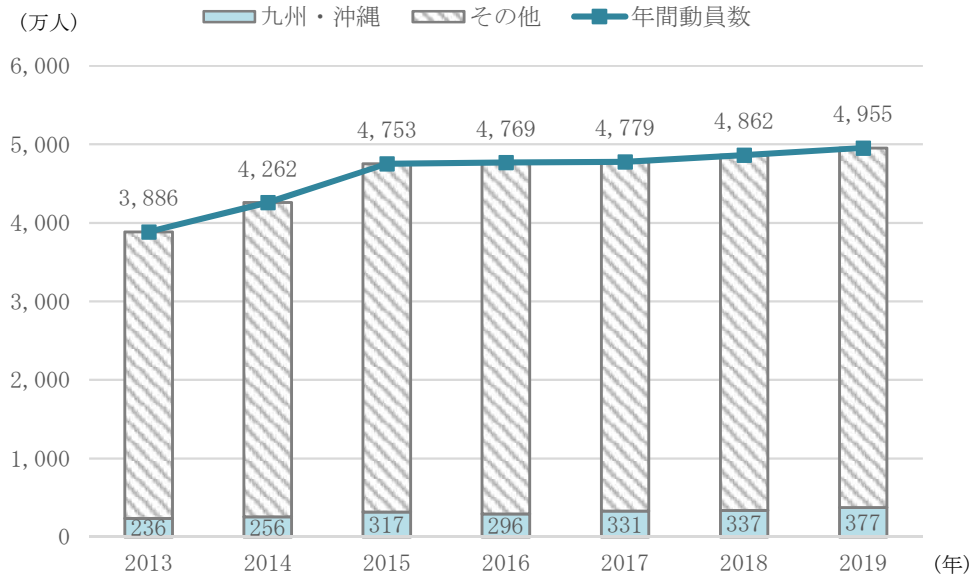
(出典：(一社)コンサートプロモーターズ協会¹⁰「ライブ市場調査¹¹」よりみずほ総合研究所(株)作成)

⁹ 「コンサート等」の公演数には、ロック・ポップス、歌謡曲・演歌、ジャズ・フュージョン、クラシック、パフォーマンス・アーツ（ミュージカル、バレエ）などの公演を含む。

¹⁰ 「コンサートプロモーターズ協会(ACPC)」は、音楽を中心としたライブ・エンタテインメントを主催する、全国のプロモーターで構成される一般社団法人で、ライブ・エンタテインメント産業のさらなる発展を目的としている。

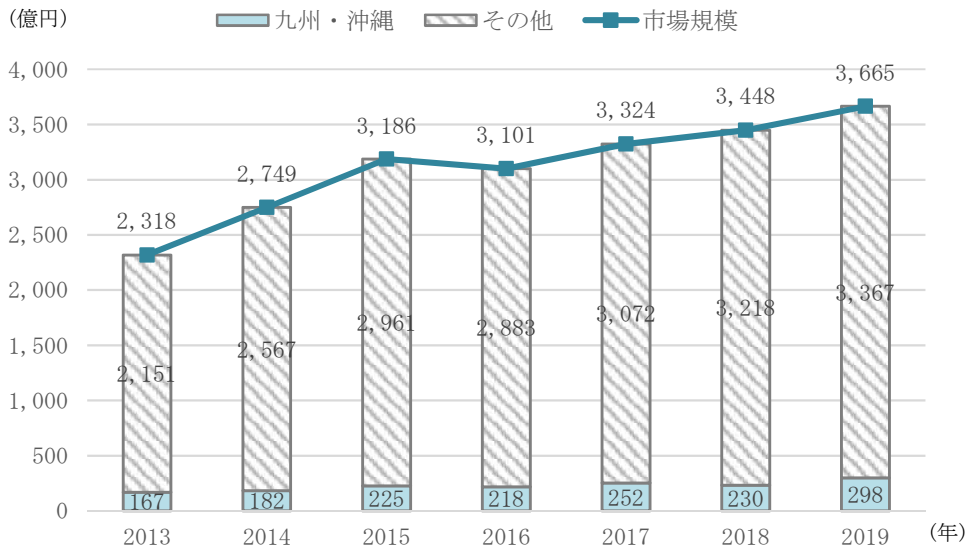
¹¹ 「ライブ市場調査」は、年間公演数、動員数、市場規模などの統計であり、コンサートプロモーターズ協会が全国各地の正会員社を対象に調査を行ない、ライブ・エンタテインメントの市場規模を算出した統計データ。(日本全体のライブ・エンタテインメントの市場規模とは異なる。)また、グッズなどの関連する売り上げは計上しておらず、チケットの売り上げのみを対象としている。

図 国内におけるコンサート等の年間動員数



(出典：(一社) コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」よりみずほ総合研究所(株)作成)

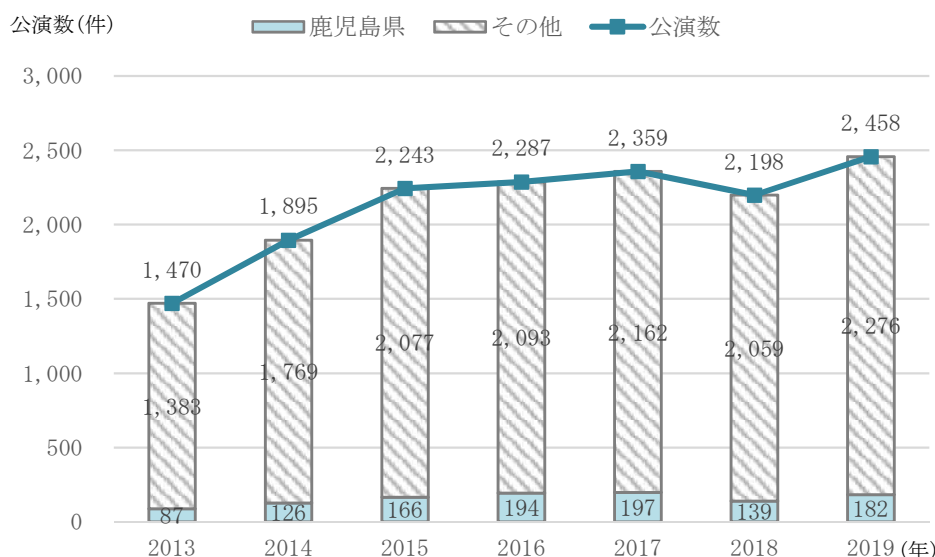
図 国内におけるコンサート等の市場規模



(出典：(一社) コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」よりみずほ総合研究所(株)作成)

沖縄県を除く九州エリアの公演数についても拡大傾向で推移している。また、九州各県における公演数については、福岡県の開催数が突出して多く、次に熊本県、鹿児島県が続いている。九州エリア（沖縄県を除く）における鹿児島県の公演数の割合は約6%～8%で推移していた。

図 九州エリア(沖縄県を除く)におけるコンサート等の公演数



(出典：(一社)コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」よりみずほ総合研究所(株)作成)

表 九州各県(沖縄県を除く)におけるコンサート等の公演数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
福岡県	1,000	1,202	1,482	1,408	1,524	1,497	1,720
佐賀県	24	45	49	90	59	55	58
長崎県	90	140	134	124	126	116	120
熊本県	133	169	163	177	229	217	216
大分県	68	94	104	161	112	92	81
宮崎県	68	119	145	133	112	82	81
鹿児島県	87	126	166	194	197	139	182
(割合)	5.9%	6.6%	7.4%	8.5%	8.4%	6.3%	7.4%
合計	1,470	1,895	2,243	2,287	2,359	2,198	2,458

(出典：(一社)コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」よりみずほ総合研究所(株)作成)

また、類似施設におけるコンサートの開催状況を確認したところ、本施設と同様に、スポーツ利用の割合が多目的利用の割合を上回るカテゴリ 1～3 の施設のうち、国内大都市圏の主要駅¹²（博多駅等）から 60 分～120 分でアクセスできる施設においても、コンサートの開催に一定の需要があることが分かった。

表 類似施設におけるコンサートの開催状況

No	施設名	カテゴリ	コンサート利用の割合
9	高崎アリーナ	カテゴリ 1	1%
33	和歌山ビッグホエール		10%
5	あづま総合体育館	カテゴリ 2	1%
34	岡山県総合グラウンド体育館		0%
47	大村市体育文化センター ¹³		0%
51	鹿児島アリーナ	カテゴリ 3	1%
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ		39%
平均値			7.4%

このうち、本施設と当該地域における施設の役割が近いと考えられる都道府県立体育（NO. 33、5、34、20）の平均値は 12.5%となっている。

2. 国内のその他イベント市場動向等分析

本施設においては、スポーツ利用やコンサート利用のほか、多目的なイベントでの利用が想定される。多目的なイベントとして M I C E¹⁴利用が考えられることから、M I C Eに関する市場動向を確認した。

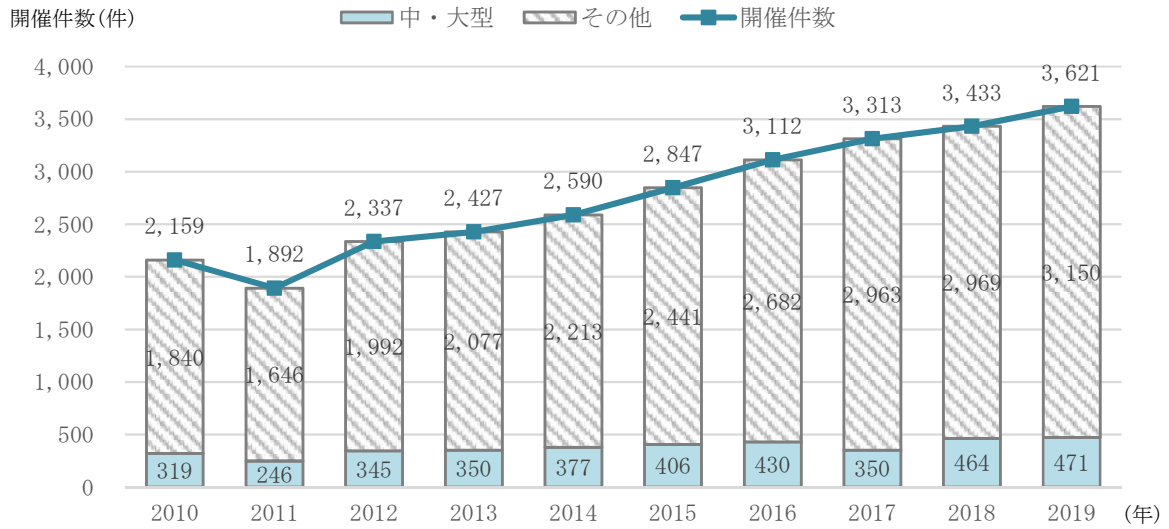
2019 年までの M I C E 市場の動向を分析したところ、国内における国際会議や展示会・見本市の開催件数は増加傾向で推移していた。

¹² 国内大都市圏の主要駅は、札幌駅、仙台駅、東京駅、名古屋駅、大阪駅、広島駅、博多駅の 7 駅を設定。

¹³ 大村市体育文化センターは、アンケート結果より「主なイベント」にコンサートの記載がないことから、0%として計上。

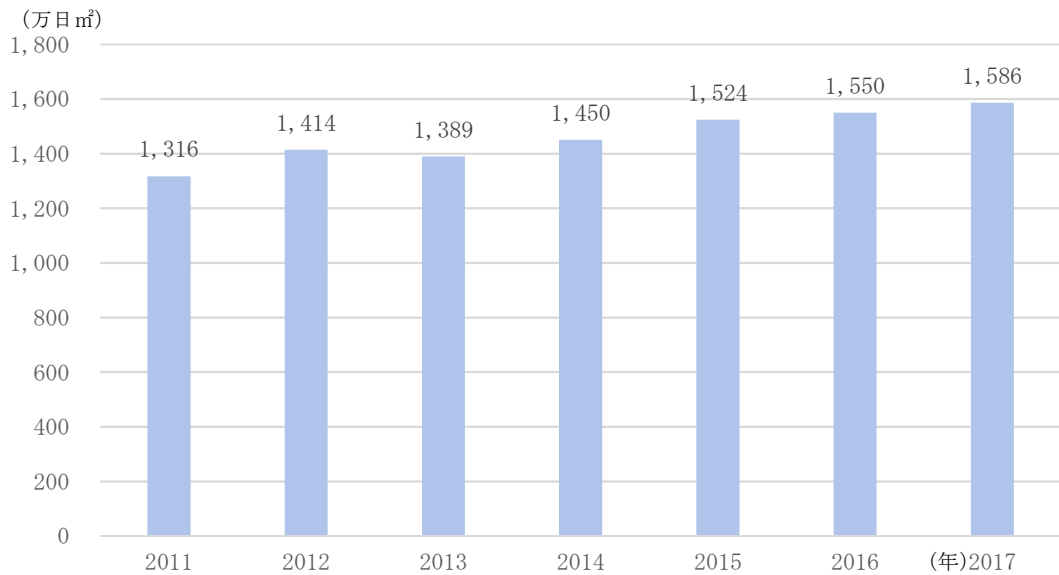
¹⁴ 「M I C E」とは、Meeting（企業系会議）、Incentive（企業の報奨・研修旅行）、Convention（国際会議）、Exhibition / Event（展示会・イベント等）の頭文字をとった造語

図 国内における国際会議の開催件数¹⁵



(出典：日本政府観光局¹⁶「2019年国際会議統計」)

図 国内における展示会・見本市の開催規模¹⁷



(出典：観光庁「平成29年度MICEの経済波及効果算出事業¹⁸」)

¹⁵ 「中・大型国際会議」の定義は、外国人参加者数 50 人以上、および、参加者総数 300 人以上の会議

¹⁶ 日本政府観光局(JNTO)は、東京オリンピックが開催された 1964 年に設立され、50 年以上にわたって訪日外国人旅行者の誘致に取り組んできた日本の公的な専門機関。世界の主要都市に海外事務所を持ち、日本へのインバウンド・ツーリズム(外国人の訪日旅行)のプロモーションやマーケティングを行っている。

¹⁷ 開催規模の単位「万日㎡」は、開催期間(日)と施設の利用面積(㎡)をかけた延べ面積

¹⁸ 国内の展示会主催者・運営者に対して実施されたアンケートをもとに集計されたもの。原則としてプライベートショーや即売会は除いた B to B の催事が集計されている。

また、鹿児島県におけるその他イベントが開催される施設の現状を分析するため、「人口¹⁹（千人）当たり」と「県内総生産²⁰（百億円）当たり」の「コンベンション施設収容人数²¹」分析し、2つの指標により他の都道府県との比較を行った。

比較の結果、いずれの指標を採用しても、「全国平均値²²」に基づく「鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数²³」に比べて「鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数」は低いという結果となった。

したがって、全国平均との比較においては、鹿児島県内におけるコンベンション施設は不足していると考えられる。

表 人口(千人)当たりのコンベンション施設収容人数の指標に基づく比較

i	人口（千人）当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約13.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	21,822人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差（ii－iii）	4,055人

表 県内総生産(百億円)当たりのコンベンション施設収容人数の指標に基づく比較

i	県内総生産（百億円）当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約34.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	18,811人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差（ii－iii）	1,044人

¹⁹ 総務省統計局「平成27年国勢調査」より

²⁰ 内閣府「平成29年度県内総生産」より

²¹ 日本政府観光局(JNTO)「日本コンベンション都市ガイド2021年2月版」を基に、みずほ総合研究所(株)調べ

²² 小数点第1位以下の端数有り

²³ 全国平均値を基に「鹿児島県の人口1,648千人」及び「県内総生産550百億円」から算出

人口及び県内総生産とコンベンション施設収容人数の相関を示す散布図は以下のとおり。

図 人口とコンベンション施設収容人数

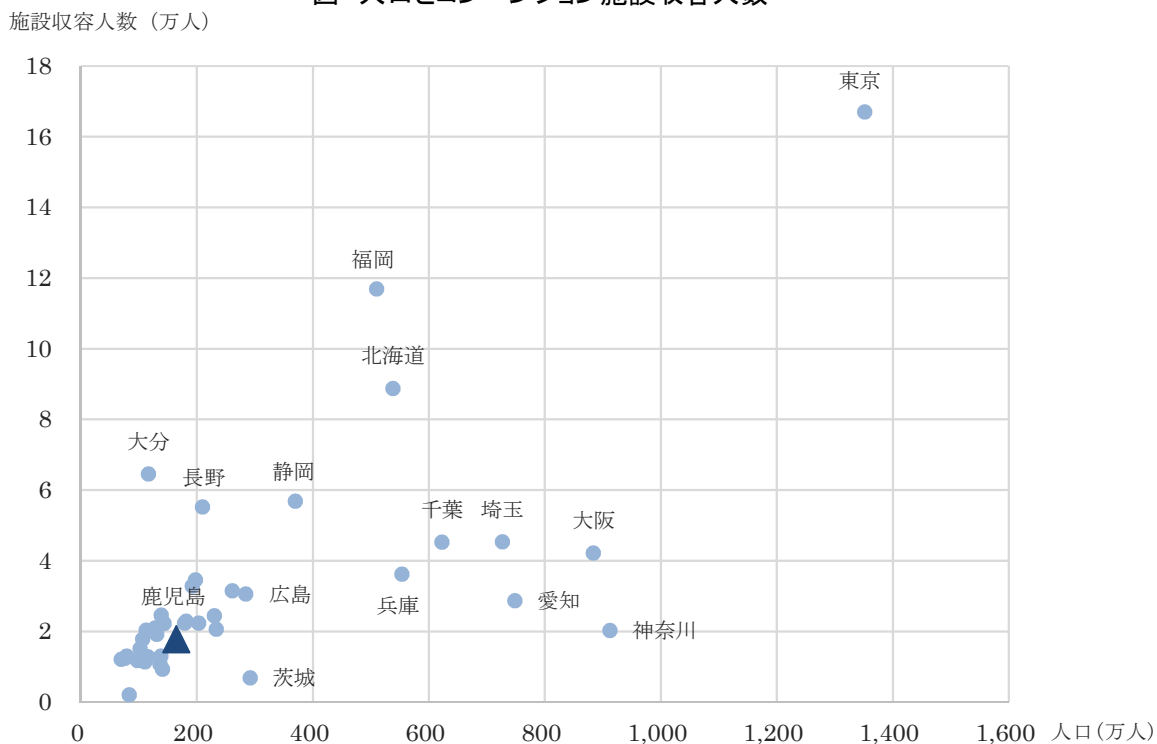
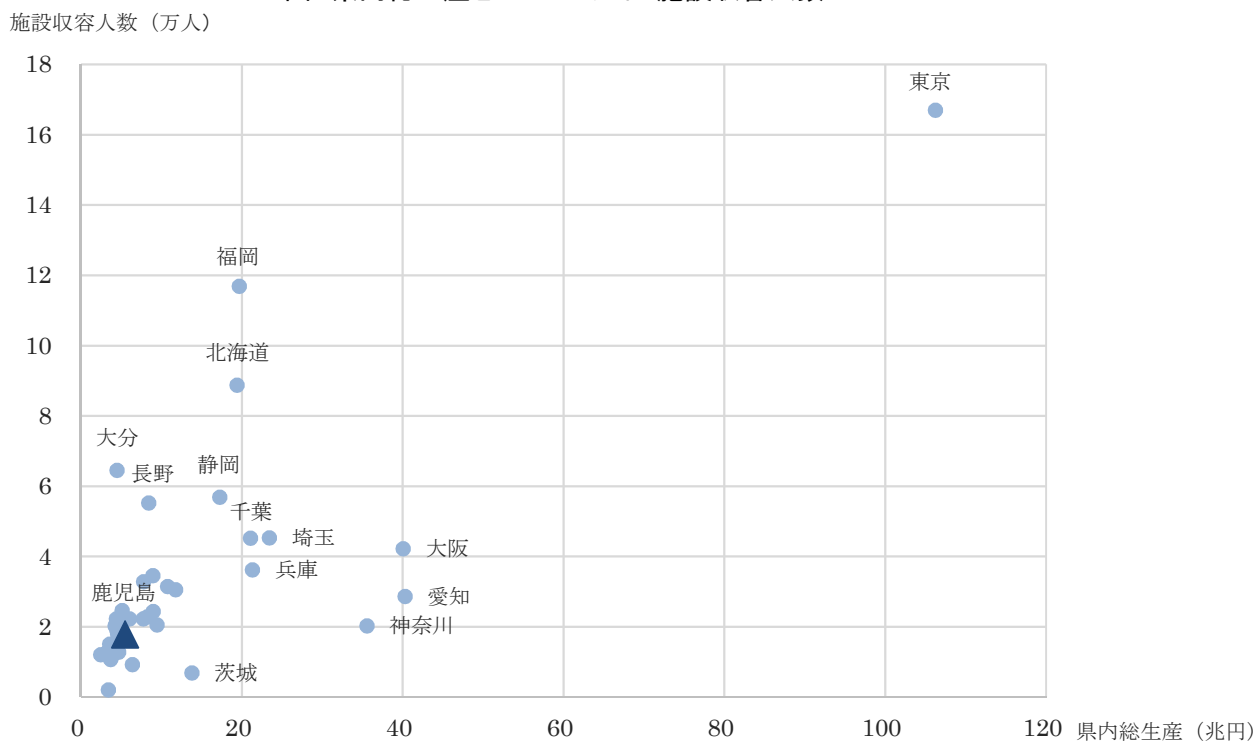


図 県内総生産とコンベンション施設収容人数



また、類似施設におけるその他イベントの開催状況を確認したところ、本施設と同様にスポーツ利用の割合が多目的利用の割合を上回るカテゴリ 1～3 の施設のうち、国内大都市圏の主要駅²⁴（博多駅等）から 60 分～120 分でアクセスできる施設においても、その他イベントの開催に一定の需要があることが分かった。

表 類似施設におけるその他イベントの開催状況

No	施設名	カテゴリ	その他イベント利用の割合
9	高崎アリーナ	カテゴリ 1	1%
33	和歌山ビッグホエール		10%
5	あづま総合体育館	カテゴリ 2	2%
34	岡山県総合グラウンド体育館		15%
47	大村市体育文化センター		15%
51	鹿児島アリーナ		9%
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	カテゴリ 3	8%
平均値			8.6%

このうち、本施設と当該地域における施設の役割が近いと考えられる都道府県立体育（NO. 33、5、34、20）の平均値は 8.8%となっている。

²⁴ 国内大都市圏の主要駅は、札幌駅、仙台駅、東京駅、名古屋駅、大阪駅、広島駅、博多駅の 7 駅を設定。

第2章 民間事業者へのヒアリング調査

1. 調査方法

本施設でのイベント利用（プロスポーツ、コンサート等、その他イベント）等の需要や誘致可能性について把握するため、イベントやMICEの企画実績のある民間事業者（プロモーター）に対して、ヒアリングを実施した。

表 ヒアリング対象先一覧

	対象企業名
コンサート等	【広告】 ・株式会社電通 【プロモーター】 ・株式会社キョードー西日本 ・株式会社ソーゴ東京 ・株式会社ビッグイヤーアンツ
その他イベント (MICE等)	・株式会社コンベンションリンケージ ・株式会社JTB総合研究所 ・日本コンベンションサービス株式会社

ヒアリングでは本施設の利用意向、本施設での開催が想定されるイベント、本施設利用にあたっての望ましい条件、本施設の利用促進方策、市場動向等を聴取した。

2. 調査結果

2-1. 本施設の利用意向

コンサート等のイベント利用に関しては、いずれのプロモーターからも立地、規模、設備などの条件を満たせば利用するという意向が確認できた。広告代理店からもイベント誘致の可能性があるという意見があった。また、九州におけるコンサート開催の優先順位は「福岡→熊本→鹿児島」の順であるが、熊本には現在コンサート開催に適した施設がないことから、鹿児島での開催の可能性が高いという意見があった。

その他イベント利用に関しては、立地、規模、設備などの条件を満たせば利用の可能性があると意見があった。

表 利用意向に関するヒアリング結果(主なもの)

主な意見
<ul style="list-style-type: none">・立地が良く、8,000席以上の規模でコンクリート床であればコンサートで利用するだろう。・コンサート利用やMICE利用に適した施設であれば利用の可能性はある。中途半端な規模・設備となってしまった場合は使われにくい施設になってしまうだろう。・一般的には新幹線駅に近い立地であれば利用の可能性はある。・競合施設としてグランメッセ熊本があるが、天井が低いためコンサートを開催しづらい。現状、九州でコンサートが開催できるのがマリンメッセ福岡のみであり、熊本に今後アリーナが整備されなければ鹿児島の需要は大きいだろう。順番としては福岡の次は熊本でその次は鹿児島となる。・九州で1箇所、コンサートを開催することになった場合、まずは福岡での開催を検討するが、現状かなり予約が取りにくい状況である。福岡で予約がとれなかった場合、北九州、熊本が候補として挙がるが、そこに鹿児島も追加されることになるのではないかと思われる。

2-2. 本施設での開催が想定されるイベント

具体的に開催が想定されるイベントとしては、スポーツ利用（Bリーグ、Vリーグ、eスポーツ）、興行利用（コンサート、サーカス等）、その他イベント利用（展示会、大会・集会、学会、インセンティブツアー、各種イベント）などが挙げられた。

① スポーツ利用

表 スポーツ利用に関するヒアリング結果(主なもの)

想定されるイベント (企業名)	概要・条件等	
Bリーグ (A社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用
	想定される来場者数	1部リーグの人気チームで1試合当たり 3,000人弱
	開催日数	—
	開催頻度	—
	備考	1部リーグの人気チーム以外はチーム経営が赤字であると聞いている
Vリーグ (F社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	—
	開催頻度	毎週末のイベント開催は難しい
	備考	マイナースポーツを育てる視点が必要 動員力が低いため収支は合わないだろう
eスポーツ (F社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	—
	開催頻度	毎週末のイベント開催は難しい
	備考	デジタルの視点を持ち、eスポーツ利用も 想定した施設とする必要がある

② 興行利用(コンサート、サーカス等)

表 興行利用に関するヒアリング結果(主なもの)

想定されるイベント (企業名)	概要・条件等	
コンサート (A社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用
	想定される来場者数	—
	開催日数	
	開催頻度	
コンサート (B社)	利用する施設と利用方法	全館利用、サブアリーナが物販スペース
	想定される来場者数	来場者動向はプロダクションのチケット販売戦略次第
	開催日数	設営1～2日、公演2日(養生が必要な場合は前後プラス1日)
	開催頻度	年間5本
コンサート (C社)	利用する施設と利用方法	メインアリーナが会場 サブアリーナが物販 会議室がアーティスト控室
	想定される来場者数	8,000人
	開催日数	設営1日、公演2日、撤去1日(金土日月)24時間作業が可能であれば撤去日不要
	開催頻度	月に1回。年間12回～20回
コンサート (D社)	利用する施設と利用方法	メインアリーナが会場 サブアリーナが物販 会議室がアーティスト控室
	想定される来場者数	8,000人～10,000人 来場者動向はファンクラブの規模による
	開催日数	設営1日、公演1日(金土) 公演2日となる場合もある 24時間作業が可能であれば撤去日不要
	開催頻度	—
コンサート (E社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用
	想定される来場者数	—
	開催日数	設営1日、公演2日、撤去1日(金土日月)24時間作業が可能であれば撤去日不要
	開催頻度	土日祝はコンサートか展示会で予定が埋まるだろう 木床の場合は月1回程度のイベント開催
サーカス等の興行 (A社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用
	想定される来場者数	—
	開催日数	1～2週間
	開催頻度	年1回
ディズニーマニア等 の興行 (C社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数・開催頻度	—
	備考	一定の行政支援が必要になる可能性あり

③ その他イベント利用

表 その他イベント利用に関するヒアリング結果(主なもの)

想定されるイベント (企業名)	概要・条件等	
展示会（例：恐竜博） (A社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用
	想定される来場者数	
	開催日数	—
	開催頻度	
展示会（展示即売会） (E社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用（メインアリーナとサブアリーナの動線が分かれていますれば別利用が可能）
	想定される来場者数	—
	開催日数	1日～2日（土日祝）
	開催頻度	土日祝はコンサートか展示会で予定が埋まるだろう 木床の場合は月1回程度のイベント開催
大会・集会 (入学式・卒業式など) (E社)	利用する施設と利用方法	基本は全館利用（メインアリーナとサブアリーナの動線が分かれていますれば別利用が可能）
	想定される来場者数	—
	開催日数	1日～2日（土日祝）
	開催頻度	土日祝はコンサートか展示会で予定が埋まるだろう 木床の場合は月1回程度のイベント開催
業者の大会 (F社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	1日
	開催頻度	毎週末のイベント開催は難しい 県の独自性を活かした大会の開催は多くて年1回であろう
	備考	希望者は2日目にエクスカージョンを行うことも想定される 首都圏以外の地域で大規模な大会を行う場合はその地域特性を活かした大会とする必要がある
各種イベント(共通一次、納税申告、就活サミット等) (F社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	—
	開催頻度	毎週末のイベント開催は難しい
	備考	特定の時期に開催 これらのイベントについては将来的に増加するという事は考えにくい
ポスターセッション、 学術総会 (F社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	—
	開催頻度	毎週末のイベント開催は難しい
	備考	学術総会よりもポスターセッションの方

想定されるイベント (企業名)	概要・条件等	
		が、開催が期待できる 鹿児島県の場合は会員数の多い学会が多くある医学部（鹿児島大学など）による利用の可能性はあると考えられる
就活サミットや進学イベント (G社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	—
	開催頻度	—
	備考	開催数は人口が大きく影響するだろう
学会 (G社)	利用する施設と利用方法	アリーナ(一堂に会せる会場として利用) 会議室(分散して入る会場として利用)
	想定される来場者数	2,000名以下
	開催日数	—
	開催頻度	営業次第
	備考	鹿児島大学による利用
インセンティブツアー (F社)	利用する施設と利用方法	—
	想定される来場者数	—
	開催日数	—
	開催頻度	毎週末のイベント開催は難しい
	備考	文化体験や調理体験などを伴ったパーティ会場とすることが考えられる
インセンティブツアー (G社)	利用する施設と利用方法	アリーナ(一堂に会せる会場として利用) 会議室(分散して入る会場として利用)
	想定される来場者数	インセンティブツアーで1,000人以上の規模のものは少ない。200人程度など数百人規模ではないか
	開催日数	—
	開催頻度	営業次第
	備考	海外需要も取り込める余地がある

2-3.本施設を利用するにあたっての望ましい条件

望ましい立地条件として、アリーナツアーなどの大規模なイベントの場合、九州や全国からのアクセスが重要となる、宿泊施設や商業施設が近くにあることが望ましいなどの意見があった。

施設規模（席数）に関する望ましい条件として、コンサート利用を想定する場合、5,000席では採算がとれないため、8,000席以上が望ましい、その他イベント（MICE等）利用の場合、5,000席あれば問題ないという意見であった。したがって、コンサート、その他イベント（MICE等）の両方を誘致する場合は8,000席以上の規模の施設とすることが望ましい。

表 施設規模(席数)に関するヒアリング結果(主なもの)

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・プロモーターの視点では、5,000席規模だと採算がとりづらく、おそらく利用しないだろう。8,000席以上が望ましい。 ・10,000席の規模でも良いが、稼働を上げたいのであれば10,000席は大きすぎるような気がする。 ・M I C Eであれば5,000席以上に大きな違いはない。ただし、コロナの状況もあるが、規模について大は小を兼ねると言える。規模が大きいほどプロモーションも行いやすく、多様な使い方を検討することができる。

施設規模(席数)以外のハード面の条件として、スポーツ利用の観点からは木床、コンサートやM I C E利用を促進する観点からはコンクリート床が望ましい、コンサート利用に当たっては十分な天井高(最低15m以上)が望ましいなどの意見があった。

また、ソフト面の条件として、コンサートスタッフや音響設備等の移動費など主催者の収支等を考慮し、鹿児島島の立地等も踏まえた施設利用料金を設定して欲しい、競合施設の予約開始時期や主催者のスケジュールの設定等を考慮し、2年以上前から予約受付が出来るようにして欲しいなどの意見があった。

2-4.本施設の利用促進方策

イベント等の利用が促進されるための方策として、金銭的なインセンティブの設定、鹿児島出身アーティストとの協力、使い勝手の良い施設設計、県発信でのイベント企画、施設内外の自由な運営確保等が挙げられた。また、周辺施設との連携の可能性については、地域の商店街や組合との連携、近隣コンベンション施設との連携などが挙げられた。

2-5.コンサート、その他イベントの市場動向

新型コロナウイルスの影響について、コンサート開催数の減少は一時的なものであり、ワクチンの開発等により、いずれコンサート開催数は回復していくだろうという意見であった。

また、その他イベントについて、オンライン開催やオンラインとリアルのミックスでの開催等の多様化が進み、施設の利用のされ方が変わる可能性があるが、イベント全体の需要は増加していくだろうという意見があった。

【III 需要予測編】

第1章 新総合体育館の需要予測等

1. 需要予測の方法

1-1. 需要予測の前提

需要予測については、平成30年2月の「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言を踏まえると、本施設のメイン機能は「する」「みる」「ささえる」の3つの視点に配慮したスポーツ利用であることから、まずは、各種県大会や全国大会、プロスポーツによる利用に加え、県民のスポーツ利用を想定する。その上でコンサート利用やその他イベント利用などの多目的利用について検討することとした。

需要予測に当たっては、これまでの「Ⅰ「スポーツ振興の拠点」機能」及び「Ⅱ「多目的利用による交流拠点」機能」の調査結果、並びに現体育館の利用状況を踏まえて需要予測を行った。

1-2. 諸条件の設定

① 施設の規模・構成

諸条件として、平成30年11月に「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言を踏まえて実施した県工業試験場跡地におけるシミュレーションにおける規模・構成を仮置きした。

表 需要予測において仮置きした施設規模・構成

施設構成	規模等
メインアリーナ	バスケットボールコート4面、観客席8,000席程度
サブアリーナ	バスケットボールコート1面
柔道場	3面
剣道場	3面
弓道場	近的12人立の射場（遠的利用も可能）

② 立地

スポーツ利用の割合が多目的利用の割合を上回るカテゴリ 1～3 の施設のうち、国内大都市圏の主要駅²⁵（博多駅等）から 60 分～120 分でアクセスできる立地を設定した。

表 国内大都市圏の主要駅から60分～120分でアクセスできる類似施設

No	施設名	立地市	人口	交通アクセス	県立
5	あづま総合体育館	福島市	28万人	仙台駅から車で75分	○
9	高崎アリーナ	高崎市	37万人	東京駅から新幹線で70分	
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	袋井市	9万人	名古屋駅から新幹線で90分	○
33	和歌山ビッグホール	和歌山市	37万人	大阪駅から車で70分	○
34	岡山県総合グラウンド体育館	岡山市	71万人	広島駅から新幹線で60分	○
47	大村市体育文化センター	大村市	10万人	博多駅から車で100分	
51	鹿児島アリーナ	鹿児島市	60万人	博多駅から新幹線で110分	

※ 今回調査で回答のあった51施設のうち、本県と立地条件が類似する7施設を抽出

※ 政令指定都市：岡山市 中核市：福島市、高崎市、和歌山市、鹿児島市

なお、これらの条件については、今後の検討の中で具体的に決定されていくことから、予測結果はある程度幅があるものとなった。

²⁵ 国内大都市圏の主要駅は、札幌駅、仙台駅、東京駅、名古屋駅、大阪駅、広島駅、博多駅の7駅を設定。

1-3.需要予測の考え方(利用日数及び稼働率「用途別構成比」)

本施設の需要は、競技施設（メインアリーナ、サブアリーナ、柔剣道場、弓道場）ごとに、利用形態に応じて、スポーツ大会利用（県大会、全国大会等）、プロスポーツ利用、県民のスポーツ利用などのスポーツ施設としての利用と、コンサート利用、その他のイベント利用などの多目的な利用に分けて、施設別の年間利用日数及び稼働率を算出した。

表 需要予測の考え方（利用日数及び稼働率「用途別構成比」）

利用形態	需要予測の考え方
全 体	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会利用（県大会、全国大会等）、プロスポーツ利用、県民のスポーツ利用などのスポーツ利用と、コンサート利用、その他イベント利用などの多目的利用に分けて、施設別の年間利用日数を算出した。 ・これらを合算し、各施設毎に年間に想定される利用日数を想定し、稼働率を算出する。稼働率の算定にあたっては、令和元年度の現体育館と同様に、360日開館する前提として算出した。
スポーツ大会利用	<ul style="list-style-type: none"> ・県内競技団体への利用意向等調査（県が実施）の結果を踏まえ、各種県大会が本施設へシフトすることを想定する。 ・加えて、中央競技団体へのアンケート及び県内競技団体へのヒアリング等を踏まえて、新たに開催される可能性のある全国大会等を想定する。 ・県大会及び全国大会等ともに上位・下位予測を行い、年間利用日数を算出した。
プロスポーツ利用	<ul style="list-style-type: none"> ・プロバスケットチーム「鹿児島レブナイズ」の現体育館における開催実績や、過去のVリーグの開催実績をベースに上位・下位予測を行い、年間利用日数を算出した。
県民のスポーツ利用	<ul style="list-style-type: none"> ・現体育館と同様、本施設においても一定の利用があることを見込み、現体育館の利用状況や他県の類似施設の利用状況を参考に年間利用日数を算出した。
コンサート利用	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者等へのヒアリング結果や、類似施設の開催実績の分析結果等を踏まえ、上位・下位予測を行い、年間利用日数を算出した。
その他イベント利用	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者等へのヒアリング結果や、類似施設の開催実績の分析結果等を踏まえ、上位・下位予測を行い、年間利用日数を算出した。

なお、令和元年度における現体育館及び鹿児島県総合体育センター武道館(以下、「現武道館」という。)の利用実績は、県調査結果の下表のデータとする。

表 現体育館の利用実績（令和元年度）

○年間利用者数 102,967人 ○年間開館日数 360日

○年間稼働日数 328日 ○稼働率 91.1%

○利用形態

		日数	割合	内容
スポーツ	①国際・全国規模の大会	2	0.6%	西日本ドラゴンカップ空手道選手権大会
	②全県規模の大会	107	32.6%	各種競技団体等が主催する県大会等
	③スポーツ興行（入場料徴収）	6	1.8%	Bリーグ レブナイズ公式戦
	④その他（上記①、②、③以外）	209	63.7%	一般利用、各種競技教室等
⑤スポーツ以外		4	1.2%	鹿児島大学入学式、県戦没者追悼式
計		328	100.0%	²⁶

表 現武道館の利用実績（令和元年度）

○年間稼働率・年間利用者数

	年間開館日数	年間稼働日数	稼働率	利用者数
柔道場	360	353	98.1%	33,229人
剣道場	360	351	97.5%	26,866人
弓道場	360	346	96.1%	24,426人

○利用形態

		柔道場		剣道場		弓道場	
		日数	割合	日数	割合	日数	割合
スポーツ	①国際・全国規模の大会		—		—		—
	②全県規模の大会	17	4.8%	18	5.1%	17	4.9%
	③スポーツ興行（入場料徴収）		—		—		—
	④その他（上記①、②、③以外）	336	95.2%	333	94.9%	329	95.1%
計		353	100.0%	351	100.0%	346	100.0%

²⁶ 各項目を四捨五入しているため、合計が100.0%と一致しない。

2. スポーツ利用の需要予測

2-1.県大会の需要予測

県による県内競技団体への利用意向等調査により「意向あり・条件付きあり」とされた大会について、その規模や、開催日程の重複等を考慮し、県で各施設へ当てはめた結果は下記のとおりである。なお、「現体育館・武道館」については準備日を含む日数となっている一方で、「新総合体育館（本施設）」については準備日を含まない日数となっている。

表 ヒアリング結果のまとめ(県作成)

施設	現体育館・現武道館（令和元年度）					新総合体育館					
	現体育館	柔道場	剣道場	弓道場	計	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場	計
日数	107日	17日	18日	17日	159日	123日	57日	39日	50日	20日	289日

利用意向調査の結果、メインアリーナについては123日の県大会利用が見込まれた。ただし、ヒアリングの結果、調査票において「利用意向あり」と回答した競技の中には、他の施設との結びつきが強く、「新しい体育館の姿を見なければ分からない」と回答した大会も含まれていたことも踏まえ、メインアリーナとサブアリーナについては上位予測と下位予測に分けて予測を行った。

また、令和元年度の現体育館における利用実績を分析した結果、約2割の大会において準備日数が必要という結果が得られた。準備日については、この割合を使用し、利用日数に加算した。

なお、武道施設（柔道場、剣道場、弓道場）については、他の施設との強い結びつきが見られないことから、上位予測及び下位予測とも同じ数値とした（準備日は想定していない。）

ア 上位予測

利用意向のある大会のうち、日程重複分を除くすべての大会で利用することを想定し、利用日数を算出した。

表 県大会の需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	137日	63日	39日	50日	20日

イ 下位予測

「新しい体育館の姿を見なければ分からない」と回答した大会を除き、かつ日程重複分を除いた大会で利用することを想定し、利用日数を算出した。

表 県大会の需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	125日	59日	39日	50日	20日

2-2.全国大会等の需要予測

① 中央競技団体へのアンケート調査

中央競技団体へのアンケート調査結果から、8団体から開催可能性がある全国大会等が下記のとおり示された。

なお、今回一部競技団体から、条件が合えば日本代表の国際試合などを開催することも考えられるという意見もあったほか、類似施設の状態を踏まえると、国際大会についても開催の可能性が考えられる。しかし、これらを現時点で定量的に予測することは難しいため、今回の需要予測には反映しなかった。

表 中央競技団体に対するアンケート調査結果

大会名	大会規模	勝敗できる頻度(A)	開催頻度(B)	利用日数(C)				年間使用見込(D)				
				メインアリーナ	サブアリーナ	武道施設	会議室	メインアリーナ	サブアリーナ	武道施設	会議室	大会数
全九州高校総体(ボクシング)	九州大会	九州沖縄8県で開催を待ちまわるため、7~8年に1度の頻度で誘致可能	年1回	4日	4日	-	4日	0.5日	0.5日	-	-	0.1大会
全九州高等学校新人ボクシング競技大会	九州大会	九州沖縄8県で開催を待ちまわるため、7~8年に1度の頻度で誘致可能	年1回	4日	4日	-	4日	0.5日	0.5日	-	-	0.1大会
国民体育大会九州ブロック大会(ボクシング)	九州大会	九州沖縄8県で開催を待ちまわるため、7~8年に1度の頻度で誘致可能	年1回	4日	4日	-	4日	0.5日	0.5日	-	-	0.1大会
全日本実業団選手権大会(バレーボール)	全国大会	全国9ブロック持ち回りの頻度	年1回	5日	5日	5日	5日	0.1日	0.1日	0.1日	0.1日	0.0大会
全日本クラブカップ選手権大会(バレーボール)	全国大会	全国9ブロック持ち回りの頻度	年1回	5日	5日	5日	5日	0.1日	0.1日	0.1日	0.1日	0.0大会
天皇杯皇后杯前日本バスケットボール選手権大会1次ラウンド	西日本大会	年1回	年1回	3日	3日	-	-	0.2日	0.2日	-	-	0.1大会
全日本ウエイトリフティング選手権大会	全国大会	5年に一度くらい	年1回	3日	3日	-	-	0.6日	0.6日	-	-	0.2大会
JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会	全国大会	5年に一度くらい	年1回	3日	3日	-	-	0.6日	0.6日	-	-	0.2大会
日本選手権(男子の部)(ハンドボール)	全国大会	現在は全国で公募。条件が合えば数年連続での開催も可	年1回	5日	2日	-	5日	0.1日	0.0日	-	-	0.0大会
日本選手権(女子の部)(ハンドボール)	全国大会	現在は全国で公募。条件が合えば数年連続での開催も可	年1回	5日	2日	-	5日	0.1日	0.0日	-	-	0.0大会
全国小学生フェンシング選手権大会	全国大会	現在、全国で持ち回り開催のため、頻度は僅少	年1回	2日	2日	-	-	0.0日	0.0日	-	-	0.0大会
全国高等学校弓道選抜大会	全国大会	6年に1度程度	年1回	4日	4日	4日	4日	0.7日	0.7日	0.7日	0.7日	0.2大会
全日本弓道遠的選手権大会	全国大会	10年に1度程度	年1回	2日	-	-	2日	0.2日	-	-	-	0.1大会
全九州銃剣道大会	九州大会	九州沖縄8県で開催を待ちまわるため、7~8年に1度の頻度で誘致可能	年1回	1日	1日	1日	1日	0.1日	0.1日	0.1日	0.1日	0.1大会
合計								4.3日	4.0日	1.0日	1.0日	1.3大会

② 県内競技団体への利用意向等調査

県内競技団体への利用意向等調査結果から、誘致可能性がある全国大会等の開催については、下記のとおりであった。²⁷

表 県内競技団体に対するアンケート調査結果

No.	種目	大会名	種別	開催期間	日数 (日)	開催頻度	年間使用見込み(日)	年間使用見込み(大会数)
1	バレーボール	全日本実業団選手権大会	全国大会	-	-	-	-	-
2	バレーボール	全日本クラブカップ選手権大会	全国大会	-	-	-	-	-
3	バレーボール	全国高校総体バレーボール大会	全国大会	7/24~28,7/30~8/3	10	1/47	0.213	0.021
4	バレーボール	全日本バレーボール小学生大会	全国大会	8/6~9	4	1/47	0.085	0.021
5	バレーボール	全国ソフトバレーシールバーフェスティバル	全国大会	10/11~13	3	1/47	0.064	0.021
6	体操	全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会	全国大会	8/30~9/1	3	1/47	0.064	0.021
7	体操	全日本学生新体操選手権大会	全国大会	8/25~27	3	1/47	0.064	0.021
8	体操	全国中学校体育大会(新体操)	全国大会	8/24~25	2	1/47	0.043	0.021
9	体操	九州小学生体操大会	九州大会	8/20~23	4	1/8	0.500	0.125
10	体操	九州中学校体育大会(新体操)	九州大会	8/8~9	2	1/8	0.250	0.125
11	体操	全九州高校新体操競技大会	九州大会	6/14~16	3	1/8	0.375	0.125
12	バスケットボール	全国高校総体バスケットボール大会	全国大会	7/27~8/2	7	1/47	0.149	0.021
13	バスケットボール	全国中学校バスケットボール大会	全国大会	8/22~25	4	1/47	0.085	0.021
14	バスケットボール	全日本社会人O-40/O-50バスケットボール選手権大会	全国大会	11/23~25	3	1/47	0.064	0.021
15	ハンドボール	日本選手権大会	全国大会	-	-	-	-	-
16	ハンドボール	全国小学校ハンドボール大会	全国大会	8/1~5	5	1/47	0.106	0.021
17	ハンドボール	全国中学校体育大会(ハンドボール)	全国大会	8/20~23	4	1/47	0.085	0.021
18	ハンドボール	全日本社会人ハンドボール選手権大会	全国大会	5/8~12	5	1/47	0.106	0.021
19	ハンドボール	九州学生ハンドボールリーグ春季大会	九州大会	4/30~5/4	5	1/8	0.625	0.125
20	ハンドボール	九州学生ハンドボールリーグ秋季大会	九州大会	8/25~29	5	1/8	0.625	0.125
21	バドミントン	全国高等学校選抜バドミントン大会	全国大会	3/23~27	5	1/47	0.106	0.021
22	卓球	全国ホープス卓球大会	全国大会	8/14~16	3	1/47	0.064	0.021
23	バドミントン	全九州小学生バドミントン選手権大会	九州大会	10/19~20	2	1/8	0.250	0.125
24	バドミントン	九州中学生バドミントン大会	九州大会	2/23~24	2	1/8	0.250	0.125
25	バドミントン	全九州高等学校選抜バドミントン競技大会	九州大会	12/20~23	4	1/8	0.500	0.125
26	バドミントン	全九州レディースバドミントン選手権大会	九州大会	10/13	1	1/8	0.125	0.125
27	空手	全日本実業団空手道選手権大会	全国大会	11/17	1	1/47	0.021	0.021
28	空手	九州ブロックススポーツ少年団交流大会	九州大会	8/17~18	2	1/8	0.043	0.021
29	空手	全国中学生空手道選手権大会	全国大会	8/16~18	3	1/47	0.064	0.021
30	空手	全国高等学校空手道選抜大会	全国大会	3/25~27	3	1/47	0.064	0.021
31	柔道	全日本実業柔道団体対抗大会	全国大会	6/8~9	2	1/47	0.043	0.021
32	柔道	全日本実業柔道個人選手権大会	全国大会	9/14~15	2	1/47	0.043	0.021
33	柔道	九州柔道選手権大会	九州大会	3/10	1	1/8	0.125	0.125
34	柔道	スポーツひのまるキッズ九州小学生柔道大会	九州大会	1/19	1	1/8	0.125	0.125
35	柔道	マルちゃん杯全日本少年柔道大会	全国大会	9/22	1	1/47	0.021	0.021
36	柔道	九州高校柔道大会	九州大会	6/15~16	2	1/8	0.250	0.125
37	柔道	全国中学校柔道大会	全国大会	8/17~20	4	1/47	0.085	0.021
38	柔道	九州高等学校新人柔道大会	九州大会	11/9~10	2	1/8	0.250	0.125
39	柔道	全日本選抜柔道体重別選手権大会	全国大会	4/6~7	2	1/47	0.043	0.021
40	剣道	全九州少年剣道優勝大会	九州大会	6/23	1	1/8	0.125	0.125
41	剣道	九州中学校剣道競技大会	九州大会	8/3~5	3	1/8	0.375	0.125
42	剣道	全九州高校剣道大会	九州大会	7/6~7	2	1/8	0.250	0.125
43	剣道	全国教職員剣道大会	全国大会	8/11	1	1/47	0.021	0.021
44	剣道	全日本東西対抗剣道大会	全国大会	9/22	1	1/47	0.021	0.021
45	剣道	全国中学校体育大会(剣道)	全国大会	8/21~23	3	1/47	0.064	0.021
46	なぎなた	西日本学生なぎなた選手権大会	西日本大会	11/17	1	1/24	0.042	0.042
47	なぎなた	全日本学生なぎなた選手権大会	全国大会	8/11	1	1/47	0.021	0.021
48	なぎなた	全日本なぎなた選手権大会	全国大会	12/1	1	1/47	0.021	0.021
49	なぎなた	JOCジュニアオリンピックカップ全国中学生なぎなた大会	全国大会	7/27~28	2	1/47	0.043	0.021
50	なぎなた	全国高校総体なぎなた競技大会	全国大会	8/9~12	4	1/47	0.085	0.021
51	フェンシング	全国高校総体フェンシング大会	全国大会	7/26~30	5	1/47	0.106	0.021
52	フェンシング	全国高等学校選抜フェンシング大会	全国大会	3/20~22	3	1/47	0.064	0.021
53	フェンシング	全九州フェンシング選手権大会	九州大会	7/14~15	2	1/8	0.250	0.125
54	弓道	全日本弓道遠的選手権大会	全国大会	-	-	-	-	-
55	銃剣道	全九州銃剣道・短剣道大会	九州大会	-	-	-	-	-
合計					145	-	7.5	2.8
うち九州大会					44	-	5.3	2.1

²⁷ 中央競技団体へのアンケート結果と重複する大会については日程等未記入としている。開催期間、日数、開催頻度はみずほ総合研究所(株)調べ

③ 全国大会等の需要予測

利用日数については、中央競技団体及び県内競技団体への調査結果をもとに上位予測と下位予測に分けて予測を行った。また、サブアリーナについてはアップスペース等として使われる可能性があるという中央競技団体からの意見を踏まえメインアリーナと同日数を、柔剣道場、弓道場は、中央競技団体へのアンケート結果をもとにそれぞれ利用日数を見込んだ結果、下記のとおり予測した。

なお、一部の中央競技団体からは、条件が合えば日本代表の国際試合などを開催することも考えられるという意見や、類似施設における開催状況を踏まえると、国際大会の誘致の可能性も考えられるが、現時点でこれらを定量的に予測することは難しいことから、今回の需要予測では日数等は見込んでいない。

ア 上位予測

中央競技団体より開催可能性があると考えられた全国大会等の開催を見込む。加えて、県内競技団体の利用意向等調査結果により誘致可能性があげられた全国大会等もすべて開催されることを想定し、利用日数を算出した。

なお、利用日数には、アンケート調査で得られた使用見込みに準備日を加えて算出している。

表 全国大会等の需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	16日	16日	2日	2日	2日

イ 下位予測

中央競技団体より開催可能性があると考えられた全国大会等の開催を見込む。加えて、県内競技団体の利用意向等調査結果により誘致可能性があげられた全国大会等のうち、特に実現可能性が高い九州大会の開催を想定し、利用日数を算出した。

なお、利用日数には、アンケート調査で得られた使用見込みに準備日を加えて算出している。

表 全国大会等の需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	14日	14日	2日	2日	2日

2-3. 県民のスポーツ利用の需要予測

① 県民のスポーツ利用の需要予測

県民のスポーツ利用については、現体育館と同様、県民の一般利用、サークル活動、各種講習会、競技団体の強化練習、スポーツ合宿などが想定される。

現体育館の利用状況（令和元年度：約200日）に本施設整備後のサブアリーナの利用を加味するとともに、類似施設の状況を踏まえ、各施設における県民のスポーツ利用を想定し、利用日数を算出した。

表 県民のスポーツ利用の需要予測結果

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	100日	200日	200日	200日	200日

② 市町村立体育館等との役割分担

県民のスポーツ利用については、現体育館においても相当程度の利用があり、引き続き利用されることを見込む必要があると考えられることから、今後、アリーナの分割利用などの検討を行う必要があるものと考えられる。併せて、県民のスポーツ利用に関しては、市町村立体育館等との役割分担やすみわけ等、今後市町村と検討する必要があると考えられる。

2-4. プロスポーツの需要予測

プロスポーツについて、多目的利用等に関する民間事業者へのヒアリング結果より、本施設での利用はBリーグとVリーグが想定される。

Bリーグについては、鹿児島県を本拠地とする「鹿児島レブナイズ」のホームアリーナは鹿児島アリーナであるが、同チームは現体育館や始良市総合運動公園体育館、サンアリーナせんだいなど、鹿児島アリーナ以外の県内各地の体育館でも試合を実施している。このため、本施設でも利用可能性があると考えられる。

Vリーグについても、鹿児島県で過去に開催した実績がある（「2017V・サマーリーグ女子西部大会」串良平和アリーナなど）ことから、本施設でも利用可能性があると考えられる。

ア 上位予測

Bリーグについては、2019～2020シーズンにおける「鹿児島レブナイズ」の現体育館におけるホームゲームの開催回数から6日（準備を含む）を想定する。また、Vリーグについて、将来の利用を見込み、過去の開催実績から、3日（準備を含む）を想定し、利用日数を算出した。

イ 下位予測

Vリーグについては、過去に開催実績はあるものの、毎年確実に開催が見込まれるものではないことから、実現可能性が高い「鹿児島レブナイズ」の開催見込みのみを想定し、利用日数を算出した。

表 プロスポーツの需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	9日	-	-	-	-

表 プロスポーツの需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	6日	-	-	-	-

2-5.スポーツ利用の需要予測結果

2-1~4 までの検討結果より、下記のとおりとなった。

表 スポーツ利用の需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	262日	279日	241日	252日	222日

表 スポーツ利用の需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	245日	273日	241日	252日	222日

3. 多目的利用の需要予測

3-1.コンサートの需要予測

① 公演数データの分析

国内の総公演数に対するアリーナ公演数の割合は約5%～6%であり、九州（沖縄県除く）の総公演数から、九州としてアリーナ公演に係る相応の需要があることが分かる。

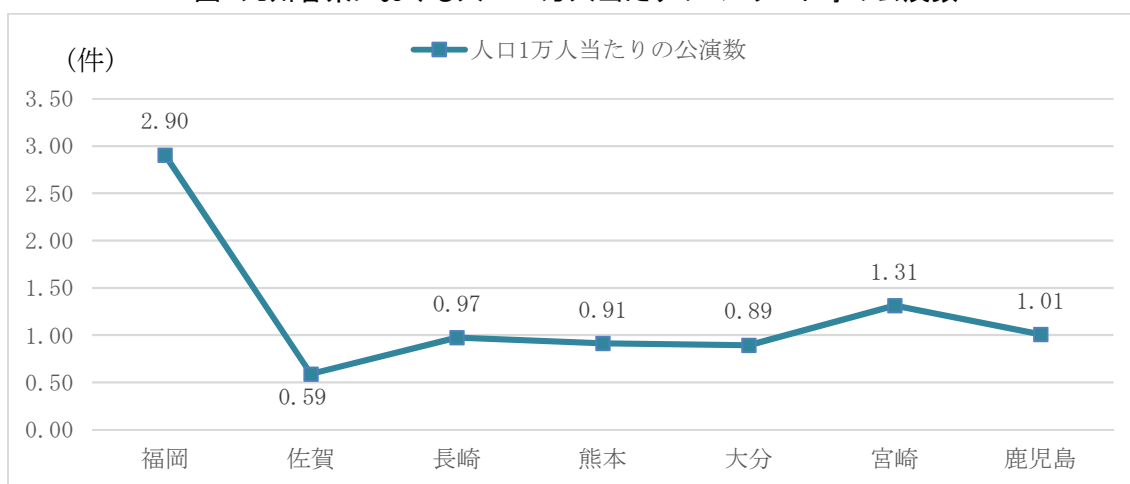
表 国内におけるアリーナ公演比率

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
国内総公演数	21,978	27,581	29,546	29,862	31,674	31,482	31,889
アリーナ公演数	1,316	1,460	1,466	1,513	1,430	1,566	1,520
アリーナ公演比率	6.0%	5.3%	5.0%	5.1%	4.5%	5.0%	4.8%
九州総公演数	1,470	1,895	2,243	2,287	2,359	2,198	2,458
九州のアリーナ公演数 ²⁸	88.0	100.3	111.3	115.9	106.5	109.3	117.2

(出典：(一社)コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」よりみずほ総合研究所(株)作成)

また、九州における人口1万人当たりの公演数²⁹は、福岡県以外の県が概ね1件前後である一方で、福岡県は約3件となっている。福岡県の人口当たりの公演数が多い理由としては、九州の経済の中心で人口が集中しているほか、交通アクセスが良好で他都道府県からのアクセスが容易であること、コンサートを開催できる施設が集積していることなどが考えられる。したがって、福岡県と九州新幹線で結ばれている鹿児島県において、アリーナツアーのコンサートを開催できる新しい施設を整備することで、一定数のコンサートが開催されると考えられる。

図 九州各県における人口1万人当たりのコンサート等の公演数



(出典：(一社)コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」よりみずほ総合研究所(株)作成)

²⁸ 国内総公演数に対するアリーナ公演比率が九州総公演数に対するアリーナ公演比率と同一であると仮定して推計した参考値。実際には人口やアクセス等により、各都道府県でアリーナ公演比率は異なると考えられる。

²⁹ 人口は総務省統計局「平成27年(2015年)国勢調査結果」、公演数は(一社)コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」の2015年実績を採用した。

② 民間事業者へのヒアリング結果の分析

ヒアリング調査の結果、施設の規模やその需要については、「採算面を考慮すると、施設は8千人以上の規模が望ましい」といった意見や、「九州における大規模なコンサートについては、マリンメッセ福岡など施設が集積している福岡県に集中しているが、鹿児島県に8千人以上の規模の施設が整備されることにより、熊本に今後アリーナが整備されなければ、鹿児島が福岡の次に需要が大きくなるだろう」といった意見が出された。

また、コンサートプロモーター2社からは、具体的な開催数について、以下の回答があった。

表 コンサート開催数に関する民間事業者のヒアリング結果

企業名	意見
A 社	年 5 件
B 社	月 1 件 (年12~20日)

なお、「諸条件（立地、規模、床仕様、設備など）によってコンサートの開催回数が変わる」といった意見が出された。

また、新型コロナウイルスの影響については、「ワクチンの開発等により需要は戻っていくだろう」といった意見が出された。

これらを踏まえると、施設が集積している福岡県に集中している大規模なコンサート需要について、本施設を整備することにより一定の需要が期待できること、その需要については、今後検討される諸条件により変動することが考えられる。

③ 類似施設におけるコンサートの開催状況の分析

スポーツ利用の割合が多目的利用の割合を上回るカテゴリ 1～3 の施設のうち、国内大都市圏の主要駅³⁰（博多駅等）から60分～120分でアクセスできる施設のコンサートの開催状況を分析した。

〔 I 〕7施設の分析

表 類似施設におけるコンサート開催状況〔 I 〕

No	施設名	カテゴリ	コンサート利用の割合
9	高崎アリーナ	カテゴリ 1	1%
33	和歌山ビッグホエール		10%
5	あづま総合体育館	カテゴリ 2	1%
34	岡山県総合グラウンド体育館		0%
47	大村市体育文化センター		0%
51	鹿児島アリーナ		1%
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	カテゴリ 3	39%
平均値			7.4%

³⁰ 国内大都市圏の主要駅は、札幌駅、仙台駅、東京駅、名古屋駅、大阪駅、広島駅、博多駅の7駅を設定。

※年間稼働日数を324³¹日とした場合の利用日数は、24.0日（324日×7.4%）
 開催件数は1件につき準備日を含め4日とした場合、コンサート開催回数は6.0件
 （24日÷4日）

〔Ⅱ〕4施設の分析(県立)

表 類似施設におけるコンサート開催状況〔Ⅱ〕

No	施設名	カテゴリ	コンサート利用の割合
33	和歌山ビッグホエール	カテゴリ 1	10%
5	あづま総合体育館	カテゴリ 2	1%
34	岡山県総合グラウンド体育館		0%
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	カテゴリ 3	39%
平均値			12.5%

※〔Ⅰ〕のうち、本施設と当該地域における施設の役割が近いと考えられる都道府県立体育館を抽出

※年間稼働日数を324日とした場合の利用日数は、40.5日（324日×12.5%）
 開催件数は1件につき準備日を含め4日とした場合、10.1件（40.5日÷4日）

④ コンサートの需要予測

①～③の調査結果を総合的に勘案し、コンサートの需要予測を行う。

なお、今後検討される諸条件（立地、規模、床仕様、設備など）により需要が変動すると考えられることから、上位予測と下位予測を行う。

ア 上位予測

民間事業者のヒアリング結果「月1件」及び類似施設における開催状況の分析結果（年10.1件）を勘案すると、上位予測としては年間12件程度が見込まれる。

イ 下位予測

民間事業者のヒアリング結果より「年5件」という回答があった。県内既存施設の鹿児島アリーナにおいて2019年度には3件のコンサート開催実績があるが、近年のアリーナツアーの動向を踏まえると、8千人規模以上を想定している本施設では、鹿児島アリーナ以上のコンサート開催が想定される。したがって、下位予測としては年間5件程度が見込まれる。

³¹ カテゴリ1～3の施設の日数稼働率平均が約88.4%であることから、年間稼働日数を324日で設定。

表 コンサートの需要予測結果

予測の種類	予測の方法	利用日数
上位予測	年間で12件コンサートが開催されると想定する。なお、コンサートは全館利用を前提に、1件当たりの日数は、準備日1日、本番日2日、撤去日1日の計4日として算出した。	48日
下位予測	年間で5件コンサートが開催されると想定する。なお、コンサートは全館利用を前提に、1件当たりの日数は、準備日1日、本番日2日、撤去日1日の計4日として算出した。	20日

⑤ コンサートの需要予測結果

上記の結果をまとめると、下記のとおりとなった。

表 コンサートの需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	48日	48日	48日	48日	48日

表 コンサートの需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	20日	20日	20日	20日	20日

3-2.その他イベントの需要予測

① 民間事業者等へのヒアリング結果の分析

民間事業者等ヒアリングにおいて得られた意見と、鹿児島アリーナにおける2017年度から2019年度の開催実績から、本施設におけるその他イベントの開催可能性について検討を行った。

検討の結果、「スポーツ以外の大会」、「学会（ポスターセッション、学術総会）³²」、「インセンティブツアー³³」、「集会・各種イベント³⁴」については開催の可能性があると考えられる。

また、「展示会（展示即売会）³⁵」、「展示会（トレードショー）³⁶」については、本施設における開催の可能性はあるが、数多く開催される可能性は低いと考えられる。

その他イベントの開催数に関する民間事業者等の意見は以下の通りである。

表 その他イベント開催数に関する民間事業者等の意見

団体名	意見
A 社	土日祝はコンサートか展示会で予定が埋まるだろう（2月や8月のイベント閑散期は除く）。ただし、床材が木製となった場合はスポーツ利用がメインとなるため月1回程度のイベント利用になるかもしれない。
B 社	毎週末学会やイベントは無理だと思う。
C 社	毎月1回のイベント開催は難しいかもしれない。 （鹿児島県内イベント需要は）大規模施設の整備により増加する可能性はある。

② その他イベント利用等に関するデータ分析

また、鹿児島県におけるその他イベントが開催される施設の現状を分析するため、「人口³⁷（千人）当たり」と「県内総生産³⁸（百億円）当たり」の「コンベンション施設収容人数³⁹」分析し、2つの指標により他の都道府県との比較を行った。

比較の結果、いずれの指標を採用しても、「全国平均値⁴⁰」に基づく「鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数⁴¹」に比べて「鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数」は低いという結果となった。

したがって、全国平均との比較においては、鹿児島県内におけるコンベンション施設は不足していると考えられる。

³² 学会等が主催または後援するイベントのうち、ポスターセッション形式で発表するものまたは講演等を行う学術総会として実施されるもの。

³³ 企業が、従業員や代理店等の表彰、研修、顧客の招待等を目的で実施する旅行。

³⁴ 各種団体が主催または後援するイベント等のうち、展示会、学会を除くもの。

³⁵ 民間事業者等が主催または後援する展示会のうち、一般消費者向け（BtoC）に実施されるもの。

³⁶ 民間事業者等が主催または後援する展示会のうち、企業向け（BtoB）に実施されるもの。

³⁷ 総務省統計局「平成27年国勢調査」より

³⁸ 内閣府「平成29年度県内総生産」より

³⁹ 日本政府観光局(JNTO)「日本コンベンション都市ガイド2021年2月版」を基に、みずほ総合研究所(株)調べ

⁴⁰ 小数点第1位以下の端数有り

⁴¹ 全国平均値を基に「鹿児島県の人口1,648千人」及び「県内総生産550百億円」から算出

表 人口(千人)当たりのコンベンション施設収容人数の指標に基づく比較

i	人口(千人)当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約13.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	21,822人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差(ii - iii)	4,055人

表 県内総生産(百億円)当たりのコンベンション施設収容人数の指標に基づく比較

i	県内総生産(百億円)当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約34.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	18,811人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差(ii - iii)	1,044人

③ 類似施設におけるその他イベントの開催状況の分析

スポーツ利用の割合が多目的利用の割合を上回るカテゴリ1～3の施設のうち、国内大都市圏の主要駅⁴²(博多駅等)から60分～120分でアクセスできる施設のその他イベントの開催状況を分析した。

〔I〕7施設の分析

表 類似施設におけるその他イベントの開催状況〔I〕

No	施設名	カテゴリ	その他イベント利用の割合
9	高崎アリーナ	カテゴリ1	1%
33	和歌山ビッグホエール		10%
5	あづま総合体育館	カテゴリ2	2%
38	岡山県総合グラウンド体育館		15%
47	大村市体育文化センター		15%
51	鹿児島アリーナ	カテゴリ3	9%
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ		8%
平均値			8.6%

※年間稼働日数を324日とした場合の利用日数は、27.9日(324日×8.6%)

開催件数は1件につき準備日を含め2日とした場合、その他イベント回数は14.0件(27.9日÷2日)

⁴² 国内大都市圏の主要駅は、札幌駅、仙台駅、東京駅、名古屋駅、大阪駅、広島駅、博多駅の7駅を設定。

〔Ⅱ〕4施設の分析(県立)

表 類似施設におけるその他イベントの開催状況〔Ⅱ〕

No	施設名	カテゴリ	その他イベント利用の割合
33	和歌山ビッグホエール	カテゴリ 1	10%
5	あづま総合体育館	カテゴリ 2	2%
38	岡山県総合グラウンド体育館		15%
20	静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	カテゴリ 3	8%
平均値			8.8%

※〔Ⅰ〕のうち、本施設と当該地域における施設の役割が近いと考えられる都道府県立体育館を抽出

※年間稼働日数を324日とした場合の利用日数は、28.5日（324日×8.8%）

開催件数は1件につき準備日を含め2日とした場合、その他イベント回数は14.3件（28.5日÷2日）

また、県内の既存施設（現体育館、鹿児島アリーナ）におけるその他イベントの開催実績を整理すると、2017年度から2019年度の開催実績平均値が、現体育館が3件⁴³（鹿児島大学入学式・卒業式、県戦没者追悼式）、鹿児島アリーナが4件⁴⁴であった。また、イベントの内容としては「スポーツ以外の大会」、「集会・各種イベント」が多かった。

表 県内の既存施設におけるその他イベントの開催実績

施設名	2017年度	2018年度	2019年度	平均値
鹿児島県総合体育センター体育館	3件	4件	2件	3件
鹿児島アリーナ	7件	4件	1件	4件

④ 新たに開催が予想されるその他イベントの需要

民間事業者等ヒアリングにおいて、可能性があるという意見があったにも関わらず、現状では、県内の既存施設（現体育館、鹿児島アリーナ）において開催がなされていないイベントとして、「学会（ポスターセッション、学術総会）」が挙げられるため、これらのイベントに関する需要を分析する。

学会（ポスターセッション、学術総会）は「会員数の多い学会が多くある医学部（鹿児島大学など）による利用の可能性はある」という意見があったことから、医学関連の学会に着目した。鹿児島県内の既存施設で開催された学会及び鹿児島県内の主催者が県外施設で開催した学会数（ポスターセッション、学術総会）⁴⁵は以下のとおり。なお、学会数は、定員数1,000名以上の施設⁴⁶における開催実績のみを抽出している。

⁴³ 2019年度は新型コロナウイルスの影響により鹿児島大学卒業式が中止となっている。

⁴⁴ 入場者数3,000人以上のイベントを抽出。

⁴⁵ 大学病院医療情報ネットワークセンター「学会・学術団体・学術集会情報」を基に、みずほ総合研究所(株)調べ。

⁴⁶ 各施設の定員数は、(公財)鹿児島観光コンベンション協会「鹿児島コンベンション施設ガイド」による。（鹿児島大学での開催実績は含む）

表 鹿児島県内の既存施設で開催及び鹿児島県内の主催者が県外施設で開催した学会数

開催年	県内既存施設で開催された件数	県内主催者が県外施設で開催した件数
2015年	3件	0件
2016年	6件	1件
2017年	6件	0件
2018年	5件	1件
2019年	4件	2件
平均	4.8件	0.8件

上表より、2015年から2019年に鹿児島県内の既存施設で開催された学会の平均値は4.8件となった。また、鹿児島県内の主催者が県外施設を利用して行った学会は5年間で計4件であった。いずれも大規模施設を利用した学会であることや、「鹿児島県内で大規模な学会の需要があるが、対応可能な施設がないため開催できていない」という意見もあったことから、学会利用において鹿児島県に大規模な施設の需要があることが推察される。

⑤ その他イベントの需要予測

①～④の調査結果を総合的に勘案し、その他イベントの需要予測を行う。

その他イベントの需要は立地、施設仕様、運営者の営業活動などにも影響を受けることから、上位予測と下位予測を行う。

ア 上位予測

類似施設におけるその他イベントの開催状況を踏まえると〔Ⅰ〕の設定の場合の開催数平均は14.0件で、〔Ⅱ〕の設定の場合の開催数平均は14.3件であることから、年間14件程度の開催の可能性がある。また、民間事業者等ヒアリング結果によると、月1回（年間12件）以上の開催の可能性があると示唆される意見もあった。したがって、上位予測としては年間14件程度が見込まれる。

イ 下位予測

民間事業者等ヒアリング結果によると、「毎月1回のイベント開催は難しいかもしれない」「閑散期（2月、8月）はイベント開催が難しい」という意見もあったが、本施設整備による需要増の可能性も指摘された。本施設整備による需要増の可能性のあるイベントとしては、「学会（ポスターセッション、学術総会）」が挙げられる。「学会（ポスターセッション、学術総会）」は民間事業者等ヒアリングにおいて可能性があるという意見があったにも関わらず県内既存施設（現体育館、鹿児島アリーナ）において開催がなされていないイベントであるため、本施設で開催される可能性がある。

以上より、下位予測としては、月1回（年間12件）程度の開催の可能性はあるが、閑散期（2月、8月）はイベント開催が難しいと想定し、年間10件（2月、8月を除く月1回）程度が見込まれる。

表 その他イベントの需要予測

予測の種類	予測の方法	利用日数
上位予測	年間で14件のその他イベントが開催されると想定する。 なお、その他イベントは全館利用を前提に、1件当たりの日数は、準備日1日、本番日1日（土日祝）の計2日として算出した。	28日
下位予測	年間で10件その他イベントが開催されると想定する。なお、その他イベントは全館利用を前提に、1件当たりの日数は、準備日1日、本番日1日（土日祝）の計2日として算出した。	20日

⑥ その他イベントの需要予測結果

上記の結果をまとめると、下記のとおりとなった。

表 その他イベントの需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	28日	28日	28日	28日	28日

表 その他イベントの需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	20日	20日	20日	20日	20日

3-3.多目的利用の需要予測結果

3-1～2 までの検討結果より、下記のとおりとなった。

表 多目的利用の需要予測結果(上位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	76日	76日	76日	76日	76日

表 多目的利用の需要予測結果(下位予測)

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	40日	40日	40日	40日	40日

4. 需要予測結果及び稼働率のシミュレーション

4-1.パターンごとの利用日数(稼働率)

「2 スポーツ利用」及び「3 多目的利用」の需要予測結果について、それぞれの上位予測と下位予測を組み合わると4パターンに分けられ、利用日数は下記のとおりとなった。

表 パターンA:スポーツ利用が上位予測、多目的利用も上位予測

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	338日	355日	317日	328日	298日
稼働率	93.9%	98.6%	88.1%	91.1%	82.8%

表 パターンB:スポーツ利用が上位予測、多目的利用は下位予測

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	302日	319日	281日	292日	262日
稼働率	83.9%	88.6%	78.1%	81.1%	72.8%

表 パターンC:スポーツ利用が下位予測、多目的利用は上位予測

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	321日	349日	317日	328日	298日
稼働率	89.2%	96.9%	88.1%	91.1%	82.8%

表 パターンD:スポーツ利用が下位予測、多目的利用も下位予測

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	285日	313日	281日	292日	262日
稼働率	79.2%	86.9%	78.1%	81.1%	72.8%

利用日数から稼働率を算出した結果、メインアリーナについてはパターンAが最も高く93.9%、最も低いパターンDでは79.2%という結果となった。

なお、スポーツ利用の割合が多目的利用の割合を上回るカテゴリ1～3の施設では、日数稼働率はメインアリーナが88.4%、サブアリーナは93.0%、武道場は86.7%であったため、本施設の稼働率は、類似施設の平均値に近い想定となっている。

4-2.用途別構成比「利用割合」（メインアリーナ）

用途別の構成比は下記のとおりとなり、いずれのパターンにおいても「アマチュアスポーツ」の「スポーツ大会」が最も割合としては大きく、カテゴリ2に分類される結果となった。

表 パターンAの用途別構成比(メインアリーナ)

	アマチュアスポーツ		プロスポーツ		スポーツ 利用計	多目的利用		多目的 利用計
	スポーツ大会	県民のスポーツ利用	興行	その他		コンサート	その他イベント	
利用日数	153日	100日	9日	-	262日	48日	28日	76日
利用割合	45.3%	29.6%	2.7%	0.0%	77.5%	14.2%	8.3%	22.5%

表 パターンB の用途別構成比(メインアリーナ)

	アマチュアスポーツ		プロスポーツ		スポーツ 利用計	多目的利用		多目的 利用計
	スポーツ大会	県民のスポーツ利用	興行	その他		コンサート	その他イベント	
利用日数	153日	100日	9日	-	262日	20日	20日	40日
利用割合	50.7%	33.1%	3.0%	0.0%	86.8%	6.6%	6.6%	13.2%

表 パターンCの用途別構成比(メインアリーナ)

	アマチュアスポーツ		プロスポーツ		スポーツ 利用計	多目的利用		多目的 利用計
	スポーツ大会	県民のスポーツ利用	興行	その他		コンサート	その他イベント	
利用日数	139日	100日	6日	-	245日	48日	28日	76日
利用割合	43.3%	31.2%	1.9%	0.0%	76.3%	15.0%	8.7%	23.7%

表 パターンDの用途別構成比(メインアリーナ)

	アマチュアスポーツ		プロスポーツ		スポーツ 利用計	多目的利用		多目的 利用計
	スポーツ大会	県民のスポーツ利用	興行	その他		コンサート	その他イベント	
利用日数	139日	100日	6日	-	245日	20日	20日	40日
利用割合	48.8%	35.1%	2.1%	0.0%	86.0%	7.0%	7.0%	14.0%

(参考) 表 主な類似施設における稼働率及び構成比(メインアリーナ)

施設名	稼働率	アマチュアスポーツ		プロ スポーツ	スポーツ 利用計	多目的利用		多目的 利用計
		大会	その他			コンサート	その他	
高崎アリーナ	80%	28%	70%	1%	99%	1%	1%	2%
あづま総合体育館	100%	70%	25%	2%	97%	1%	2%	3%
鹿児島アリーナ	91%	66%	6%	18%	90%	1%	9%	10%
大阪府立体育会館	90%	30%	20%	40%	90%	5%	5%	10%
大村市体育文化センター	95%	70%	15%	0%	85%	0%	15%	15%
岡山県総合グランド体育館	100%	70%	10%	5%	85%	0%	15%	15%
和歌山ビッグホーサル	76%	40%	40%	0%	80%	10%	10%	20%
愛知県体育館	88%	50%	0%	25%	75%	25%	0%	25%
広島県立総合体育館	95%	60%	0%	0%	60%	20%	20%	40%
宮城県総合運動公園総合体育館	96%	29%	31%	0%	60%	37%	3%	40%
大阪市中央体育館	97%	50%	0%	10%	60%	10%	30%	40%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	85%	27%	26%	0%	53%	39%	8%	47%

5. 利用者数の試算

これまでの需要予測結果から得られた利用日数をベースに、下記の算出方法に基づき、競技団体への調査結果、現体育館の利用状況、類似施設の利用状況等を踏まえ、施設やパターン別の利用者数の見込みについても試算を行った。

表 利用者数の算出方法

利用形態	利用者数	考え方
県大会	<ul style="list-style-type: none"> ●メインアリーナ 上位予測：85,784人 下位予測：80,769人 ●サブアリーナ 1,787人（上位・下位予測） ●武道施設（柔道・剣道・弓道） 21,194人（上位・下位予測） 	県内競技団体への利用意向調査結果（R元年度実績）
全国大会等	<ul style="list-style-type: none"> ●メインアリーナ ・九州大会（上位・下位予測） 1,757人（251人×7日） ・全国大会等 上位予測：2,790人（558人×5日） 下位予測：1,674人（558人×3日） 	全国競技団体への調査結果（R元年度実績）
プロスポーツ利用	<ul style="list-style-type: none"> ●メインアリーナ 上位予測：6,938人 （2,938人+2,000人×2日） 下位予測：2,938人 	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島レブナイズ公式戦（4試合）来場者数：2,938人（2019～2020シーズン実績） ・Vリーグ平均観客数：2,000人/日（2018～2019実績）
県民のスポーツ利用	<ul style="list-style-type: none"> ●メインアリーナ 7,900人（79人×100日） ●サブアリーナ 15,800人（79人×200日） ●武道施設（柔道場、剣道場、弓道場） 50,600人（253人×200日） 	<p>現体育館における年間利用者数から各種競技大会、スポーツ興行、スポーツ以外の利用を差し引いた上で、その他利用の日数（209日）で割り返した数値（R元年度実績） ⇒1日当たりの利用者数79人</p> <p>現武道館における年間利用者数から県大会利用を差し引いた上で、その他利用の日数で割り返した数値（R元年度実績） ⇒1日当たりの利用者数253人</p>
コンサート利用	<ul style="list-style-type: none"> ●メインアリーナ 上位予測：192,000人（8,000人×24日） 下位予測：80,000人（8,000人×10日） 	プロモーター等への調査結果を踏まえ、1日当たり8千人を想定
その他イベント利用	<ul style="list-style-type: none"> ●メインアリーナ 上位予測：28,000人（2,000人×14日） 下位予測：20,000人（2,000人×10日） 	プロモーター等への調査結果を踏まえ、1日当たり2千人を想定
合計	414,550～284,419人	

5-1.施設ごとの利用者数

① メインアリーナの利用者数

表 メインアリーナの利用者数(上位予測)

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	85,784人	1,757人	2,790人	6,938人	7,900人	192,000人	28,000人	325,169人

表 メインアリーナの利用者数(下位予測)

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	80,769人	1,757人	1,674人	2,938人	7,900人	80,000人	20,000人	195,038人

② サブアリーナの利用者数

表 サブアリーナの利用者数

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	1,787人	-	-	-	15,800人	-	-	17,587人

③ 武道施設の利用者数

表 武道施設の利用者数

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	21,194人	-	-	-	50,600人	-	-	71,794人

5-2.パターンごとの利用者数(全施設)

表 パターンAの利用者数(全施設)

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	108,765人	1,757人	2,790人	6,938人	74,300人	192,000人	28,000人	414,550人

表 パターンB の利用者数(全施設)

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	108,765人	1,757人	2,790人	6,938人	74,300人	80,000人	20,000人	294,550人

表 パターンCの利用者数(全施設)

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	103,750人	1,757人	1,674人	2,938人	74,300人	192,000人	28,000人	404,419人

表 パターンDの利用者数(全施設)

	県大会	九州大会	全国大会等	プロスポーツ	県民のスポーツ利用	コンサート	その他イベント	合 計
利用者数	103,750人	1,757人	1,674人	2,938人	74,300人	80,000人	20,000人	284,419人

試算の結果、いずれのパターンにおいても令和元年度の現体育館実績と現武道館実績の合計と比較して約1.5～2.0倍の利用者数になるという試算結果となった。

主な要因は、アリーナにおいて最も集客を見込めるコンサートについて、本施設で開催可能としたことである。

(参考) 表 主な類似施設における利用者数

施設名	令和元年度		平成30年度	
	利用者数	利用収入	利用者数	利用収入
宮城県総合運動公園総合体育館	490千人	209,771千円	565千人	252,411千円
あづま総合体育館 ⁴⁷	118千人	11,551千円	93千人	2,075千円
高崎アリーナ	269千人	45,805千円	274千人	33,699千円
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	386千人	161,248千円	618千人	227,538千円
愛知県体育館	718千人	184,794千円	563千人	146,323千円
和歌山ビッグホエール	276千人	62,995千円	— 千人	— 千円
大阪市中央体育館	663千人	241,844千円	772千人	267,873千円
岡山県総合グラウンド体育館	299千人	57,282千円	300千人	51,324千円
大村市体育文化センター	305千人	— 千円	303千人	— 千円
熊本県立総合体育館	258千人	78,518千円	315千人	81,508千円
鹿児島アリーナ ⁴⁸	365千人	— 千円	279千人	— 千円

⁴⁷ あづま総合体育館の令和元年度はコンサート1件を含むイベントが4件、平成30年度は利用収入減免のイベントが1件

⁴⁸ 鹿児島アリーナの令和元年度利用者数には全国高校総体関係の約6万人を含む。

第2章 大まかな施設の規模・構成の検討

1. 大まかな施設の規模・構成の検討

需要予測に当たっては、諸条件として、平成30年11月に「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言を踏まえて実施した県工業試験場跡地のシミュレーションにおける規模・構成を仮置きした。

表 需要予測において仮置きした施設規模・構成

施設構成	規模等
メインアリーナ	バスケットボールコート4面、観客席8,000席程度
サブアリーナ	バスケットボールコート1面
柔道場	3面
剣道場	3面
弓道場	近的12人立の射場(遠的利用も可能)

これら施設の規模・構成については、今後、「総合体育館基本構想検討委員会」において、具体的に検討されることとなる。

ここでは、同委員会の今後の検討に資するため、以下の論点について整理した。

論点1:施設構成の組み合わせパターン

⇒ メイン・サブアリーナ、柔剣道場、観客席の各施設構成で想定されるパターンをメリット・デメリットと合わせて整理した。

論点2:施設全体の組み合わせパターン

⇒ 論点1で整理した各施設構成の組み合わせパターンのメリット・デメリットや、類似施設の状況等を踏まえ、施設全体の組み合わせパターンを整理

2. 今後の論点

2-1.施設構成の組み合わせパターン

全国の類似施設調査の結果などを踏まえ、各施設構成で想定されるパターンと考えられるメリット・デメリットを整理した。

① メインアリーナ・サブアリーナ

今回調査回答のあった類似施設のほぼ全てにおいて、メインアリーナはバスケットボールコート4面又は3面、サブアリーナはバスケットボールコート2面又は1面となっている。

メインアリーナとサブアリーナについて、競技種目毎の実施可能な競技面数の合計が変わらなければ、利用日数や稼働率はほぼ同様であると考えられる。

表 メインアリーナ及びサブアリーナの広さによるメリット及びデメリット

メイン	サブ	概 要
バスケット4面	バスケット1面	○大会時に4試合ずつ開催でき、運営がしやすい。
	バスケット2面	○上記に加え、アップスペースや関係者の控え室としての活用が容易である。 ○サブで開催できる大会が増える。 ●整備費用・維持管理費用が大きくなる。 (費用は延床面積に比例する。)
バスケット3面	バスケット2面	○「みるスポーツ」を行う際には観客席からの距離が近い。 ●大会時に、試合が奇数となり、運営がしにくい。

※ メリット:○、デメリット:● で整理

② 柔剣道場

今回調査回答のあった類似施設では、柔剣道場各4面（計8面）～各2面（計4面）となっており、ほとんどが各2面となっている。

各4面は1施設のみであることから、今回は各3面と各2面の場合のメリット・デメリットを整理した。

なお、大会の需要については、規模の大きい大会の際にはメインアリーナ又はサブアリーナを使用すると考えられることから、面数を各2面（計4面）確保できれば大きな影響はないと考えられる。

表 柔剣道場各3面と各2面の場合のメリット及びデメリット

	概 要
柔剣道場 各3面（計6面）	○一度に6試合ずつ開催でき、規模の大きい大会を実施しやすい。 ※ただし、競技面数については、県大会レベル：4面、全国大会：8面が一般的である。 ●整備費用・維持管理費が各2面に比べ大きくなる。 （費用は延床面積に比例する）
柔剣道場 各2面（計4面）	○整備費用・維持管理費が各3面に比べ小さくなる。 （費用は延床面積に比例する）

※ メリット：○、デメリット：● で整理

[参考] 整備費用・維持管理費用について

整備費用・維持管理費については、一般的に延床面積に比例すると考えられる。

延床面積は、規模・構成等により、施設毎に異なることから、単純に比較することは困難である。このようなことから、今回は、類似施設のフロア面積の比較を行ったところ、下記のような傾向であった。

I サブ1面と2面のフロア面積

サブアリーナのコート面数1面の施設と2面の施設を比較すると、フロア面積が1.48倍(②/①)であった。

- ・サブ1面のフロア面積の平均 955㎡・・・①
- ・サブ2面のフロア面積の平均 1,411㎡・・・②

【サブ1面の施設[9]】

仙台市体育館、高崎アリーナ、大阪府立門真スポーツセンター、神戸総合運動公園体育館、高松市総合体育館、あづま総合体育館、愛知県体育館、大村市体育文化センター、宮城県総合運動公園総合体育館

【サブ2面の施設[7]】

福岡市総合体育館、東京体育館、豊田市総合体育館、大阪府立体育会館、大阪市中央体育館、広島県立総合体育館、鹿児島アリーナ

II 柔剣道場の各2面(計4面)と各3面(計6面)のフロア面積

柔剣道場の面数が各2面(計4面)の施設と各3面(計6面)の施設を比較すると、フロア面積が1.28倍(②/①)であった。

- ・各2面(計4面)のフロア面積 1,011㎡・・・①
- ・各3面(計6面)のフロア面積 1,292㎡・・・②

【柔剣道場各2面(計4面)の施設[8]】

高崎アリーナ、高松市総合体育館、福岡市総合体育館、北海道立総合体育センター、豊田市総合体育館、大阪府立体育会館、大阪市中央体育館、鹿児島アリーナ

【柔剣道場各3面(計6面)の施設[1]】

県工業試験場跡地のシミュレーション時における各3面(計6面)の数値1,292㎡を使用した。

③ 観客席(収容人数) ※メインアリーナ

今回調査回答のあった類似施設では、ほとんどが、1万人規模～5千人規模となっている。
今回は、1万人規模、8千人規模、5千人規模について、プロモーター等へのヒアリング
結果を踏まえ、メリット・デメリットを整理した。

なお、規模が大きくなれば、整備費用・維持管理費が大きくなる。

表 観客席の規模毎のメリット及びデメリット

	概 要
1万人規模	●開催の頻度が低くなることが想定され、結果的に、8千人規模と比較して、コンサートの利用日数及び稼働率が減少することが想定される。
8千人規模	○アリーナコンサートについて、一定の需要が見込まれる。
5千人規模	●同規模のアリーナコンサートでは、支出に見合った収入が見込みづらく、結果的に、8千人規模と比較して、コンサートの利用日数及び稼働率が減少することが想定される。

※メリット:○、デメリット:● で整理

[参考] 観客席の構成(固定席、可動席等)のイメージ

類似施設のうち、スポーツ利用が中心で、かつ最大収容人数が6,000人以上(中規模アリーナ)の施設の平均は、次のとおりである。

- ・最大収容人数 約8,200人
- ・固定席 約4,300席
- ・可動席 約2,000席
- ・移動席 約1,900脚

※ 移動席数は未調査のため、各施設の最大収容人数と固定席、可動席の差を移動席と仮定した。

2-2.施設全体の組み合わせパターン

各施設構成のメリット・デメリットや類似施設の状況を踏まえると、以下のような施設全体の組み合わせパターンが考えられる。

(考え方)

- ・メインアリーナの観客席（最大収容人数）については、専門家のヒアリング結果を踏まえ、8,000人規模を想定
- ・今回仮置きした条件から、メインアリーナ・サブアリーナについて、トータルの競技面数が変わらないメイン：3面、サブ：2面のパターンを想定
- ・今回仮置きした条件から、大会運営の利便性の観点等を踏まえ、サブアリーナの面数を2面に拡張するパターンを想定
- ・上記のパターンから、需要の面では影響が少ないと考えられる柔剣道場を各2面としたパターンを想定

表 施設全体の組み合わせパターン

	最大収容人数 (メインアリーナ)	競技面数			
		メインアリーナ	サブアリーナ	柔剣道場	弓道場
①今回仮置きした条件	8,000人	バスケット4面	バスケット1面	各3面	近的12人 (遠的可)
②アリーナの面数を変更 (メイン：4⇒3 サブ：1⇒2)	8,000人	バスケット3面	バスケット2面	各3面	近的12人 (遠的可)
③サブの面数を変更 (1⇒2)	8,000人	バスケット4面	バスケット2面	各3面	近的12人 (遠的可)
④③から柔剣道場の面数を変更 (各3⇒各2)	8,000人	バスケット4面	バスケット2面	各2面	近的12人 (遠的可)

(参考) 表 主な類似施設における最大収容人数競技面数

施設名	最大 収容人数 (メイン)	アリーナ		武道施設		
		メイン (バスケット)	サブ (バスケット)	柔道場	剣道場	弓道場
北海道立総合体育センター	10,000	4	2	2	2	近12人
宮城県総合運動公園総合体育館	7,063	4	1	—	—	—
あづま総合体育館	6,000	3	1	—	—	—
群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	9,000	4	2	—	—	—
高崎アリーナ	6,015	4	1	2	2	—
有明アリーナ	15,060	3	2	—	—	—
東京体育館	10,000	4	2	—	—	—
武蔵野の森総合スポーツプラザ	10,000	4	2	—	—	—
いしかわ総合スポーツセンター	6,000	4	2	—	—	—
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	10,000	4	2	—	—	—
愛知県体育館	7,407	3	1	—	—	—
京都府立体育館	8,000	3	2	—	—	—
大阪府立体育会館	6,000	4	2	2	2	—
大阪府中央体育館	10,000	4	2	2	2	—
和歌山ビッグウェーブホール ⁴⁹	8,500	4	—	—	—	—
岡山県総合グラウンド体育館	5,084	4	1	—	—	—
広島県立総合体育会館	10,001	4	2	4	4	近12人
大村市体育文化センター	5,000	3	1	—	—	—
熊本県立総合体育館	4,110	2	2	—	—	—
鹿児島アリーナ	5,700	3	2	2	2	近10人
全施設平均	9,477	3.45	1.59	2.3	2.3	—

⁴⁹ 隣接の「和歌山ビッグウェーブ」にはバスケ2面のアリーナ及び柔剣道場計4面がある。

第2回検討委員会の検討テーマ（レジュメ）

資料6

鹿児島県総合政策部スポーツ施設対策室

テーマ	想定される論点								
機能	<p>○新たな総合体育館に求められる機能</p> <p>（参考：「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会提言書」（H30年2月）抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ振興の拠点としての機能 <ul style="list-style-type: none"> ◇スポーツを「する」視点 <ul style="list-style-type: none"> ◆年齢、障害の有無等に関係なく、県民誰もがスポーツに親しむ施設としての機能 ◆多様なスポーツ競技の開催が可能な施設としての機能 ◆各種の全県的競技大会が会場を分散せず開催でき、大会運営の効率化が図られる機能 ◇スポーツを「みる」視点 <ul style="list-style-type: none"> ◆国際・全国レベルの競技大会やプロスポーツの開催ができる機能 ◆上記開催を通じ、一流のアスリートの競技を間近に観戦できる機能 ◇スポーツを「ささえる」視点 <ul style="list-style-type: none"> ◆多くの県民がスポーツに興味を持ち、理解を深め、スポーツに関わる機会につながるようなスポーツ文化を発信する拠点としての機能 ◆教育機関等と連携したスポーツを支える人材育成の機能 ●多目的利用による交流拠点としての機能 <ul style="list-style-type: none"> ◆スポーツにとどまらない、コンサートやイベントなどの開催を通じて、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が集まり、交流することができる場を提供する機能があることが望ましい ●その他 <p>○上記機能の割合（バランス）、稼働率、利用者数等</p> <p>（参考：需要予測調査結果（抜粋））</p> <table border="1" data-bbox="399 1451 1465 1644"> <thead> <tr> <th colspan="2">利用割合（メインアリーナ）</th> <th>稼働率（メイン）</th> <th>利用者数（施設全体）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> スポーツ利用 概ね76～87% （うち、スポーツ大会 43～51% 県民利用 30～35% プロスポーツ 2～3%） </td> <td> 多目的利用 概ね13～24% （うち、コンサート 7～15% その他イベント 7～9%） </td> <td>79～94%</td> <td>概ね28～41万人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○その他活用方法</p>	利用割合（メインアリーナ）		稼働率（メイン）	利用者数（施設全体）	スポーツ利用 概ね76～87% （うち、スポーツ大会 43～51% 県民利用 30～35% プロスポーツ 2～3%）	多目的利用 概ね13～24% （うち、コンサート 7～15% その他イベント 7～9%）	79～94%	概ね28～41万人
利用割合（メインアリーナ）		稼働率（メイン）	利用者数（施設全体）						
スポーツ利用 概ね76～87% （うち、スポーツ大会 43～51% 県民利用 30～35% プロスポーツ 2～3%）	多目的利用 概ね13～24% （うち、コンサート 7～15% その他イベント 7～9%）	79～94%	概ね28～41万人						

テーマ

想定される論点

規模
・
構成

○メインアリーナ，サブアリーナ，柔剣道場，弓道場など，各施設構成毎の競技面数や観客席の規模

○想定される施設全体の組み合わせパターン

(参考：需要予測調査結果(抜粋))

	最大収容人数(メイン)	競技面数			
		メインアリーナ	サブアリーナ	柔剣道場	弓道場
①今回仮置きした条件	8,000人	バス4面	バス1面	各3面	近的12人(遠的可)
②アリーナの面数を変更(メイン：4⇒3 サブ：1⇒2)	8,000人	バス3面	バス2面	各3面	近的12人(遠的可)
③サブの面数を変更(1⇒2)	8,000人	バス4面	バス2面	各3面	近的12人(遠的可)
④③から柔剣道場の面数を変更(各3⇒各2)	8,000人	バス4面	バス2面	各2面	近的12人(遠的可)

○その他，諸室・設備等

●諸室

●天井高

●空調，衛生環境

●動線

●Wi-Fi環境

●地球環境やユニバーサルデザインに配慮した施設整備

●立地に応じ想定される災害に対応できる施設整備

1 目的

新たな総合体育館の整備に関する基本構想の策定に当たり、施設の機能や規模・構成、整備予定地等の検討に必要な調査・分析を行うものである。

2 事業内容

(1) 整備に係る調査・分析
① 需要予測調査結果を踏まえた施設コンセプト（機能，規模・構成）の検討
② 施設コンセプトを踏まえた複数の整備候補地の比較・検討
③ 施設コンセプトを踏まえた整備予定地案の検討
④ 整備予定地を踏まえた施設の規模・構成の精査
⑤ 配置計画の検討
⑥ 建設費・維持管理費・収支の試算
⑦ 経済波及効果の試算
⑧ 交通計画の検討
(2) その他事項の整理
① 整備に当たっての留意事項の検討
② 整備手法・管理運営手法の検討
(3) 上記を踏まえた基本構想（案）の検討

(1) 整備に係る調査・分析

- ① 需要予測調査結果を踏まえた施設コンセプト（機能，規模・構成）の検討
 - ・ メインアリーナ，サブアリーナ，武道場，弓道場，その他諸室及び附帯する観客席，駐車場など
- ② 施設コンセプトを踏まえた複数の整備候補地の比較・検討
 - ・ 敷地面積の確保，交通利便性，周辺施設の状況，施設の収益性，経済波及効果，都市計画法等関係法令への適合性など
- ③ 施設コンセプトを踏まえた整備予定地案の検討
 - ・ 総合的な評価による具体的な整備予定地案の検討など
- ④ 整備予定地を踏まえた施設の規模・構成の精査
 - ・ 競技面数及び観覧席数などの施設規模，大会・イベント誘致や運営面等を考慮した施設構成など
- ⑤ 配置計画の検討
 - ・ 利用者動線等を考慮した施設の配置計画及びアプローチ空間，バックヤード等の外部機能を含む敷地全体のゾーニング計画など

⑥ 建設費・維持管理費・収支の試算

- ・ 需要予測調査結果における類似施設の実績等を分析し、施設の規模・構成等を踏まえた概算金額を算出

⑦ 経済波及効果の試算

- ・ 施設の規模・構成等を踏まえた経済波及効果を算出

⑧ 交通計画の検討

- ・ 公共交通，周辺道路等の交通環境を整理し，来場者の交通需要を予測
- ・ 必要な駐車場規模の検討及びアクセス動線を整理し，交通影響を分析
- ・ 上記を踏まえた交通処理等の対策を含む交通計画の検討など

(2) その他事項の整理

① 整備に当たっての留意事項の検討

- ・ 施設整備において配慮すべき事項，事例等（利便性，安全性，経済性等）の整理
- ・ 整備を進める上での諸課題，法制度（関係法令や諸規制），所要手続きを整理し，それらを踏まえたロードマップの作成及び大まかな整備スケジュールの検討

② 整備手法・管理運営手法の検討

- ・ 需要予測調査結果における類似施設の事例等を分析し，各手法の特性（利点・欠点等）や施設の規模・構成等を踏まえた手法を検討

(3) 上記を踏まえた基本構想（案）の検討

3 実施方法

専門的な知見を有するコンサルタントへの委託により実施する

- (1) 業務委託先：株式会社梓設計 九州支社
- (2) 履行期限：令和4年3月31日まで

【参考資料】

今後整備予定の県立体育館の基本構想等（機能，規模・構成等を抜粋）

- ① 栃木県【総合スポーツゾーン全体構想】（完成年度：2020年度）
…… 1～2 ページ
- ② 佐賀県【佐賀県総合運動場等整備基本計画】（完成予定年度：2022年度）
…… 3～4 ページ
- ③ 滋賀県【新県立体育館施設整備基本計画】（完成予定年度：2022年度）
…… 5～6 ページ
- ④ 香川県【新香川県立体育館整備基本計画】（完成予定年度：2023年度）
…… 7～8 ページ
- ⑤ 愛知県【愛知県新体育館基本計画】（完成予定年度：2024年度）
…… 9～10 ページ
- ⑥ 宮崎県【県体育館整備基本計画】（完成予定年度：2024年度）
…… 11 ページ
- ⑦ 鹿児島県【総合体育館等整備基本構想（H23構想）】 参考
…… 12～13 ページ

※ 各県の基本構想等に基づき当室にて整理

① 栃木県【総合スポーツゾーン全体構想】（完成年度：2020年度）

項 目	内 容
必 要 性 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設の老朽化，大規模な競技大会への対応が困難 ② H34年国体に向けた施設の整備
機 能	<ul style="list-style-type: none"> ① 生涯スポーツやレクリエーションを楽しめる施設 ② プロスポーツを含めトップアスリートが競技できる施設 ③ 競技力の向上を支援する施設 ④ 県民との協働によるスポーツ支援 ⑤ 多目的な利用を想定した施設 ⑥ 自然に親しむ憩いの空間としての施設 ⑦ 環境への配慮や周辺のまちづくりと調和した施設 ⑧ 県民の命を守る防災拠点としての施設
施設規模・ 構成	<p>【メインアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面 積：バスケ4面 ○ 観客席：5,000席程度（うち固定席3,000席） <p>【サブアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面 積：バスケ2面 <p>※ 体育館施設は，天候に左右されず，活用用途も広いため 整備運営手法は民間活力の導入を検討</p> <p>※ 体育館施設にトレーニングルームの整備，電光掲示板の設置，多目的室等の整備，コンサートや各種イベント開催に対応できる音響設備等を整備</p> <p>【武道館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面 積：柔道・剣道の併用で6面 ○ 観客席：1,500席程度 ○ サブ武道場：柔道及び剣道それぞれ2面程度を整備 <p>【弓道場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近的12人立，遠的6人立 ○ 観客席：150席程度 <p>※ 新たに整備する施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 陸上競技場兼サッカー場（新スタジアム） ② 新体育館及び新水泳場 ③ 武道館及び弓道場

施設規模・ 構成	※ 既存施設 ① 陸上競技場を補助競技場へ改修（既存の補助競技場を廃止） ② 硬式野球場（改修） ③ トレーニングセンター（廃止⇒新体育館で強化） ④ 合宿所（改修） ⑤ 県体育館分館（修繕：1Fボクシング，2F卓球場）
-------------	---

項 目	内 容
<p>必 要 性 (課 題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 国体の基準を満たしていない（H35年国体） ② 施設が老朽化している ③ 「観る」スポーツのために整備された施設がない ④ 「育てる」スポーツのための環境が十分ではない ⑤ 「憩い、にぎわい」施設となっていない ⑥ 障害者がスポーツを楽しむための環境が十分でない
<p>機 能</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) スポーツを楽しむ環境を整える <ul style="list-style-type: none"> ① 年齢・性別・障害のあるなしに関係なくスポーツを楽しむことができる施設 ② 老朽化等に対応した施設の整備 (2) 競技力の向上を支援する環境を整える <ul style="list-style-type: none"> ① アスリートの練習環境が整った施設の整備 ② 指導者の育成，競技団体の連携が図れる施設の整備 (3) スポーツツーリズムを推進できる環境を整える <ul style="list-style-type: none"> ① 全国規模の大会などの開催に必要な基準を満たした施設 ② プロスポーツのような『観る』スポーツに対応した施設の整備 ③ トップアスリートのキャンプや合宿などに対応した施設の整備 (4) 支える側も楽しめる環境を整える <ul style="list-style-type: none"> ○ 応援やスポーツボランティアを通じて運営を支えるなど，スポーツを支える側も活用できる施設の整備 (5) 多目的な利用ができる環境を整える <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツを行わない人でも憩い，集えるような施設の整備 ② コンサートなど，スポーツ以外での利用が可能な施設の整備 (6) アクセスのしやすさ（エリアに付加すべき機能） <ul style="list-style-type: none"> ① 周辺道路とのアクセスやわかりやすい案内標識の整備 ② 利用者の利便性向上のための駐車場の整備 (7) 環境への配慮（エリアに付加すべき機能） <ul style="list-style-type: none"> ① 様々な再生可能エネルギーを活用した施設の整備 ② 周辺の景観に配慮した施設の整備 (8) 防災拠点としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災拠点としての機能を備えた施設の整備

<p>施設規模・ 構成</p>	<p>【メインアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：バスケット3面 ○ 観客席：6,000席以上規模（固定席4,000席以上） <ul style="list-style-type: none"> ・施設機能 （適正なサイズ，諸室配置の構造，運営の最適効率，実用的な駐車場配置，快適な空間等） ・設備機能 （最適な照明，効果的な音響，機能的な大型映像，実用的な電源環境，快適な通信環境等） ・運営機能 （適切な観客席数，最適な座席構造，適切な広さの過不足ないトイレ，最適な飲食環境等） ・安全機能 （適切な避難経路，臨時自家発電設備，監視カメラシステム，A E D 設備，最適な動線の確保等） ・アリーナはシンプル，施設機能はマルチ ・機材を直接搬入できるフロア <p>【テナント棟】 カフェ，レストラン，スポーツミュージアム，フィットネススタジオなど</p> <p>【その他外構等】 ペDESTリアンデッキ（歩行者用デッキ），外構整備</p> <p>※ 新たに整備する施設・機能</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アリーナ新設（再掲） ② テナント棟 ③ ペDESTリアンデッキ ④ 子どもの遊び場，イベントスペースなど，人が憩い集えるような場所 <p>※ 改修・移転</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 総合体育館（改修：ボクシング・フェンシング場を整備） ② 陸上競技場（改修） ③ 水泳場（改修） ④ 庭球場（改修） ⑤ エアーライフル射撃場（移転整備） ⑥ 合宿所（リノベーション） ⑦ 駐車場（パーク内に新たに1,000台整備） <p>【廃止】 市村記念体育館（体育施設としての用途を廃止）</p>
---------------------	--

項 目	内 容
必 要 性 (課 題)	① 現体育館の老朽化 ② 施設の狭隘 ③ H36年国体に向けた施設の整備
機 能	① 競技スポーツだけでなく，生涯スポーツや健康づくり拠点 ② 大学をはじめとする周辺施設・機関と連携した全県への機能発揮 ③ すべての人に利用しやすく，交流できる場の創出 ④ 多機能，多目的な利用への対応（コンベンション会場やスポーツ興行の利用，医学的なトレーニング施設） ⑤ 緑豊かな環境の活用 ⑥ 整備・運営への民間活力の導入（トレーニングジム，レストランなどの収益機能の導入可能性を検討）
施設規模・ 構成	<p>【メインアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：2,760㎡（69m×40m）程度 [バスケット3面] ○ 天井高：14m以上 ○ 観客席：5,000席程度（固定席：約2,500席，可動・仮設席：約2,500席，観客席後方にウォームアップ用ランニングコースを設置） <p>【サブアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：1,026㎡（27m×38m）程度 [バスケット1面] ○ 天井高：12m以上 ○ 観客席：200人程度 <p>※ 体育館 トレーニング・体力測定室，多目的室，更衣室，器具庫，会議室（間仕切りなどにより複数の部屋に分割できる仕様），キッズルーム・授乳室，ロビー等（飲食提供や物品販売を想定した臨時スペースの確保，トップアスリート関連展示の検討），ユニバーサルデザインへの配慮</p> <p>※ 屋外施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多目的広場 ② 駐車場（常設：400台程度，臨時：500台程度，計 900台程度） ③ レストラン等サービス施設

施設規模・ 構成	※ その他 ① 地域防災拠点としての役割への配慮 ② 景観への配慮（滋賀県産木材などの活用） ③ 省エネルギーへの配慮（太陽光発電，LED照明など） ④ 将来の拡張性への配慮
-------------	---

④ 香川県【新香川県立体育館整備基本計画】（完成予定年度：2023年度）

項 目	内 容
必要性 (課題)	① 旧県立体育館の屋根の落下の危険性判明に伴うアリーナ部分の利用中止 ② アリーナ利用中止に伴い、近隣会場への利用希望者が増えており、近隣会場だけでは県民の体育館利用の需要に対応できない状況
機 能	【体育館の役割】 ① スポーツの国際大会・全国大会から地域の大会まで開催することができる施設であること。 ② 気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる生涯スポーツ活動の拠点となる施設であること。 ③ コンサート等のイベントが開催でき、M I C E利用も図れる香川の魅力や活力の創出に資する施設であること。 【基本的な機能】 ① 競技スポーツ施設としての機能 ② 生涯スポーツ施設としての機能 ③ 交流推進施設としての機能
施設規模・ 構成	【メインアリーナ】 ○ 面積：78m×48m (3,744㎡) 以上 [バレー4面, バスケット3面, ハンド2面] ○ 観客席：最大収容人数1万人以上。(市場調査結果等踏まえ、固定席5～6千席程度、アリーナ面に仮設イスを配置。) ○ 天井高：14m以上 ○ 床の仕様：コンクリート床とし、スポーツ利用時にはコンクリート床の上に木製床を設置する。 ○ 搬入口：2か所以上を確保し、アリーナに大型トラックが直接乗り入れること。 ○ 搬入路：アリーナ面との段差がない構造とする。 【サブアリーナ】 ○ 面積：47m×38m (1,786㎡) 以上 [バレー2面, バスケット2面, ハンド1面] ○ 観客席：固定席1,000席程度 ○ 天井高：14m以上 ○ 床の仕様：スポーツ利用を想定することから木製床

施設規模・
構成

【武道施設兼多目的ルーム】

- 面積：柔道場（または剣道場）3面の公式競技の開催が可能な広さ
46m×18m程度
- 観客席：300席程度
- 床の仕様：武道用の木製床とし、柔道の場合は、木製床の上に畳を設置する

【その他の諸室】

- ① 器具庫 ② 選手控室・更衣室 ③ トイレ ④ 会議室
- ⑤ V I Pルーム ⑥ 医務室 ⑦ 事務管理諸室
- ⑧ サービス施設（カフェ又はレストラン） ⑨ メディア関連スペース
- ⑩ エントランスホール・ロビー

※ 屋外施設整備

(1) 駐車場

敷地内に一般駐車場を100台程度、加えて、大型バス、
身障者用、V I P用駐車場

(2) 駐輪場

約520台程度以上

(3) 屋外スペース

- ① 待機列用のスペース（チケット・グッズ販売等を含む）
- ② カフェ又はレストランの整備

⑤ 愛知県【愛知県新体育館基本計画】（完成予定年度:2024年度）

項 目	内 容
必 要 性 (課 題)	① 現体育館の施設の老朽化 ② 現体育館が規模・機能とも国際基準を満たしていない。
機 能	<p>【位置づけ】 国際大会を開催するために必要な規模，機能を有することで，国際スポーツ大会などの誘致を可能とし，かつ大相撲名古屋場所の開催など現体育館が担ってきた伝統や歴史をさらに発展させていく愛知・名古屋のシンボルとなる施設を目指す。（2026年アジア競技大会に利用できるよう新体育館の整備に向けた準備をする。）</p> <p>【あり方及び機能】</p> ① 大相撲名古屋場所にふさわしい風格のある施設 ② ピンポン外交など50年以上の愛知県体育館の歴史を引き継ぐ施設 ③ 全国大会を常時開催できる施設 ④ アジア大会を始めとした国際大会を開催できる施設 ⑤ 全国レベルのコンサート，イベント，コンベンション等の拠点となる施設
施設規模・ 構成	<p>【メインアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面 積：4,500㎡程度 [バスケットボールコート4面] ○ 観客席：15,000席（固定席11,000席，可動席3,000席，仮設席1,000席） <p>【サブアリーナ棟】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面 積：1,500㎡程度 [バレーコート2面] <p>【多目的ホール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面 積：1,500㎡程度（サブアリーナと一体利用可能） <p>【諸室（観客関連エリア）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エントランス，コンコース，テナント（飲食，物販），トイレ，VIP室（15室），VIPラウンジ，VIP専用エントランス <p>【諸室（選手関連エリア）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 更衣室，監督室，ウォームアップエリア，ドーピングコントロール室，医務室，浴室 <p>【諸室（運営，メディア，関連エリア）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会議室，控室（運営室，会議室，委員長室，記録室，更衣室，審判控室，記者室，会見室，カメラマン室，更衣室）

施設規模・
構成

【諸室（施設管理関連エリア）】

○ セントラルキッチン・パントリー，警備室，警備・警察・消防控室，救護室，
倉庫，機械室，清掃室，事務室等

⑥ 宮崎県【県体育館整備基本計画】（完成予定年度:2024年度）

項 目	内 容
必要性 (課題)	① 施設の老朽化,施設基準の不適合 ② H38年国体に向けた施設の整備
機能	<p>(1) 機能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 競技を円滑に実施できる施設機能の整備 ② すべての選手・観客が快適に利用できるユニバーサルデザインの導入 ③ 高い環境性能の獲得 <p>(2) 将来性</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全国大会等の大規模な大会の開催ができる施設整備 ② 多目的な利用ができる施設整備 ③ 競技力の向上や選手育成に寄与できる練習設備の整備 <p>(3) 安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 大規模災害の発生や障害者スポーツ大会の開催も考慮した安全性の確保 ② 災害発生後の広域的な避難拠点・防災拠点としての活用 <p>(4) 経済性</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各種交付金や助成制度の積極的な活用の検討 ② P F I 手法等の民間活力の積極的な活用の検討
施設規模・ 構成	<p>【メインアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：約3,040㎡（69m×44m程度） [バスケット3面，バレー4面] コート間，コートサイドは車椅子でも十分な広さを確保 ○ 観客席：固定席2,000～3,000席，可動席1,000～2,000席で検討 ○ 天井高：12m以上を確保 <p>【サブアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：約1,700㎡（47m×36m程度） [バスケット2面，バレー3面] ○ 観客席：最大800席で検討 ○ 天井高：12m以上を確保 <p>【多目的室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 武道や健康教室，会議など多様な使い方ができるスペースを設置（概ね400㎡～600㎡程度で検討） <p>【用器具庫】 十分な面積を確保</p> <p>【諸室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医務室，会議室，放送・記録室，管理事務室，トレーニング室，浴場又はシャワー室，ロッカールームを設置 <p>【駐車場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 車を利用して2,000人が来場する場合に対応可能な800台程度 <p>※ 現在の体育館⇒当分の間活用する</p>

⑦ 鹿児島県【総合体育館等整備基本構想（H23構想）】

項 目	内 容
必 要 性 (課 題)	① 施設の老朽化と狭隘 ② H32年国体に向けた施設の整備
機 能	<p>【位置づけ】</p> <p>① 競技スポーツ振興の拠点</p> <p>② 生涯スポーツ社会実現のための拠点</p> <p>③ 鹿児島県総合体育センター体育館及び武道館の機能の継承</p> <p>【あり方及び機能】</p> <p>① 全国大会や国際大会など大規模なスポーツ競技大会に対応できる施設</p> <p>② 県民の誰もが生涯を通じてスポーツ活動の場として親しめる施設</p> <p>③ 県民の健康・体力の保持増進や競技選手の育成強化を図る施設</p> <p>④ スポーツ指導者及びボランティアの養成・研修施設</p> <p>⑤ 各種イベントにも利用できる多目的施設</p> <p>⑥ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境に配慮した施設 ・経済性に優れ、維持管理しやすい施設 ・災害時の避難施設としても利用可能な施設 ・地域の景観に配慮した施設 ・ユニバーサルデザインに配慮した施設
施設規模・ 構成	<p>【メインアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：17,000～19,000㎡ [バスケット4面] ○ 観客席：5,000席～7,000席 ○ 天井高や照明等の設置は、全国大会等が開催可能なレベルとする。 ○ 室内競技、体操、武道等の大規模な競技大会及び各種イベントに対応できる仕様とする。 ○ 多目的利用に係る整備については、ステージ、吊物設備など必要最小限のものとする。 <p>【サブアリーナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：5,000～6,000㎡ [バスケット2面] ○ 観客席：200席～300席程度 <p>【武道館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積：8,000～9,000㎡ 柔剣道場6面程度 <p>【弓道場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近的12人立、遠的6人立

施設規模・
構成

【その他諸室】

- ・控室，更衣室，シャワー室，器具庫等スポーツ競技に必要な施設
- ・トレーニング室等の県民の健康・体力の保持増進と競技者の育成強化を図る施設
- ・研修室，会議室等のスポーツ指導者やボランティアの研修等が行える施設
- ・管理事務室，体育協会事務室，応接室，機械室等の施設の維持管理等に必要な施設
- ・ロッカールーム，売店，授乳室等の利用者の便益を図る施設

【駐車場・駐輪場】

大規模なスポーツ競技大会の開催等に対応できる駐車台数を確保する。

【参考資料】

第1回総合体育館基本構想検討委員会議事概要

1 開催日時・場所

令和2年11月25日（水）午後3時から
ホテルウェルビューかごしま

2 会次第

- (1) 知事挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 委員長選出（※委員長に鹿児島大学法文学部の石塚孔信教授を選出）
- (4) 委員長挨拶
- (5) 議事
 - ① 新たな総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
 - ② 今後の検討の進め方とスケジュールについて
 - ③ 先行事例調査の実施について
 - ④ その他

3 議事概要

事務局から以下について説明

- (1) 新たな総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
 - ・ 現行の県体育館の課題や利用状況，県議会におけるこれまでの主な論議等の状況等について説明
- (2) 今後の検討の進め方とスケジュールについて
 - ・ 当委員会において，前回の「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言をベースとして，具体的な施設の機能，規模・構成等の検討を行い，その上で，整備候補地を検討し，最終的には基本構想（案）策定まで行う旨を説明し，了解を得た。
 - ・ 事務局案として，令和2年度中に2回，令和3年度中に概ね5回程度の開催を想定している旨を説明し，了解を得た。
- (3) 先行事例調査の実施について
 - ・ 事務局から「栃木県総合スポーツゾーン新体育館」，「武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都）」，「高崎アリーナ（群馬県）」，「墨田区総合体育館（東京都）」の4施設を提案
 - ・ 委員から寄せられた提案等を踏まえ，改めて事務局から調査先と実施時期について提案することを確認した。

4 委員の主な発言（要旨）

- 施設をどう建てるかではなく、どう使うかが重要である。
- スポーツ振興の拠点としての機能と多目的利用による交流拠点としての機能は物理的に並列しない。どちらに重点を置くかで施設の在り方が変わる。
- 施設の具体的な機能や規模・構成を検討する上で、将来、県として招致したいスポーツ大会の具体像を明確にすべき。
- ただ、近年では、高校クラスの全国大会であっても、運営規模は大きくなっており、招致することは容易ではない。
- 総合体育館に関する議論の始まりから10年以上が経過しているが、議論が元に戻った気がする。その間、相当の費用と労力をかけて検討してきたが、未だにその整備に至っていない。迷走してきた感があり、また、民間から見るとスピードに欠けるのではないか。
- 検討委員会における今後の議論を進めるためにも、未だ整備に至っていない理由について総括すべき。
- 民意を吸い上げることは大事だが、どこかで知事や県議会が決断をすべき。
- 2023年度のかごしま国体に間に合わせるようなスケジュールで検討するのではなく、アフターコロナを見据え、じっくりと施設の在り方を考えたい。特に、空調・衛生、動線、情報ネットワーク環境については、コロナを見据えた議論をしていただきたい。
- 経済界からは、以前からコンベンション機能を望む声がある。アスリートファーストを前提にした上で、複合的な施設がよいと考える。

- 指定管理者なのか、PFIなのかという運営の議論は必要であり、また、県の厳しい財政事情を鑑みても、整備後の継続可能な運営について議論すべきではないか。
- 施設がどのような使われ方をするのかを明確にした上で、施設の機能等を検討しなければ、様々な機能を求めてしまい、結果的に何にも使えない中途半端な施設になってしまう。
- 基本構想を夢物語に終わらせないためには、最終的にどれだけ知事が腹を括って予算を認めるかである。
- 何のために施設を整備するのかを明確にした上で、施設の規模等を検討しなければ、色々なものを盛り込み、その結果、整備費や、その後何十年も払い続ける維持管理費の額が大きくなり、次世代に大きな負担を残すことになる。
- 県の体育館として最低限維持しなければならない機能は何なのか、他の体育館で代替できる機能は何なのか押さえた上で、プラスアルファの部分を検討すべき。
- 鹿児島県が目指す施設の姿を念頭に置いて、視察すべき施設を検討すればよいのではないか。
- 日本国内の先進事例を見ることもよいと思うが、海外の民間資本で整備・運営している施設について勉強することも必要ではないか。
- 首都圏の施設もさることながら、立地環境が類似する自治体の施設の建設費や維持管理費なども知ることができればありがたい。